

科目名	生活芸術概論		
担当教員	浅野 章, 斉藤 弘久, 小松 太志, 黒沼 令, 松田 理香	対象 単位数 必修	短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 必修
開講期	I		
授業概要	生活芸術概論では芸術や美についてのさまざまな考え方に触れながら、生活と芸術（美術を中心に）の関わりを考えます。この講義では生活芸術科教員によるオムニバス形式をとり、各教員の専門を手掛かりにしながら「芸術と美」についての理解を深める一助とします。また担当教員の紹介する芸術作品などにも幅広く触れ、それらを題材として意見を出し合いながら生活と芸術の関わりを考える授業とします。		
達成目標	オムニバス形式として各教員の高度な専門性を手掛かりにしながら「芸術と美」についての理解を深めることを目標とします。なお本講義は生活芸術科必修科目、また教職必修科目となっているので全員履修してください。 《教職課程履修カルテ評価項目》 ①芸術家の感性と精神性を感じとることができたか。 ②さまざまな芸術の表現様式について知ることができたか。 ③自分の制作に生かせること、また共通するところはあったか。		
受講資格	生活芸術科1年生 単位互換特別聴講生	成績評価 方法	この授業の理解度が7～8割に達したことを前提として①出席状況70%②授業に対する関心・意欲・態度30%をその配分率を基にして総合的に判断する。
教科書	特になし (必要な資料などは各担当教員が準備します)		
参考書	新版造形の基礎技法（建帛社） 美学辞典（竹内敏雄編集/弘文堂） 「美について」（高村光太郎著・角川文庫）		
学生への要望	生活芸術という概念をよく考え、主体的、積極的な姿勢で授業に望むこと。		
オフィスタイム	授業に関する質問は各教員の授業のない時間帯に生芸研究室で受けます。		
自学自習	【事前学習】オムニバス各分野の作品集などを事前に閲覧しておく。（1時間） 【事後学習】授業実施内容を踏まえ、機会があれば美術館や博物館、画廊、デザインショップなどに足を運び、実物の作品に接してみる。（1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	生活芸術概論のガイダンス及び絵画（1）	この授業の目標と内容、および授業の進め方、授業資料・参考書などについてのガイダンス。また絵画についての考え方を解説する。
2	絵画（2）	今日、日本の文化の中で絵画ほど人々に浸透し、愛され、生活の中で欠くことのない存在になっているものはないだろう。その理由を、参考資料を用いながら少しずつ紐解いていく。
3	絵画（3）	絵画を中心とした参考作品画像を紹介、解説する。それを基に、生活の中での絵画の生かし方、楽しみ方、考え方を探っていく。
4	デザイン（1）	教員の自己紹介とグラフィックデザインにおける印刷との関係を解説。
5	デザイン（2）	「生活をデザインする」とか「人生をデザインする」とよく言われますが、いろいろ形を変えるデザインを考えて行きます。
6	デザイン（3）	ブランディングとデザインから見えてくる自己表現を考えます。
7	CGアート（1）	造形活動とキャリア形成の関係について考察します。コンピュータによる造形表現活動（デザイン含む）と担当教員のキャリアを話題として、自己のキャリアを考える契機とします。
8	CGアート（2）	生活芸術科においてコンピュータによる造形表現を学修する意義について理解を深めます。生活芸術科では、多様な芸術領域を横断して学修します。CGアートにおける学修と他領域の学修がどのような関わり合いを持ち、成果になり得るのかを過去の学生作品を紹介しながら解説します。
9	CGアート（3）	映像メディア表現に対する理解を深めます。映像メディア表現を中心として、メディアアート、デザイン分野の近年の動向を紹介しします。
10	彫刻（1）	教員自己紹介を兼ねて自分の作品を紹介しながら、彫刻という表現活動が自己形成にどのように関係してきたか解説します。
11	彫刻（2）	彫刻という芸術分野が少しでも身近に感じられるよう、生活芸術科で彫刻を学習する目的や意義など、これまでの学生の活動や作品を参考にして解説します。また生活芸術科で体験できる彫刻の技法や、制作過程など、具体的に紹介しします。
12	彫刻（3）	現代の彫刻表現について、どのような時代的変化を経て来たか、これからどのような表現が求められているか、様々な作品を紹介しながら解説します。
13	デザイン（4）	生活の中にあるデザインについて学びます。教員の自己紹介を交えて身近なデザインについて解説します。
14	デザイン（5）	デザインと編集について学びます。漠然とした日々の生活に、切り口や秩序、構造などを与えて整理する（＝編集する）作業がデザインであるということを解説します。
15	デザイン（6）	ワークショップについて学びます。ワークショップとは学びや創造のための手法であり、新しいアイデアを生み出す場として活用されています。ワークショップは、自分の価値観や認識を変化させ、固定観念を崩すことに繋がります。デザインが、グループワーク、チームワークによって成り立っているということを解説します。

科目名	造形概論	対象 単位数 必選	短期大学部 生活芸術科 2年 2単位 選択
担当教員	黒沼 令		
開講期	Ⅲ		
授業概要	造形概論は、現代社会において“ものを創る”とはどういうことなのかという、基本テーマによって進められる。創造的展開を前提とし、古今東西の絵画、彫刻、デザイン等あらゆるジャンルの造形物を中心にスライド・ビデオ・参考資料を使いながら解説し理解してゆく。そして美術の多様な広がりや魅力を実感するとともに美術に対する親しみを一層深くし、授業を通して学んだことを日々の生活に生かしてゆくという目標のもとに進められる。		
達成目標	多様な造形表現について、自己の考えや鑑賞の仕方を深める事を目標とする。 また、レポート作成・発表を経験する事や他者の発表を聞く事で、プレゼンテーション能力を高める事、様々な考え方を知り、美術に対する視野を広げる事を目標とする。		
受講資格	生活芸術科2年生	成績評価 方法	・レポート発表 40% ・ペーパーテスト 30% ・出席状況、授業態度 30% 以上の配分で評価する。 60点以上で合格とするが、授業理解度は7割以上を求める。
教科書	特になし		
参考書	・ベーシック造形技法 宮脇理 監修 (建帛社) ・その他授業に関する画集、資料などは適宜指示する。		
学生への要望	古今東西の名作に触れ、造形の面白さを再発見して下さい。 自分の美術に対する思いや考えをより探求する機会にしましょう。		
オフィスタイム	月曜日 Vコマ 水曜日 IV、Vコマ 木曜日 IV、Vコマ 彫刻室、No.2生芸研究室		
自学自習	事前学習：レポート作成、発表準備（1時間） 事後学習：発表を振り返り、ノートにまとめる（1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	・「造形概論」という言葉の意味合いと、これからの授業の展開について。 ・形（造形の偉大さ）色（語りかける色）発想のイメージについての説明。
2	美術造形用語の解説	・レポート課題発表、その後ディスカッション。 ・造形表現の諸相について解説及び説明。
3	絵画表現について	・レポート課題発表、その後ディスカッション。 ・絵画の表現性について主に主題の解説及び説明。
4	絵画表現について	・レポート課題発表、その後ディスカッション。 ・絵画の表現性について主に技法の解説及び説明。
5	彫刻表現について	・レポート課題発表、その後ディスカッション。 ・彫刻の表現性について主に主題の解説及び説明。
6	彫刻表現について	・レポート課題発表、その後ディスカッション。 ・彫刻の表現性について主に技法の解説及び説明。
7	デザイン表現について	・レポート課題発表、その後ディスカッション。 ・デザインの表現性について主に主題の解説及び説明。
8	デザイン表現について	・レポート課題発表、その後ディスカッション。 ・デザインの表現性について主に技法の解説及び説明。
9	工芸表現について	・レポート課題発表、その後ディスカッション。 ・工芸の表現性について解説及び説明。
10	現代美術について	・レポート課題発表、その後ディスカッション。 ・現代美術の表現性について解説及び説明。
11	現代美術について	・レポート課題発表、その後ディスカッション。 ・絵画の表現性について解説及び説明。
12	様々な作家について 1	・レポート課題発表、その後ディスカッション。 ・アーティストを紹介する事で具体的な表現性について解説及び説明を行う。
13	様々な作家について 2	・レポート課題発表、その後ディスカッション。 ・アーティストを紹介する事で具体的な表現性について解説及び説明を行う。
14	様々な作家について 3	・レポート課題発表、その後ディスカッション。 ・アーティストを紹介する事で具体的な表現性について解説及び説明を行う。
15	レポート	・レポート作成 ・半年間の授業のまとめ。

科目名	色彩学		対象 単位数 必修	短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 必修
担当教員	松田 理香			
開講期	I			
授業概要	<p>【授業の目的・ねらい】 この授業では色彩の基礎を総合的に学びます。物理的側面と心理的・生理的側面から概観しながら、制作活動や日常生活に生かすことのできる実践的知識を身につけます。</p> <p>【授業の概要】 色が見えるとはどういうことなのか。色の役割、色の分類や名前、心理効果、配色などについて解説します。毎授業の最後に簡単な確認問題に取り組んでいただきます。また、色覚弱者について触れるとともに、色材の混色や、配色カードを用いた色相やトーン体系を理解するための演習課題にも取り組みます。</p>			
達成目標	<p>【到達目標】 色彩に関する検定試験3級程度の内容を身につけることを目標としています。 また、色彩のユニバーサルデザインについて理解を深めてほしいと思います。</p>			
受講資格	生活芸術科1年生	成績評価 方法	確認問題（60点）・演習課題（40点）で総合的に評価しますが、講義内容の7割程度の理解を期待します。	
教科書	各単元ごとに資料を配布します。			
参考書	色彩学概説 千々岩英彰著 東京大学出版会 色彩楽のすすめ 尾登誠一著 岩波書店			
学生への要望	日常生活の中で色彩が果たす役割について考えてください。意識的に色彩に注目し関心を持っていただきたい。			
オフィスタイム	月曜日から木曜日までの授業無い時間、または放課後に生芸研究室で受け付けます。			
自学自習	<p>①事前学習 授業内容をシラバスで確認しておくこと（30分）</p> <p>②事後学習 授業で取り組んだことを踏まえて、配布資料等を参考にノートをまとめること（1時間以上）</p>			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	1. 授業の目的と進行について説明する。 2. 色を見るとはどうか。色の役割などについて考える。
2	講義：色のなりたち	<p>【講義】</p> <ol style="list-style-type: none"> 色を感じる経路 光 物体の色 色を見るための光源 色の分類 目の構造と視細胞 <p>【確認問題】 解答後に解説</p>
3	講義：混色	<p>【講義】</p> <ol style="list-style-type: none"> 混色と等色 三原色 加法混色 減法混色 色材の混色 <p>【確認問題】 解答後に解説</p>
4	講義：色の表示方法	<p>【講義】</p> <ol style="list-style-type: none"> 表示方法の分類 色名による表示 PCCS（日本色研配色体系） マンセルシステム <p>【確認問題】 解答後に解説</p>
5	講義：色の知覚的効果	<p>【講義】</p> <ol style="list-style-type: none"> 色の相互作用 色の伝達効果 他の感覚に及ぼす色の効果 <p>【確認問題】 解答後に解説</p>
6	演習：課題1・課題2-①	<p>【演習1】 ○新配色カード199aを使ってPCCS色相環の12色相を完成させる。</p> <p>【演習2-①】 ○色材の混色と着色 ①作図 一辺が250mmの正三角形を2個描き、5等分の点をもとに各辺に平行線を引いて25分割する。</p>

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
7	演習：課題2-②	<p>〔演習2-②〕（前回の続き）</p> <p>○色材の混色と着色</p> <p>②作図と着色</p> <p>三角形の分割した各頂点には単色を置く。2つの三角形の中心部はそれぞれ白と黒とし、その他は指定された混合比に従って色材を着色する。</p>
8	演習：課題2-③	<p>〔演習2-③〕（前回の続き）</p> <p>○色材の混色と着色</p> <p>③色材の混色と着色（前回の続き）</p> <p>三角形の分割した各頂点には単色を置く。2つの三角形の中心部はそれぞれ白と黒とし、その他は指定された混合比に従って色材を着色する。</p>
9	講義：色の心理的効果 演習：課題3	<p>〔講義〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 色の感情効果 2. 色のイメージ（心象） 3. 色の意味的作用／連想 <p>〔確認問題〕 解答後に解説</p> <p>〔演習3〕</p> <p>○色の心理的効果 一色のイメージをつかむー</p> <p>・PCCSの色票を使用（配布された用紙に指定された色を10mm×10mmサイズに切って貼付し、トーンとイメージの方向性に合った書くイメージの2色配色を完成させる。）</p>
10	講義：色彩調和①	<p>〔講義〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 配色と色彩調和 2. 色彩調和の原理 3. 色彩調和の形式 4. 配色の基本的な考え方 5. 色相を基準にした配色
11	講義：色彩調和②	<p>〔講義〕（前回の続き）</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. トーンを基準にした配色 7. 基本的な配色技法 8. 慣習的な配色技法 9. 秩序の原理による配色の形式 10. 配色とイメージ <p>〔確認問題〕 解答後に解説</p>
12	講義：環境と色彩	<p>〔講義〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 色彩が及ぼす働き 2. 色彩と生活環境 3. 色彩とファッションコーディネート 4. 色彩とインテリアコーディネート <p>〔確認問題〕 解答後に解説</p>
13	講義：色のユニバーサルデザイン 演習：課題4-①	<p>〔講義〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 色弱者の見え方 2. 高齢者の見え方 3. ユニバーサルデザイン 4. 見づらい例と改善例 <p>〔確認問題〕 解答後に解説</p> <p>〔演習4-①〕</p> <p>○新配色カード199aを使ってPCCS色相・トーン一覧表を完成させる。</p>
14	演習：課題4-②の続き	<p>〔演習4-②〕（前回の続き）</p> <p>○新配色カード199aを使ってPCCS色相・トーン一覧表を完成させる。</p> <p>※課題1～4のすべてを提出すること</p>
15	まとめ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義のまとめ 2. 演習課題のまとめ 3. その他 色彩に関する検定試験について

科目名	美術史		対象 単位数 必選	短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 必修
担当教員	斎藤 美保子			
開講期	I			
授業概要	<p>【授業の目的・ねらい】 美術史とは人類の遺産である美術品を正しく理解し、そこにこめられた古人の思想及び芸術性を読み解き、更に新たな歴史観を組み立てる学問である。制作に役立つ美術史を学修する。 【授業全体の内容の概要】 古代、中世、近代の西洋、東洋、日本の基礎的な美術史を学修する。鑑賞する能力、制作の糧となる知識を身につける。</p>			
達成目標	<p>【授業終了時の達成課題】（履修カルテの評価項目） ①地域により、時代により、特徴のある美術が作られてきたことを理解する。 ②重要な作品の歴史的意義を理解する。 ③重要な美術家について、的確な知識を得る。</p>			
受講資格	生活芸術科1年生（教員の免許状取得のための必修科目）	成績評価 方法	課題（黄金比の作図、水墨画、一点透視作図）（30点）、授業中の報告発表（20点）、期末試験中の記述試験（50点） 60点以上で合格だが、80点以上を目指すこと	
教科書	パワーポイントの資料を授業支援システムに添付する			
参考書	辻惟雄監修『日本美術史』、高階秀爾監修『西洋美術史』（共に美術出版社）、木村重信著『世界美術史』（朝日新聞社）			
学生への要望	授業支援システムを活用し、予習復習に努めること。美術館、図書館にも積極的に足を運び、自らの知見を広げること。			
オフィスタイム	月V・木V 創学館第5研究室			
自学自習	予習：授業で扱う時代と地域について、参考書等でおおよそのイメージを掴んでおくこと。（1時間） 復習：授業支援システムに添付したパワーポイントの資料を確認し、ノートを整理する。（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	古代ギリシア美術	紀元前6世紀から紀元前1世紀までの神殿建築、彫刻、陶器画をスライド等で確認し、その様式的変遷（幾何学、アルカイック、古典期、ヘレニスム）を理解する。
2	古典期様式のカノン	パルテノン神殿を中心に、建築用語（柱頭、ドーリア式、イオニア式、コリント式、破風など）を理解する。 黄金比の作図を行い、紀元前5世紀、古典期様式の美の規範を実感する。 神林恒道・新関伸也編著『西洋美術101鑑賞ガイドブック』より 3《ミロのヴィーナス》
3	ガンダーラ美術	幾つかの釈迦像をスライド等で確認し、ヘレニスム美術が西インドで仏教と融合し、仏像が制作された経緯を理解する。 仏教美術と偶像崇拜をタブーとするイスラム教の美術を比較する。
4	日本古代美術	神社建築（千木、茅葺、高床式、しらぎ）と寺院建築（瓦葺、塔、堂宇）の違いを理解する。 古来の「さやかな美」に、6世紀の仏教伝来後は大陸的な美が加わった経緯を理解する。
5	日本仏像美術史	飛鳥、白鳳、天平、平安、鎌倉と変化した仏像の様式史を理解する。 百済観音、興福寺仏頭、阿修羅像、勝常寺薬師如来、および慶派の諸像。 神林恒道・新関伸也編著『日本美術101鑑賞ガイドブック』より 3《観音菩薩立像》
6	中世後期キリスト教美術	巡礼路沿いのロマネスク様式（アーチ、丸屋根、回廊）と都市のゴシック様式（尖塔、ステンド・グラス）の特徴を理解する。 美術の主題となるイエスの生涯を絵画で確認する。
7	平安美術	遣唐使廃止後、急速に国風化した王朝美術を理解する。 〈源氏物語絵巻〉、〈鳥獣戯画〉、重ねの色目、寝殿造など
8	鎌倉・室町美術	建築（鎌倉五山、鹿苑寺・慈照寺）と水墨画（雪舟、雪村）を中心に、武士と禅宗の時代のわび、さびの美術を理解する。
9	初期ルネサンス	15世紀フィレンツェの美術（ウッチェロ、フラ・アンジェリコ、ポッティチェリ等）をスライド等で確認し、遠近法と解剖学的デッサンを極めた初期ルネサンスを理解する。 一点透視の作図を実習する。
10	盛期ルネサンス	16世紀初期の代表作をスライド等で確認し、西洋美術の歴史的頂点を理解する。 レオナルド・ダ・ヴィンチ、ミケランジェロ、ラファエロ等
11	桃山美術	16世紀後半の絢爛豪華な美術をスライド等で確認し、南蛮文化を受容した戦国大名の美意識を理解する。
12	バロック・ロココ・新古典主義	17世紀から19世紀にかけてのヨーロッパ絵画史をスライド等で確認し、様式的変遷を理解する。
13	浮世絵とジャポニスム	江戸時代後期の浮世絵木版（歌麿、北斎、広重など）を鑑賞し、それらがフランスでジャポニスムを引き起こした経緯を理解する。
14	19世紀・20世紀美術	日本と欧米の交流が盛んになった時代の、東西の美術をスライド等で確認し、その新しい主義主張を理解する。
15	まとめ	様式の展開をふりかえり、重要な作品の歴史的意義を理解する。

平成29年度

科目名	美学		対象 単位数 必修	短期大学部 生活芸術科 2年 2単位 必修/短期大学部 文化学科 2年 2単位 選択
担当教員	斎藤 美保子			
開講期	IV			
授業概要	<p>今期の主題は「美術と文学」である。 [授業の目的・ねらい] 美術と文学は時代の雰囲気伝えるものであり、相互に影響しつつ発展してきたことを理解する。 [授業内容の概要] 『源氏物語』と「源氏絵」、『椿姫』とミュシャのポスターなど、関係の密接な文学と美術を精査し、その美学を理解する。</p>			
達成目標	<p>[授業終了時の達成目標] ①美術の主題を正しく理解できるようになる。 ②美術の文学的な主題を理解し、深い鑑賞ができるようになる。 ③文学でなければ表現できないこと、美術でなければ表現できない物を理解できるようになる。</p>			
受講資格	生活芸術科 2年生	成績評価 方法	授業中の課題（40点） 学年末の記述式試験（60点）	
教科書	必要に応じて、授業支援システムに資料を添付する。			
参考書	授業内で指示する。			
学生への要望	ノートだけでなく、スケッチブックも持参すること。 週末等に、美術館やギャラリーを見て回る。参考文献を読み上げること。			
オフィスタイム	月曜V・木曜V 第5研究室			
自学自習	事前学修：当日の内容を、シラバスと授業支援システムに張り付けた講義資料に目を通し、確認しておくこと（30分） 事後学修：スケッチブックと照らし合わせ、ノートを整理しておくこと。また授業を踏まえて、身の回りに美を見出すこと（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	美術史の復習。担当者の近況報告。 今期の美学の主題「美術と文学」を紹介し、授業の進め方と学修の仕方、成績評価について説明する。
2	古代ギリシア・ローマ	パルテノン神殿の彫刻からギリシア神話を読み解く。大英博物館エルギンマーブルを紹介する。沢柳大五郎著『ギリシア美術』
3	キリストの生涯	中世から近世にかけての名画から、聖書に示されたキリストの生涯を読み解く。
4	マリアの生涯	中世から近世にかけての名画から、聖書に示された聖母マリアの生涯を読み解く。
5	源氏物語と源氏絵	紫式部の『源氏物語』を主題とした美術を比較し、後世への影響を検討する。
6	ギリシア神話のルネサンス	中世には忘れられていたギリシア神話だが、15世紀、ルネサンスの絵画で復活した。その表現を検討する。
7	東西交流のロココ様式	ブーシェが描いた絵画から、18世紀フランス人が理解した東洋を読み解く。
8	古典派の歴史画	ダヴィッドの描いた歴史画を理解し、その表現を検討する。
9	ロマン派の物語画	ドラクロワがゲーテ著『ファウスト』に付した石版画を精査し、両者の美学的影響関係を理解する。
10	ロマン派の美学	ドラクロワ、ショパン、ジョルジュ・サントの諸作から、ロマン派の美術、文学、音楽に通底する美学を理解する。
11	日本の歴史画・物語画	明治時代以降、洋画の影響を受けて描かれるようになった、日本の歴史画・物語画を検討する。
12	美術の文学離れ	虚構から現実へという美学の変化を、印象派の作品を例に検証する。
13	アール・ヌーヴォーの文学的 主題	ミュシャのポスター《ジスモンダ》《メディア》《椿姫》を理解し、文章表現と視覚表現を比較検討する。
14	シュルレアリスムの文学的 主題	20世紀の芸術運動シュルレアリスムの文学的主题を、ダリの作品を例に解説する。 諸橋近代美術館について紹介する。
15	まとめ	授業中に指示した小レポートの講評と、今後の生涯学習の進め方を助言する。記述式の試験について説明する。

科目名	デザイン概論		対象 単位数 必選	短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択
担当教員	小松 太志			
開講期	II			
授業概要	<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>①デザインの概念的理解を深める。 ②デザインにかかわる周辺の知識を深める。 ③近年のデザインにかかわる動向について理解を深める。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>①近代デザイン史を概観する。 ②「デザイン」という概念について参考文献をもとに討議する。 ③「デザイン思考」をもとに、課題解決手法としてのデザインについて学修する。 ④ソーシャルデザインの事例をもとに社会的課題を解決するためのデザインについて学修する。 ⑤デザインに関わる法律について学修する。</p>			
達成目標	<p>①近代デザイン史の概要を理解している。 ②デザインのあり方について思索する基盤を築いている。 ③社会との関わりの中でデザインの果たす役割について理解している。 ④デザインに関わる法律について理解している。</p>			
受講資格	生活芸術科1年	成績評価 方法	授業の総合的理解度が7割程度に達していることを基本として、以下の基準で成績評価する。 ①授業への態度・意欲 (30%) ②各授業内容に対応した小レポート (30%) ③期末レポート (40%)	
教科書	適宜、ハンドアウトを配布する。			
参考書	適宜、提示する。			
学生への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・デザインに対して積極的に思考すること。 ・授業で紹介する書籍について一冊以上は読むこと。 			
オフィスタイム	水曜日 10:30~12:00、14:30~16:00 No.2生芸科研究室			
自学自習	事前：授業内容をテキストで確認しておくこと (1時間以上) 事後：授業内容を踏まえて、ノートをまとめること (1時間以上)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	ガイダンス⇒デザインの履修、授業内容について説明する。
2	近代デザインの歴史的背景と思想	18世紀の産業革命から現代までのデザインの変遷について、その歴史的背景とデザイン思想について主要なトピックを挙げて概説する。
3	デザインとは何か(1)	「HELLO WORLD 「デザイン」が私たちに必要な理由」(Alice Rawsthorn. 石原 薫訳. フィルムアート社, 2013.) 第1章「デザインとは何か」をもとに、歴史的視座に立ってデザインの価値と本質について考える。
4	デザインとは何か(2)	「ポール・ランド、デザインの授業」(Michael Kroeger. 三角和代訳. 株式会社ビー・エヌ・エヌ新社, 2008.) 1995年に行なわれたアリゾナ州立大学におけるポール・ランドの講演をもとに編集されている。「対話1」では、講演前の教授陣との打ち合わせの内容が記されている。この対話をもとに、デザインの定義と本質について考える。
5	デザインとは何か(3)	「ポール・ランド、デザインの授業」(Michael Kroeger. 三角和代訳. 株式会社ビー・エヌ・エヌ新社, 2008.) 「対話2」では、講演におけるポール・ランドと学生の対話の様子が記載されている。この対話をもとに、デザインの定義と本質について考える。
6	デザインと芸術(1)	TED2007「Treat design as art (デザインをアートとして捉える)」 (https://www.ted.com/talks/paola_antonelli_treats_design_as_art) MoMAの建築・デザイン部門のシニアキュレーターであるパオラ・アントネッリのTEDでの講演を視聴する。
7	デザインと芸術(2)	「HELLO WORLD 「デザイン」が私たちに必要な理由」(Alice Rawsthorn. 石原 薫訳. フィルムアート社, 2013.) 第7章「デザインと芸術をけって混同してはならない理由」をもとに、「デザインは芸術の一分野か」という命題に対して考察しながら、デザインの本質を捉える。
8	デザインと芸術(3)	「HELLO WORLD 「デザイン」が私たちに必要な理由」(Alice Rawsthorn. 石原 薫訳. フィルムアート社, 2013.) 第7回に続いて、第7章「デザインと芸術をけって混同してはならない理由」をもとに、「デザインは芸術の一分野か」という命題に対して考察しながら、デザインの本質を捉える。
9	デザイン思考(1)	「デザイン思考が世界を変える」(ティム・ブラウン. 千葉 敏生 訳. 早川書房, 2014.) 著者は世界的なデザインコンサルタント会社IDEOの社長兼CEOであるティム・ブラウン。 本書をもとにデザイン思考について学修する。
10	デザイン思考(2)	「デザイン思考が世界を変える」(ティム・ブラウン. 千葉 敏生 訳. 早川書房, 2014.) 著者は世界的なデザインコンサルタント会社IDEOの社長兼CEOであるティム・ブラウン。 本書をもとにデザイン思考について学修する。
11	社会とデザイン(1)	社会的課題に対してその解決策をデザインする行為をソーシャルデザインと呼ぶ。ソーシャルデザインの事例を紹介し、地域社会におけるデザインの果たす役割について考える。
12	社会とデザイン(2)	社会的課題に対してその解決策をデザインする行為をソーシャルデザインと呼ぶ。ソーシャルデザインの事例を紹介し、地域社会におけるデザインの果たす役割について考える。
13	デザインと法律「表現の自由」	・「表現の自由」は日本国憲法21条によって保証されている。「表現」に携わる上で知っておくべき権利とその規制について学修する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
14	デザインと法律「知的財産権」(1)	・知的財産権とは、人の精神的活動によって生み出された成果の経済的価値や文化的価値の保護と利用促進を目的とするさまざまな法規の総称である。デザイン、芸術に携わる上で知っておくべき知的財産権法について学修する。
15	デザインと法律「知的財産権」(2)	・知的財産権について学修する。事例をもとに、知的財産権について理解を深める。

平成29年度

科目名	画法幾何学		対象 単位数 必修	短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 必修
担当教員	佐久間 保一			
開講期	I			
授業概要	製図の基本的な決まりを学ぶ。 3次元立体形状の図的表現および形状処理について、図法幾何学を通して学び、自分の考えているものを伝達、表現する方法をマスターする。			
達成目標	製図の基本的な決まりを学ぶ。 3次元立体形状の図的表現および形状処理について、図法幾何学を通して学び、自分の考えているものを伝達、表現する方法をマスターする。			
受講資格	生活芸術科1年生	成績評価 方法	課題の提出と出席状況による	
教科書	建築とデザインのための図形科学（培風館 ￥2,205-）			
参考書	特に指定しない			
学生への要望	基本的な図形をマスターし、その知識を活用できるようにすること			
オフィスタイム	（授業中のみ）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	画法幾何学とは
2	器具の使い方	製図器具の使い方、線の練習、基本的な図法の演習
3	実習	直線と円、円弧と円周に関する図法
4	実習	正多角形の作図
5	実習	いろいろな図形を描く、サイクロイド、黄金分割など
6	実習	前回の続き
7	実習	立体を表現するⅠ、アイソメトリックスの原理と作図法
8	実習	アイソメの作図
9	実習	立体を表現するⅡ、1焦点によるパースの原理と作図法
10	実習	基本課題の作図法の理解と作図
11	実習	立体を表現するⅢ、2焦点によるパースの原理と作図法
12	実習	基本課題の作図法の理解と作図
13	自習	実際の建物の平面図と立面図をトレースする。 図面と完成予想図を比較して、平面図を立面図の関係を比較する。
14	実習	作図の継続
15	講評会	作品の提出、作品の講評

科目名	デッサン I	対象 単位数 必修	短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 必修
担当教員	浅野 章		
開講期	I		
授業概要	「デッサンは芸術の実体そのものである。輪郭をなぞるだけではデッサンにはならない。デッサンと いうものはただ線だけを問題にしてはいけないのだ。デッサンもまた独自の表現であり内的なフォルムであり計画であり肉付けなのである。－アングル（画家）」 このようにデッサンには最小限の材料や色彩によって表現されたシンプルな美しさと厳しさがああります。本授業では造形活動の基礎となるよう「見る・描く」を繰り返すことで物の本質に迫り、描写力と表現力を養います。		
達成目標	デッサン素材の鉛筆や木炭・パステルなどの特質を十分に感じ、理解できるよう努力しましょう。そのうえで個性ある、自分だけのデッサン空間を創りあげていくことを目標とします。 【履修カルテの評価項目】 ①モチーフ（対象）にどれだけ迫ることが出来たか。 ②自分なりに工夫をし、表現の幅を広げることが出来たか。 ③集中力を継続し、最後まで描ききることが出来たか。		
受講資格	生活芸術科 1年生	成績評価 方法	この授業の理解度が7～8割に達したことを前提として①授業への参加態度・積極性70%②提出作品の各自目標達成度30%をその配分率を基にして総合的に判断する。
教科書	特になし		
参考書	例－アングル・ダヴィンチ・ラファエロ・ロダンなどのデッサン集・その他、授業に関連する画集等は適宜指示をする。		
学生への要望	すべての造形活動の基礎であるデッサンの意味をよく考え、主体的、積極的な姿勢で授業に望むこと。		
オフィスタイム	授業に関する質問は毎週火曜日から金曜日の授業のない時間に生芸研究室で受けます。		
自学自習	【事前学習】 授業に関連するデッサン集などを事前に関覧、研究しておく。（1時間） 【事後学習】 実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。（1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション及びク ロッキー－1	オリエンテーション ・開講中の授業内容や使用道具の説明。 人物クロッキー ・学生が輪になり、順番にモデルになる。
2	クロッキー－2	人物クロッキー ・クロッキー（Croquis）とは速写、略画など短時間で行なう写生の事。 ・学生が輪になり、順番にモデルになる。
3	鉛筆デッサン	人物を描く ・鉛筆デッサンは形や調子を正確にとったり造形的な線の成り立ちを理解したり的確で微細な描写に優れた特性を持っている。 ・学生同士、お互いにモデルになりながら描く。
4	クロッキー－3	人物クロッキー ・学生が輪になり、順番にモデルになる。 ・鉛筆、葦ペンとインクなど修得状況に応じて画材を変えてゆく。
5	クロッキー－4	人物クロッキー ・学生が輪になり、順番にモデルになる。 ・鉛筆、木炭、パステルなど修得状況に応じて画材を変えてゆく。
6	木炭デッサン－1	石膏像デッサン ・木炭デッサンは柔らかな材質感と描きやすさ、パン等の消し具を使い、消したり描いたり自由で簡単に出来るという特性を持っている。 ・石膏デッサンは形態、質感、動勢、構図などの要素が含まれる造形の基礎的な訓練の一つである。
7	木炭デッサン－2	石膏像デッサン ・石膏デッサンは形態、質感、動勢、構図などの要素が含まれる造形の基礎的な訓練の一つである。 ・デッサンも2週目に入り全体の形を整えながら細部も仕上げていく。
8	フロッタージュ	フロッタージュ ・フロッタージュとは柔らかい紙の下に凹凸のある物を置き紙の上から鉛筆等の描画材料でこすり、形を浮きあがらせるという技法。 ・開成山公園で木の枝、葉、石等を自由にフロッタージュをする。（木炭・鉛筆・チョーク等使用）
9	鉛筆デッサン	静物デッサン ・油彩画のモチーフ（描画対象）を鉛筆デッサンする。 ・的確で微細な描写のできる鉛筆デッサンをする事によってデッサン力と油彩画の描き込みのヒントになるという両方の効果が望める。
10	映像メディア表現－1	建物の入った風景と人物の構成（コラージュ絵画） ・各自カメラを持ち麓山公園まで自由に取材をして、それを次週までにプリントしておく。 ・他人とは違う自分だけの切り口で、更に様々なアングルで興味ある場所を撮影をする。
11	映像メディア表現－2	建物の入った風景と人物の構成（コラージュ絵画） ・前回取材した写真を並べ簡単な講評会 ・その写真を自由に拡大・縮小コピーして台紙に貼り、更に彩色をして作品にする。
12	壁画制作－1	壁画共同制作 ・グループに分かれて、更紙などにそれぞれメンバーのアイデアや構想を描く。 ・それらのエスキース（下絵）の中からメンバーでディスカッションし少しずつ作品のイメージを作ってゆく。
13	壁画制作－2	壁画共同制作 ・前回同様、メンバーでディスカッションし更に壁画作品のイメージを詰めてゆく。 ・構想がまとまったら大型ダンボールに制作を始める。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
14	壁画制作－3	壁画共同制作 ・大型ダンボールに制作をする。 ・あまり細かくなならないように大きく作業をする。
15	壁画制作－4	壁画共同制作 ・大型ダンボールに制作をする。仕上げにはいる。 講評会 ・ダンボール壁画の講評会、意見交換及びデッサン I の総評。

科目名	デッサンⅡ	対象 単位数 必選	短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択
担当教員	浅野 章		
開講期	Ⅱ		
授業概要	デッサンは線的な手段を用いて対象の輪郭、構造、量感、質感などを探り出す技術の総称です。また絵画表現の基礎的な物の見方の訓練としても大切なものであります。ここではデッサンⅠの授業内容を引き継ぎ更に一步踏み込んで学生各自の個性に合わせ、徐々に表現内容、素材の幅を広げていきます。		
達成目標	デッサン素材の鉛筆や木炭・パステルなどの特質を充分に感じ、理解できるよう努力しましょう。そのうえでより確かな描写力と表現力を養うことを目標とします。		
受講資格	生活芸術科 1年生	成績評価 方法	この授業の理解度が7～8割に達したことを前提として①授業への参加態度・積極性70%②提出作品の各自目標達成度30%をその配分率を基にして総合的に判断する。
教科書	特になし		
参考書	授業に関連する画集等は適宜指示する。 例一画家のスーラ・ゴッホ・セザンヌ・ピカソなどのデッサン集		
学生への要望	デッサンすることの意味をよく考え、主体的、積極的な姿勢で授業に望むこと。 【事前学習】授業に関連するデッサン集などを事前に関覧、研究しておく。(1時間) 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理し、必要場合はポートフォリオなどを製作する。(1時間)		
オフィスタイム	授業に関する質問は毎週火曜日から金曜日の授業のない時間に生芸研究室で受けます。		
自学自習	【事前学習】授業に関連するデッサン集などを事前に関覧、研究しておく。(1時間) 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理し、必要場合はポートフォリオなどを製作する。(1時間)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション及びフロッターージュ	オリエンテーション ・開講中の授業内容や使用道具の説明。 ・フロッターージュとは柔らかい紙の下に凹凸のある物を置き紙の上から鉛筆等の描画材料でこすり、形を浮きあがらせるという技法。 ・学内や開成山公園で木の枝、葉、石等を自由にフロッターージュをする。(木炭・鉛筆・チョーク等使用) ・放射線量に細心の注意を払い、長時間の屋外滞在は避け効率よく実施する。
2	人物クロッキーー1	・学生が輪になり、順番にモデルになる。 ・修得状況に応じて画材、色の幅を広げてゆく。(鉛筆、木炭、水彩絵具など使用)
3	人物クロッキーー2	・学生が輪になり、順番にモデルになる。 ・修得状況に応じて画材、色の幅を広げてゆく。(鉛筆、木炭、水彩絵具など使用) ・二人ポーズや1分クロッキー
4	石膏像デッサンー1	石膏像デッサン ・石膏像デッサンは形態、質感、動勢、構図などの要素を正確に把握し客観的に造形化する基礎的な訓練である。 ・細部にとらわれず、たえず全体とのバランスを見る。
5	石膏像デッサンー2	石膏像デッサン ・対象をよく観察し、形態や大きな構造をとらえる。 ・全体的な像の量感、質感をはっきりさせ反射光などの淡い調子も意識しながら完成へと向かう。
6	鉛筆構成デッサン	二つ以上の手を自由に組み合わせて鉛筆デッサンする。 ・強く握ったり、やさしく握ったり、いろいろ角度を変えたりして自分の手をよく観察する。 ・自分が美しいと思う手の表情が出来たら、いくつか組み合わせてデッサンする。
7	色彩を使った構成デッサン	二つ以上の手を自由に組み合わせてパステル、水彩等の色材でデッサンする。 ・観察が大事で基本的には前回の鉛筆デッサンと同じだが、ここでは描画材料の特質を引き出し色彩的効果を考えながら制作する。
8	静物デッサンー1	トレーシングペーパーを含んだ静物を描く。 ・トレーシングペーパーと学生個人の私物を自由に構成して透明、不透明を描き分ける。 ・単なる静物デッサンと違いトレーシングペーパーから少し透けて見える部分の微妙な違いを描き分ける事により物の質感の把握、鉛筆の技法等の向上が期待できる。
9	静物デッサンー2	透明フィルムを含んだ静物を描く。 ・透明フィルムと学生個人の私物を自由に構成して透明、不透明を描き分ける。 ・前回のねらいとほぼ同じだが透明感及び光沢を表現するという事でより高度なデッサン力が要求される。
10	人物木炭デッサンー1	人物木炭デッサン ・モデルを使い最初は数分のクロッキーから始め、幾つかのポーズにしぼり、その中から多数決で固定ポーズを決める。 ・生きている人のまさに生き生きとした表情を自分なりに表現してみる。
11	人物木炭デッサンー2	人物木炭デッサン ・モデルを使い固定ポーズで描く。 ・全身の立体感などを忘れずに顔や手の表情もよく観察して完成へと向かう。
12	自由制作ー1	自由制作 ・ダンボールを支持体として使った、一年間の集大成としての作品創り。 ・ダンボールは木炭や鉛筆描画の他、地塗りや彩色、更には切り張りといった加工がしやすい材料である為、様々な可能性がある。 ・スケッチブックや更紙に構想を練る。
13	自由制作ー2	自由制作 ・基本的には平面制作であるが多少の立体表現は問わないので各自、自由な発想とダイナミズムを忘れずに構想を詰める。 ・カラーージュを含める学生は材料を集める。 ・ある程度、エスキース(下絵)が煮詰まったら制作を開始する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
14	自由制作ー3	自由制作 ・制作も山場にはいり、作品が徐々に具現化してくる。 ・墨汁や彩色、あるいは接着剤使用で乾燥が間に合わない場合はドライヤー等も使い来週の完成を目指す。
15	自由制作ー4	自由制作 ・作品制作も佳境に入り細部の仕上げなど、まとめにはいる。 講評会 ・各自、自由制作の作品を並べ制作コンセプトを発表する。その後学生との意見交換も含めた講評会にする。 ・デッサンⅡ及び1年間の総評。

科目名	水彩画	対象 単位数 必選	短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択
担当教員	斉藤 弘久		
開講期	通年		
授業概要	水彩絵の具は水を加えるだけで手軽に使用でき、誰もが子供の頃、手にした事のあるなじみの深い彩色材料です。しかも他の描画材料との併用も容易であり、この素材的特性から水彩画は柔軟性とみ、多くの可能性を秘めた表現媒体であるといえます。		
達成目標	授業では、水彩絵の具のほかにその他の水性絵の具の使用法も含めて、それらの素材的特性の理解と技術の習得を目指し、技法の開拓を図ることにより更に水彩画の表現の可能性を追究していきます。		
受講資格	生活芸術科1年生	成績評価 方法	次の項目を評価の観点とする。 ①授業目標の達成度が70%以上であること。(配点80点) ②授業に対する関心・意欲・態度(配点20点)
教科書	使用しません。		
参考書	造形ハンドブック2(造形社) 新しい画材ガイド「水彩」(美術出版社) 其他参考作品や図録については適宜指示します。		
学生への要望	水彩絵の具の表現方法の工夫。例えばティッシュで拭き取ったり、ニードルで引っ掻いたり様々な表現を納得のいくまで追究すると共に制作そのものを楽しみましょう。		
オフィスタイム	授業に関する質問や相談は毎週金曜日を除く毎日空きコマにNo2. デザイン室で受けます。		
自学自習	空き時間を利用して画材に触れるよう心がけてください。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	授業の目標と内容について、および授業の進め方について話します。 水彩画の特色と歴史および用具と材料について話します。 透明絵の具と不透明絵の具、透明描法と不透明描法について説明します。
2	風景画 <ガイダンス>	キャンパス風景写生の制作をします。校舎内外の描きたい場所を選びます。 作品参考例により構図(近景、中景、遠景の関係と組み合わせ等)を考えます。
3	風景画 <淡彩スケッチ>	○キャンパス風景写生 キャンパスの描きたい所2~3箇所をスケッチして淡彩で塗ります。 クローキータンには鉛筆、コンテ、葦ペンに墨、クレヨンなど、各種の素材を試みましょう。
4	風景画 <淡彩スケッチ>	○キャンパス風景写生 大気に漂う瑞々しい季節感を肌で感じ取りながら、描いている対象の中心(主題)を見極めて行きましょう。 八つ切り画用紙2~3枚)を使用します。
5	風景画	○キャンパス風景写生 淡彩スケッチ2~3枚の中から制作場所を選び、四つ切り水彩用紙(コトマン紙)に描きます。 はじめに淡彩スケッチをした感動を大切にしながら、更に新鮮なテーマ性を求めましょう。
6	風景画	○キャンパス風景写生 主題と構図の関係を考えながらデッサンしましょう。 対象の風景に含まれる建物、草木、その他いろいろな物には省略や移動を加えて主題の明確化に繋がる効果的な構図を考えましょう。
7	風景画	○キャンパス風景写生 あくまでも自分の描きたい場所で、楽しく制作を進めることが大切です。 彩色に入ります。(透明描法、不透明描法の何れでもよいです。)
8	風景画	○キャンパス風景写生 各自の主題、コンセプトに合わせ、基調色を選びましょう 全体の色調のバランスを考えながら、大まかに色を置いていきます。
9	風景画	○キャンパス風景写生 細部に拘らずに太めの筆でのびのびと彩色しましょう。 混色と重色、暖色と寒色(進出色と後退色)、透明色と不透明色などの効果的な使用方法を試みましょう。濁色に注意しながら彩色して行きます。
10	風景画	○キャンパス風景写生 遠近感と色彩との関係にも留意しましょう。 構図や色調が各自の主題表現に沿っているかどうか確認しながら、追究し、加筆しましょう。
11	静物画 <ガイダンス>	写生による具象的表現で制作を行います。 各自が描きたいモチーフを選び、2箇所モデルを設置します。(2グループでモデル設置作業を行います。) 写生による写実的表現を原則としますが、心象的表現を試みてかまいません。
12	静物画	○写生による具象的表現 2種類のモデルより一つ選びます。 複数のモチーフの中から各自描きたいものを選び、画面構成を考えながらデッサンします。 モチーフは多すぎないように注意しましょう。 半切または全紙の水彩用紙を使用します。
13	静物画	○写生による具象的表現 画面上でのモチーフの省略や移動も試みて、各自のコンセプトをより明確に表現できるような構図を考えましょう。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
14	静物画	○写生による具象的表現 単なる写生に止まらず、モチーフに対する感情移入を大切にして、心象表現の試みなども可能です。 表現の方針が決まり、デッサンが済んだら彩色に入ります。
15	静物画	○写生による具象的表現 色は透明描法、不透明描法および両者の併用など各自のコンセプトに合わせて使い分けましょう。
16	静物画 (前期実施授業の続き)	○写生による具象的表現 絶えず、画面全体の調和に注意しながら、制作を進めましょう。 彩色方法は各自のコンセプトにより、透明描法、不透明描法を有効の使い分けましょう。
17	静物画	○写生による具象的表現 水彩絵の具の使用法に重点を置きますが、必要に応じて異素材の効果的な使用も試みましょう。 <例>アクリル絵の具、ジェッソ、コンテ、パステル、クレヨン、墨、各種素材のコラージュ等
18	静物画	○写生による具象的表現 絶えず、画面全体の調和に注意しながら、インパクトをより高める工夫も試みましょう。
19	静物画	○写生による具象的表現 納得のいくまで描きこみ完成を目指しましょう。 但し、描きすぎには注意しましょう。色の濁りやコンセプトからそれるなどの問題をまねきます。
20	静物画	○講評会 完成した作品を並べ、講評します。 制作者がコメントをのべ、次に教員が講評を述べます。 他の学生や教員間の意見や質問の交換も行い、作品制作のより高い目標達成を目指します。
21	人物画	○ガイダンス 若い女性着衣像(人物モデル2名使用)を制作します。 参考作品(学生作品実物、有名作家作品/画集などからの抜粋)を提示し、人物画の基本的構図を知らせます。 表現方法は、写生による写実的表現、または心象表現の何れでもよく、制作者のコンセプトによっては、形態の単純化やデフォルメ、異素材の使用も試みましょう。用紙はワトソン紙又は白ボール紙の半切又は全紙を使用します。
22	人物画	○若い女性の着衣像 くじ引きによって2グループに別れクロッキーを行います。モデルの特徴や雰囲気、身体の造形的な美しさを把握しましょう。 3ポーズの中から希望の多数決で固定ポーズを決めます。
23	人物画	○若い女性の着衣像 モデルを観察し、その内面性や背後に感じられるものを自分なりの方法で表現しましょう。 単なる写生に止まらずに各自が表現したい構図や構成を試みましょう。 固定ポーズ4回(20分間×2、15分間×2)のデッサンで各自のコンセプトを絞り、彩色方法(透明、不透明、コラージュその他)及び用紙の種類、大きさを決めましょう。
24	人物画	○若い女性の着衣像 デッサンを行う中でどんな表現方法で制作するのか(写実、デフォルメ、抽象その他、背景の工夫等)、各自のコンセプトをより明確にしてデッサンを完成させましょう。
25	人物画	○若い女性の着衣像 彩色に入ります。 透明描法、不透明描法、透明不透明併用、コラージュ他、異素材の利用など多様な表現方法も柔軟性を持って取り入れるなど追究心を持って制作を楽しみましょう。
26	人物画	○若い女性の着衣像 彩色を続けます。 常に画面全体をみて、色調が各自のコンセプトに合致しているかを確認しながら、前回同様、追究心を持って制作を楽しみましょう。
27	人物画	○若い女性の着衣像 常に画面全体の調和に注意しながら、自分の目指す主題表現となっているか確認しながら描き込みを進めましょう。
28	人物画	○若い女性の着衣像 人物と背景の関係を再度見つめて、自分の表現意図に沿っているかどうか確認しながら、より高い効果を目指して追究加筆を繰り返しましょう。
29	人物画	○若い女性の着衣像 画面全体の色調が快いものとなっているかどうか絶えず、配慮しながら、よりインパクトを高める工夫と、より高い作品の完成度を目指しましょう。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
30	人物画	○若い女性の着衣像の講評会 完成した作品を並べて講評します。 制作者がコメントを述べ、次に教員が講評します。 他の学生や教員間の意見や質問の交換も行い、作品制作のより高い目標達成を目指します。

科目名	油彩画Ⅰ	対象 単位数 必修	短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 必修
担当教員	浅野 章		
開講期	通年		
授業概要	今日、日本の文化の中で絵画ほど人々に浸透し愛され生活の中で欠くことの出来ない存在になっているものはないでしょう。その中でも油絵は油彩絵具によるもので非常に便利で自由、しかも高度な表現が可能とされています。それだけに可能な限りの新造形運動の実験の場となり総合的な表現スタイルをとっている分野でもあります。本授業では基礎的な技法の理解と研究を行ない、一步一步自分の作品の制作向上を計りながら、更にデッサンの授業と相まって描写力と表現力を養うことを目的とします。		
達成目標	油彩画の特質を十分に感じ、理解できるよう努力しましょう。そのうえで個性ある、自分だけの絵画空間を創りだしていくことを目指します。		
受講資格	生活芸術科1年生他	成績評価 方法	この授業に対する理解度が7~8割に達したことを前提に①授業への参加態度・積極性70%②提出作品の目標達成度30%をその配分率を基にして総合的に判断する。
教科書	特になし		
参考書	・新技法シリーズ絵画技術入門…佐藤一郎(美術出版社) その他、授業に関する画集、資料などは適宜指示する。		
学生への要望	油彩画を描くことの意味をよく考え、技法に早く慣れ、自分の世界を創っていく。また主体的、積極的な姿勢で授業に望む。		
オフィスタイム	授業に関する質問は毎週火曜日から金曜日の授業のない時間に生芸研究室で受けます。		
自学自習	【事前学習】授業に関連する画集などを事前に関覧、研究しておく。(1時間) 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、機会があれば美術館や画廊などに足を運び、実物の油彩画作品を鑑賞してみる。(1時間)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	ガイダンス ・1年間の授業内容や使用道具の説明。 ・道具点検…各自、油絵具や筆などを点検して不足分を画材店に発注する。(F20号キャンバスを含む)
2	静物画ガイダンス	静物画のモチーフ(描画対象)制作 ・静物画制作では身近な“物”の美しさを発見し自分の内的感情を追求してゆく。 ・全員でモチーフ倉庫に行き各自好きな静物を選びそれを組み合わせてモチーフを作る。
3	静物画制作-1	作品制作 ・スケッチブックに鉛筆でエスキース(下絵)をする。 ・静物の全体感を損なわないように気を使いながら構図を徐々に決めてゆく。
4	静物画制作-2	作品制作 ・油絵具、オイルなどの基本的な使用方法を具体的に解説しながら指導する。 ・まず、固有色の固定観念を排除し、頭をやわらかくして好きな色を好きな所に自由に塗ってみる。 ・参考作品や画集などを適宜、見せながら指導する。
5	静物画制作-3	作品制作 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る。 ・ペインティングナイフ(油彩画専用コテ)や絵画用砂を使いマチエール(画肌)や画面に変化を与える。
6	静物画制作-4	作品制作 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る。 ・光の方向や取り入れ方を工夫して画面に変化を与える。
7	静物画制作-5	作品制作 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る。 ・色彩の取り入れ方を工夫する。例えば反対色は強烈な効果が生まれ、同色系は統一した効果が生まれる。
8	静物画制作-6	作品制作 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る。 ・画面の中で強調、又は不必要な物を省略しながらいい形を探してゆく。
9	静物画制作-7	作品制作 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る ・密度のある描き込みによって物と空間の関係をしっかりと把握してゆく。
10	静物画制作-8	作品制作 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る ・制作もかなり進んできたが、描きこむ事によって表現が硬くならないように注意する。
11	静物画制作-9	作品制作 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る。 ・かなり完成に近づいてきたが完成まで手を抜かず細心の注意をはらう。 ・描きだしの新鮮さを思いだし、色が沈んでいる場合は彩度を上げてみる。
12	静物画制作-10	作品制作 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る。 ・画面全体の形とバランスを再確認しながら完成へと向かう。
13	静物画制作-11	作品制作 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る。 ・最後の微調整では画面全体の形とバランスを整えて完成にする。
14	静物画講評会	静物画講評会 ・仕上がった静物画作品を並べ画集や参考作品も用いながら講評する。 ・質問や意見交換なども多角的に行い油彩画静物制作の目標達成を目指す。
15	風景スケッチ	・Ⅱ期から始まる風景画の為の準備スケッチ。各自構内を自由に散策しながら好みの場所を探す。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
16	風景画ガイダンス	※これよりⅡ期 風景画ガイダンス ・風景画制作のポイントや具体的方法を指導する。 ・参考作品や画集などを適宜、見せながら指導する。 ・各自、大学構内の好きな場所で油彩画制作を視野に入れながらスケッチをする。
17	風景画制作－1	作品制作 ・風景写生は外に出て自然の美しさの中にひたり、そこでの一体感から始まる。 ・風景画制作の為の場所（大学構内）を決定する。 ・カリキュラムスケジュール上、期間が晩秋に至るので風景の色合いや雰囲気の変化なども考慮に入れる。
18	風景画制作－2	作品制作 ・スケッチブックに鉛筆でエスキース（下絵）をする。 ・参考資料や画集、デッサン集も適宜見せながら指導する。
19	風景画制作－3	作品制作 ・キャンバスに入る風景の全体感を損なわないように気をつけながら構図を徐々に決めていく。 ・光の方向や取り入れ方を工夫して画面に変化を与える。
20	風景画制作－4	作品制作 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものをとらえる。 ・色彩の取り入れ方を工夫する。例えば木の葉の塊、道、空などを色面で捉えてみる。
21	風景画制作－5	作品制作 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものをとらえる。 ・画面の中で強調、又は不必要なものを省略しながら形を探っていく。
22	風景画制作－6	作品制作 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものをとらえる。 ・密度のある描き込みによって物と空間の関係をしっかりと把握していく。 ・画面をまとめるにあたり、もう一度画面構成を確認してみる。
23	風景画制作－7	作品制作 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものをとらえる。 ・完成に近づいてきたが完成までは手を抜かず細心の注意をはらう。
24	風景画講評会	風景画講評会 ・仕上がった風景画作品を並べ画集や参考作品も用いながら講評する。 ・質問や意見交換も行い油彩画風景制作の目標達成を目指す。
25	人物画ガイダンス及び人物画制作－1	作品制作（クロッキー） ・人物モデルによるクロッキーを4回実施し、その中から固定ポーズを決める。 ・スケッチブックに鉛筆でエスキース（下絵）をする。
26	人物画制作－2	作品制作（固定ポーズ） ・人物の全体感を損なわないように気をつけながら徐々に構図を決めていく。 ・単純な描写だけではなく、人物の内に秘められたキャラクターや美しさなども同時に表現しようと試みる。
27	人物画制作－3	作品制作（固定ポーズ） ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものをとらえる。 ・光の方向や色彩の取り入れ方なども工夫してみる。
28	人物画制作－4	作品制作（固定ポーズ） ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものをとらえる。 ・バックとの関係に気をつけながら人物の顔や衣装を描き込んでいく。
29	人物画制作－5	作品制作（固定ポーズ） ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものをとらえる。 ・最後の微調整では画面全体の形とバランス（特に人物とバックの関係）を整えて完成へと向かう。
30	人物画講評会及び油彩Ⅰの総評	講評会 ・仕上がった人物画作品を並べ、画集や参考作品も用いながら講評する。 ・質問や意見交換も行い油彩画人物制作の目標達成を目指す。 ・油彩画Ⅰの一年間の総評及び反省

平成29年度

科目名	油彩画Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 生活芸術科 2年 2単位 選択
担当教員	浅野 章		
開講期	通年		
授業概要	油彩画Ⅰで学習したことを基礎として更に、より多様な表現方法や技術について演習し、技法とその効果を充分理解した上で作品を制作していきます。また、それと並行させながら様々な技法を試みて油彩の技術的向上を目指すと共に発想の柔軟性・表現の更なる深化を追究します。		
達成目標	油彩画の特質を充分に感じ、理解できるよう努力しましょう。そのうえで個性ある、自分だけの絵画空間を創りあげていくことを目指します。		
受講資格	生活芸術科2年生	成績評価 方法	この授業の理解度が7～8割に達したことを前提として①授業への参加態度・積極性70%②提出作品の各自目標達成度30%をその配分率を基にして総合的に判断する。
教科書	教科書は使用せず適宜資料を配布します。 参考書や画集については適宜指示します。		
参考書	新版油彩画の技法（美術出版社）、絵具材料ハンドブック（中央公論美術出版）その他、授業に関する画集等は適宜指示します。		
学生への要望	油彩画を描くことの意味をよく考え、徹底的に自己の表現を追究すると共に遊び心を持って制作を存分に楽しむ。		
オフィスタイム	授業に関する質問・相談は、毎週火曜日～金曜日の授業のない時間に生芸研究室で受けます。		
自学自習	【事前学習】授業に関連する画集などを事前に関連、研究しておく。また絵具や画材についても調べておく。（1時間） 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、機会があれば美術館や画廊などに足を運び、実物の油彩画作品を鑑賞してみる。（1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	・授業目標と内容、および授業の進め方について。 ・油彩画の特色や歴史についての復習。 ・道具点検…各自油絵具や筆などを点検して不足分を画材店に発注する。（制作キャンバス含む）
2	自由画制作－1	・表現は具象・抽象のどちらでも可。モチーフは静物・風景・人物・構成画など選定は自由。 ・各種モチーフの組み合わせによる心象表現でも可。 ・F50号以上のキャンバス及びF4～6号程度の小キャンバスを数枚準備する。
3	自由画制作－2	基底材（キャンバス）の準備… ・木枠に布を張る（2人組共同作業）。または市販の張りキャンバスを使用。各自の制作意図によっては下地塗りもおこなう。 ・表現したいテーマについての取材やモチーフ選定、セット。
4	自由画制作－3	エスキース制作… ・スケッチやエスキース（下絵）などで構想を練る。 ・表現のイメージがある程度かたまったら50号または小キャンバスに制作を始める。
5	自由画制作－4	作品制作… ・表現意図をなるべく明確にする。 ・固有色の固定観念を排除し、頭を柔らかくして好きな色を好きな所に自由に塗ってみる。
6	自由画制作－5	作品制作とさまざまな技法の試み… ・50号制作と並行させて、小キャンバスにさまざまな技法を試みる。 ・大画面の絵具の乾燥を待つ間や発想の転換を図る際に有効。
7	自由画制作－6	作品制作とさまざまな技法の試み… ・さまざまな技法を試みながら作品制作における表現の深化を図っていく。 ・技法例－グリザイユ（単色描画法）、グラッシ（おつゆ描き）、ドリッピング（液状絵の具の滴下）、フロッチ（刷り込み）、フロウイング（流し込み）、スクラッチング（引っかき）など。
8	自由画制作－7	作品制作とさまざまな技法の試み… ・さまざまな技法を試みながら作品制作における表現の深化を図っていく。 ・技法例－絵の具の掻き取りや盛り上げ、異物混入、コラージュ、デカルコマニー、フィンガーペインティング、プリンティング、その他。
9	自由画制作－8	作品制作とさまざまな技法の試み… ・制作意図に応じて様々な技法を画面に応用したり、発想の転換を図ることなどを繰り返しながら画面上で各自の表現意図を絞り込んでいく。
10	自由画制作－9	作品制作… ・画面構成や色調が自分の表現意図に沿ったものであるかどうかを確認しながら、また全体の関係を見ながら制作を進める。
11	自由画制作－10	作品制作… ・細部に捕らわれず、絶えず画面全体の関係をみながら制作を進める。 ・画面上で強調したい部分と抑えるべき部分のバランスを考え、魅力のある画面創りを目指す。
12	自由画制作－11	作品制作… ・制作意図が十分に表現できているかどうかを確認しながら制作を進める。 ・参考作品や画集などを適宜、見せながら指導する。
13	自由画制作－12	作品制作… ・完成に近づきつつある作品を前に、更により深い表現を追究する。 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係をもの観る。
14	自由画制作－13	作品制作… ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係をもの観る。 ・画面全体の構成要素のバランスを整えて完成に向かう。
15	自由画制作 <講評会>	・完成した作品を並べて一点一点講評する。 ・学生、教員の意見交換もおこない、作品制作のより高い目標達成を目指す。
16	後期ガイダンス	・授業の目標と内容、および授業の進め方についての説明。 ・用具材料の点検。（不足品については各自で購入補充する。）

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
17	自由画制作－1	<p>作品制作…主題の設定とモチーフの取材および選択</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマの設定は自由とする。表現は具象、抽象どちらでも可。モチーフの設定も自由。 ・自分のテーマに合うモチーフや作家の作品等について取材し、制作のコンセプトを明確にしていく。
18	自由画制作－2	<p>作品制作…基底材（キャンバス）の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木枠に布を張る（2,3人組み共同作業）。F80号～F150号の木枠を準備する。 ・各自の制作意図によっては下地塗りもおこなう。
19	自由画制作－3	<p>作品制作…エスキース制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由な発想で画面構成を試みる。 ・油彩画Ⅰや油彩画Ⅱ前半で試みた様々な技法も応用して自分の制作意図を絞り込んでいく。
20	自由画制作－4	<p>作品制作…</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木炭エスキース、淡彩画、小キャンバスの利用などいろいろ試みながら発想の柔軟性を図り、画面構成をおこなう。
21	自由画制作－5	<p>作品制作…</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構想がまとまり、画面構成がおおまかに決まったら大画面制作をはじめる。 ・F80号以上のキャンバスを使用。
22	自由画制作－6	<p>作品制作…</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細部に捕らわれず、絶えず画面全体の関係を見ながら制作を進める。 ・自分の制作意図をより効果的に表現するための、技法の選択と組み合わせも考えながら進める。
23	自由画制作－7	<p>作品制作…</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制作意図に応じて、さまざまな技法を画面に取り入れてみる。 ・発想の転換を図ったりしながら画面上で自分の表現意図を絞り込んでいく。
24	自由画制作－8	<p>作品制作…</p> <ul style="list-style-type: none"> ・画面構成や色調が自分の表現意図に沿っているかどうかを確認する。 ・全体の関係をみながら制作を進める。
25	自由画制作－9	<p>作品制作…</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制作意図に沿っているかどうかを確認しながら制作を進める。 ・画面の中で強調、又は不必要な物を省略しながらいい形を探っていく。
26	自由画制作－10	<p>作品制作…</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細部に捕らわれずに絶えず画面全体の関係をみながら制作を進める。 ・画面上で強調したい部分と抑えるべき部分のバランスを考え、魅力のある画面づくりを目指す。
27	自由画制作－11	<p>作品制作…</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の制作意図やイメージに沿った作品となっているかどうかを絶えず確認する。 ・密度のある画面作りを目指して更に描き込む。
28	自由画制作－12	<p>作品制作…</p> <ul style="list-style-type: none"> ・完成に近づきつつある作品に対して、より深い表現となるよう追究する。 ・描きだしの新鮮さを想いだし、色が沈んでいる場合は彩度を上げてみる。
29	自由画制作－13	<p>作品制作…</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて強調や省略等を加え、画面全体の構成要素のバランスを整えて魅力ある完成度の高い画面づくりを目指す。 ・制作もかなり進んできたが、描きこむことによって表現が硬くならないように注意する。
30	自由画制作 <講評会>	<p>完成した作品を並べ講評。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問や意見交換なども多角的に行い油彩画制作の目標達成を目指す。 ・油彩画Ⅱの総評。

科目名	日本画Ⅰ		対象 単位数 必選	短期大学部 生活芸術科 2年 2単位 選択
担当教員	青砥 昭修			
開講期	Ⅲ			
授業概要	日本画Ⅰでは、日本画の伝統的な基礎技術及び知識を、実習を通して指導する。			
達成目標	<p>日本画に使用する岩絵具は、科学的に作られた蛍光絵具を除けばあらゆる絵具の中で最も発色がよく、美しい。その発色の良さ、美しさ故に日本画は西洋絵画に於ける陰影表現とは異なり、固有色と装飾性を通して物の表情を表す独特の表現方法を確立した。この授業では日本画の伝統的な岩を砕いて作る岩絵具、泥を乾燥させた水干絵具、貝殻を磨り潰して作る胡粉、植物染料、動物染料を使用しながら日本画の伝統的な技術の基礎を学ぶ。和紙や絹、箔に彩色していく上で、絵具の定着のさせ方、発色のさせ方、筆の使い方には知識と技術が必要だが、授業では和紙を使い、これらを分かり易く解説し学習していく。</p> <p>[その他]</p> <p>①鉛筆デッサンではH系の鉛筆は使用しないこと。着色する際に絵具をはじくため。 ②彩色は主に彩色筆、平筆を使用する。彩色の際は絵具の水分が多すぎないように注意すること。 ③(※1)(※2)・岩絵具は岩を砕いて作る絵具で粒子の大きさに、白、13番、12番・・・5番のようにわかる。番号の大きいものほど粒子が細かい。白はもっとも粒子が細かい。同じ色でも粒子が細かいほど彩度が低く白っぽい。 (※3)・岩絵具は砂なので、水彩絵具や油絵具のように絵具同士が混ざり合わない。しかし、水干絵具は泥絵具なので混ぜることができる。ただし、ほとんどの水干絵具は比重が異なるので彩色する際はよく攪拌すること。岩絵具でも攪拌して筆に含ませれば混ざり合ったような色にはなる。しかし粒子が粗いものは慣れないと難しいので、細かいもの(13番～12番程度)で混ぜる方がよい。 ・岩絵具の彩色は毎回完全に絵具が乾いてから次の色を置く。乾く前に次の色を置くと、絵具が動いて濁ってしまう。また、水分が多いと綺麗に発色しない。</p>			
受講資格	生活芸術科 2年生	成績評価 方法	制作態度(30%)・提出作品(70%)とする。	
教科書	授業の進度に応じて提示する。			
参考書	特に指定しない。			
学生への要望	自主性を望む。[備考] 1. ガイダンスでは制作工程のプリントを配布する。 2. 道具や材料(各自で用意)①F8のパネル、②画用紙(F8よりも四辺それぞれ1cmずつ大きいもの)、③水張りテープ、④鉛筆(H～3B)、⑤消しゴム または 練ゴム、⑥水干絵具 または 岩砕絵具、⑦パレット、⑧水入れ 3. モチーフ(各自で用意)果物、花などの有機物2品と、無機物小物2～3品 4. 専用の筆(学校に申し込む)日本画用の筆 ※購入する筆の種類及び本数は別紙配布する。「申込書」を参照のこと。			
オフィスタイム	金曜3・4限のNo.2生芸研究室など。			
自学自習	授業内で学んだことを自分のものとするよう事後学習を2時間程度行ってください。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	日本画の特色、制作工程・道具の説明など
2	実習	◎ドーサ液を作る(※ドーサ液の作り方は別紙配布プリントを参照のこと。授業でも指導する) □ドーサ引き：麻紙の表に2回、裏に1回塗る。毎回完全に乾かす。 □デッサン：モチーフをセットする。それぞれの物が隣接し過ぎたり、縦横或いは斜め一列に並んだりしないようにバランスを考えて配置する。又、画面内の配色にも気を使う。モチーフの配置が決まったら、鉛筆で全体の当たりを付け、構図を見る。(※着色写生だからといって怖がらずに調子をたっぷり置く)
3	実習	□デッサン：それぞれの物の特徴を表す箇所を描き込みながら、全体のバランス(位置関係、大きさ、質感の違い、重さ、固有色<明度差に置き換える>など)を確認する。この段階では細部を描き込むことはせず、B系の鉛筆で描き進める。(※ドーサ引きが終わっていない場合は続きを行う。)
4	実習	□デッサン：主役となるものの細部を少しずつ描き込んでいく。描き込みのバランスを見ながら、必要に応じて他の物の細部も描き込んでいく。花や白っぽい物には調子を描き過ぎないように注意すること。
5	実習	□デッサン：全体に細部を描き込んでいく。複雑な所もぼかすことなく描写していく。物が台に接している部分の影は必要以上に描かなくてよい。
6	実習	□デッサン：画面を離れた所から見て描き込みの不足している部分を確認し、モチーフの印象を意識しながら描写していく。調子が付き過ぎた箇所は練りゴムで取っておく。調子のバランスを確認するには画面を逆さにしたり、鏡に映してみると良い。刷毛に水を含ませ画面全体の鉛筆の粒子を拭き取る。B系の鉛筆も発色は良いが、画面に粒子が残れば彩色する時に色が濁るので、彩色する前に鉛筆の粒子を拭き取っておく。
7	実習	□着色写生：全体に固有色下地となる色を置いていく。但し、白っぽい物に下地の色を置く時は、最終的に濁ったり、別紙色にならないように気をつけること。水彩絵具は置いた色が完全に乾いてから次の色を置く。全体に下地を置いたら物の固有色をやや薄めに置く。この段階では画面全体を見て、次に加筆していく箇所を確認し、筆の入れ方、主役と脇役の加筆密度、加筆の手順を決める。
8	実習	□着色写生：全体に細部を描き込んでいく。複雑な所もぼかすことなく描写していく。物が台に接している部分の影は必要以上に描かなくてよい。
9	実習	□着色写生：モチーフの印象に近づけるよう更に描写していく。固有色、質感、重さなどを描き分け仕上げていく。
10	実習	□トレース：仕上がった着色写生にトレーシングペーパーをあて、鉛筆で輪郭をトレースする。模様などもはっきりしている場合はトレースする。 □本紙(雲肌麻紙)張り込み：着色写生をパネルから剥がし、本紙を水張りする。 □骨描き：本紙とトレースしたトレーシングペーパーの間に念紙(転写紙)を挟んでトレースする。トレースが完了したら墨でトレース線の上をなぞる。 □絵具の溶き方・筆の使い方を説明 □胡粉の作る □胡粉を塗る □骨描きの終わった本画に胡粉を塗る。骨描きの線が彩色の邪魔にならない程度に弱めること、発色を良くするために様子をしながら何度か塗る。(※毎回、完全に絵具が乾いてから次の色を置く) □背景に下地の色を置く：水干絵具又は岩絵具の白(びやく/※1)で背景を塗る。この下地は仕上がりの背景色に影響するので慎重に色を決める。※上から塗る絵具の定着を良くするために、下地の絵具に盛り上げ又は方解末12番(※2)を混ぜてもよい。 □彩色①：全体に下地の色を置いていく。この段階では水彩絵具、白(びやく)、13番(※2)など粒の細かい絵具で彩色する。岩絵具は一旦暗くすると明るくするのが困難なので明るめに彩色していく。また、他の絵具のように混ぜても別の色を作れない(※3)ので、基本的には重ね塗りして下の色を透かせることで微妙な色を表現する。 □彩色②：徐々に絵具の粒子を荒くして固有色を置いていく。粒子が荒くなると絵具を均一に塗るのが難しいので(砂のため)、塗るというより置くという感じで筆を使う。モチーフと背景の色の調和が取れるように進める。むやみに粒子の粗い絵具を使うと物の質感が損なわれることもあるので、色だけではなく粒子の大きさも考慮する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
11	実習	<p>□トレース：仕上がった着色写生にトレーシングペーパーをあて、鉛筆で輪郭をトレースする。模様などもはっきりしている場合はトレースする。 □本紙（雲肌麻紙）張り込み：着色写生をパネルから剥がし、本紙を水張りする。 □骨描き：本紙とトレースしたトレーシングペーパーの間に念紙（転写紙）を挟んでトレースする。トレースが完了したら墨でトレース線の上をなぞる。 □絵具の溶き方・筆の使い方を説明 □胡粉の作る □胡粉を塗る：骨描きの終わった本画に胡粉を塗る。骨描きの線が彩色の邪魔にならない程度に弱めることと、発色を良くするために様子を見ながら何度か塗る。（※毎回、完全に絵具が乾いてから次を塗る） □背景に下地の色を置く：水干絵具又は岩絵具の白（びやく/※1）で背景を塗る。この下地は仕上がりの背景色に影響するので慎重に色を決める。※上から塗る絵具の定着を良くするために、下地の絵具に盛り上げ又は方解末12番（※2）を混ぜてもよい。 □彩色①：全体に下地の色を置いていく。この段階では水彩絵具、白（びやく）、13番（※2）など粒の細かい絵具で彩色する。岩絵具は一旦暗くすると明るくするのが困難なので明るめに彩色していく。また、他の絵具のように混ぜても別の色を作れない（※3）ので、基本的には重ね塗りして下の色を透かせることで微妙な色を表現する。 □彩色②：徐々に絵具の粒子を荒くして固有色を置いていく。粒子が荒くなると絵具を均一に塗るのが難しいので（砂のため）、塗るというより置くという感じで筆を使う。モチーフと背景の色の調和が取れるように進める。むやみに粒子の粗い絵具を使うと物の質感が損なわれることもあるので、色だけではなく粒子の大きさも考慮する。</p>
12	実習	<p>□トレース：仕上がった着色写生にトレーシングペーパーをあて、鉛筆で輪郭をトレースする。模様などもはっきりしている場合はトレースする。 □本紙（雲肌麻紙）張り込み：着色写生をパネルから剥がし、本紙を水張りする。 □骨描き：本紙とトレースしたトレーシングペーパーの間に念紙（転写紙）を挟んでトレースする。トレースが完了したら墨でトレース線の上をなぞる。 □絵具の溶き方・筆の使い方を説明 □胡粉の作る □胡粉を塗る：骨描きの終わった本画に胡粉を塗る。骨描きの線が彩色の邪魔にならない程度に弱めることと、発色を良くするために様子を見ながら何度か塗る。（※毎回、完全に絵具が乾いてから次を塗る） □背景に下地の色を置く：水干絵具又は岩絵具の白（びやく/※1）で背景を塗る。この下地は仕上がりの背景色に影響するので慎重に色を決める。※上から塗る絵具の定着を良くするために、下地の絵具に盛り上げ又は方解末12番（※2）を混ぜてもよい。 □彩色①：全体に下地の色を置いていく。この段階では水彩絵具、白（びやく）、13番（※2）など粒の細かい絵具で彩色する。岩絵具は一旦暗くすると明るくするのが困難なので明るめに彩色していく。また、他の絵具のように混ぜても別の色を作れない（※3）ので、基本的には重ね塗りして下の色を透かせることで微妙な色を表現する。 □彩色②：徐々に絵具の粒子を荒くして固有色を置いていく。粒子が荒くなると絵具を均一に塗るのが難しいので（砂のため）、塗るというより置くという感じで筆を使う。モチーフと背景の色の調和が取れるように進める。むやみに粒子の粗い絵具を使うと物の質感が損なわれることもあるので、色だけではなく粒子の大きさも考慮する。</p>
13	実習	<p>□トレース：仕上がった着色写生にトレーシングペーパーをあて、鉛筆で輪郭をトレースする。模様などもはっきりしている場合はトレースする。 □本紙（雲肌麻紙）張り込み：着色写生をパネルから剥がし、本紙を水張りする。 □骨描き：本紙とトレースしたトレーシングペーパーの間に念紙（転写紙）を挟んでトレースする。トレースが完了したら墨でトレース線の上をなぞる。 □絵具の溶き方・筆の使い方を説明 □胡粉の作る □胡粉を塗る：骨描きの終わった本画に胡粉を塗る。骨描きの線が彩色の邪魔にならない程度に弱めることと、発色を良くするために様子を見ながら何度か塗る。（※毎回、完全に絵具が乾いてから次を塗る） □背景に下地の色を置く：水干絵具又は岩絵具の白（びやく/※1）で背景を塗る。この下地は仕上がりの背景色に影響するので慎重に色を決める。※上から塗る絵具の定着を良くするために、下地の絵具に盛り上げ又は方解末12番（※2）を混ぜてもよい。 □彩色①：全体に下地の色を置いていく。この段階では水彩絵具、白（びやく）、13番（※2）など粒の細かい絵具で彩色する。岩絵具は一旦暗くすると明るくするのが困難なので明るめに彩色していく。また、他の絵具のように混ぜても別の色を作れない（※3）ので、基本的には重ね塗りして下の色を透かせることで微妙な色を表現する。 □彩色②：徐々に絵具の粒子を荒くして固有色を置いていく。粒子が荒くなると絵具を均一に塗るのが難しいので（砂のため）、塗るというより置くという感じで筆を使う。モチーフと背景の色の調和が取れるように進める。むやみに粒子の粗い絵具を使うと物の質感が損なわれることもあるので、色だけではなく粒子の大きさも考慮する。</p>
14	実習	□彩色：細部の描写をしていく。
15	実習	□彩色：最後の彩色をする前に画面を離れた所から見て全体のバランスを見る。どこにどう加筆していくかを決めて仕上げに入る。 □講評：作品の完成度、絵具の定着性と発色、制作工程での問題点などを各人の意図に即して講評していく。

科目名	日本画Ⅱ		対象 単位数 必選	短期大学部 生活芸術科 2年 2単位 選択
担当教員	青砥 昭修			
開講期	Ⅳ			
授業概要	日本画Ⅰを受講した学生が望ましい。日本画Ⅱでは日本画Ⅰをもとに更に専門的な技術及び知識を指導するが、日本画Ⅱからの受講生には日本画の伝統的な基礎技術及び知識を指導する。			
達成目標	<p>■日本画Ⅰを受講した学生 1. 絹本(絹に描く) 2. 箔をつかった制作 3. 揉み紙に描く の三つの中から選択する。複数の選択も可能である。※揉み紙…二つの色を重ねて麻紙に塗り、紙を揉むことによって皺を作り、皺の部分から下地の色を見せる技法を学修する。</p> <p>■日本画Ⅱから受講する学生 日本画の代表的な絵具(岩絵具、水干絵具、胡粉)を使用し、静物画を制作する。筆の種類、用法や絵具を紙に定着させるための膠の用法について学ぶ。また使用する麻紙の種類及び用法について学修する。</p>			
受講資格	生活芸術科 2年生	成績評価 方法	制作姿勢(30%)・提出作品(70%)とする。	
教科書	授業の進度に応じて提示する。			
参考書	特に指定しない。			
学生への要望	自主性を望む			
オフィスタイム	金曜3・4限のNo.2生芸研究室など。			
自学自習	授業内で学んだことを自分のものとするよう事後学習を2時間程度行ってください。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	【絹本】・制作工程の説明 ・木枠に糊を刷り込む：絹を張り込む部分に糊を刷り込む。完全に乾いたらもう一度塗る。 ・下図用紙の準備：木枠の大きさに合わせて画用紙を切る。【箔を使った制作】と【揉み紙による制作】共通 ・制作工程の説明 ・ドーサ液を作る：麻紙を半吸収性に加工するためにドーサ液を作る。 ・ドーサ引き：出来上がったドーサ液を各自の作品サイズの大きさに合わせて切った雲肌麻紙の表に1回塗る。 ・水張り：下図用として画用紙をパネルに水張りする。(F6号 又はF8号)
2	実習	【絹本】・絹を張り込む ・下図デッサン：モチーフを選定し、印象と特徴をとらえながら鉛筆で下図デッサンする。最初は構図を考えながら進める。 【箔を使った制作】と【揉み紙による制作】 共通 ・麻紙の表に2回目のドーサ液を塗る。乾いたら麻紙の裏にドーサ液を1回塗る。 ・下図デッサン：モチーフを選定し、印象と特徴をとらえながら鉛筆で下図デッサンする。最初は構図を考えながら進める。
3	実習	【絹本】・ドーサ液を作る：絹を半吸収に加工するためのドーサ液を作る。 ・ドーサ引き：絹の表に2回ドーサ液を引く。1回ごとに完全に乾かす。 ・下図デッサン：余白との大きさのバランスを考えながら少しずつ具体化していく。固有色の明度差を見極め、調子を置いていく。 【箔を使った制作】 ・下図デッサン：余白との大きさのバランスを考えながら少しずつ具体化していく。固有色の明度差を見極め、調子を置いていく。 ・麻紙の張り込み：ドーサ引きした麻紙をパネルに水張りする。 ・捨て膠を作る：箔の付きを良くするために、5分の1〜7分の1に薄めた膠水を3〜5回塗る。(毎回完全に乾かす) 【揉み紙による制作】 ・下図デッサン：余白との大きさのバランスを考えながら少しずつ具体化していく。固有色の明度差を見極め、調子を置いていく。 ・膠を作る ・地塗り：水干絵具又は墨で地塗りする。この地塗りの色が揉み紙完成時に皺として見えてくる。
4	実習	【絹本】と【箔を使った制作】と【揉み紙による制作】 共通 ・下図デッサン：全体の印象を大切に描き進めながら、必要に応じてモチーフの特徴を現わすために必要となる形の変化、色の変化、質感の差などを描写していく。 【揉み紙による制作】 ・地塗り：1回目に置いた色とは別の色を置く。最初の色が見えなくなるような濃い目に塗る。この地塗りでは膠を混ぜない、もしくは混ぜてもごく少量にする。
5	実習	【絹本】と【箔を使った制作】と【揉み紙による制作】 共通 ・下図デッサン：固有色を明度差に置き換えながら調子を置き、全体のバランスを崩さないよう細部の描写をしていく。
6	実習	【絹本】と【箔を使った制作】と【揉み紙による制作】 共通 ・下図デッサン：混み入ったところ、明度の同じようなところ、わかりづらいところなどをこまかきないように描写していく。
7	実習	【絹本】と【箔を使った制作】と【揉み紙による制作】 共通 ・下図のトレース：下図のデッサンの輪郭線をトレーシングペーパーにトレースする。模様ははっきりした色の変化などは境目をトレースする。(調子を入れなくても良い。) 【絹本】 ・本画へのトレース(骨描き)：下図をトレースしたトレーシングペーパーを絹の下に置き、墨でトレースする。 ・胡粉を塗る：絹目を埋め、骨描きを適度に目立たなくするために胡粉を塗る。胡粉を塗る際は刷毛を使い、画面全体に同じ方向に塗り、次に空刷毛を使い全体に絵具を延ばして刷毛跡を無くし完全に乾かす。絹目の残り具合と骨描きの濃さがちょうど良くなるまでこの作業を繰り返す。 【箔を使った制作】 ・箔をあかす：箔は直接指で掴んだり何かで持ち上げたりできないので、ロウのついたあかし紙に一旦貼りつける。あかし紙は箔より大きくできているので、余白を掴めば箔を傷つけずに移動することができる。(※箔はとても薄く、指で触ったりすると、くっついてしまう。また指以外のものでも触ったりしても破れたり傷ついたりする、さらに、少しの風でも飛んでしまう。) ・箔を貼る：箔を貼る部分に薄い膠水(通常の5分の1程度に希釈したもの)を塗り、あかした箔を載せる。すぐにあかし紙を剥がせば箔だけが画面に残る。この作業を繰り返して画面全体に箔を貼る。 【揉み紙による制作】 ・紙を揉む：地塗りの済んだ紙の角を両手で持ち、対角線方向に揉みながら丸めていく。丸め終わったら紙を開き、裏から指で弾き、剥がれた絵具を落とす。 ・アイロンをかける：丸め終わった紙を平らにするためにアイロンをかける。 ・揉み紙をパネルに張り込む：裏から水打ちして揉み紙を延ばし、パネルに袋貼りする。
8	実習	【絹本】 ・絵具の溶き方、筆の使い方の説明 ・地塗り：水干絵具や白(びやく)系の岩絵具で背景を地塗りする。同様に主役モチーフ部分の地塗りをする。 ・彩色：モチーフの印象を意識しながら色を置いていく。最初は粒子の細かい絵具で面積の広い部分から全体に彩色する。 【箔を使った制作】 ・捨てドーサ液を引く：箔は金属なのでそのままでは絵具がつかない。そのため薄めたドーサ液(通常の2分の1程度に希釈したもの)を3〜4回塗り、絵具が定着するよう加工する。ドーサ液は1回ごとに完全に乾かす。 【揉み紙による制作】 ・ドーサ引き：揉み紙は、そのままでは地塗りの絵具が取れてしまうので、2〜3回ドーサ引きをして地塗りの絵具を定着させる。(1回ごとに完全に乾かす) ・骨描き：画面に転写紙を置き、その上を下図をトレースしたトレーシングペーパーを重ねてトレース線の上を色つきボールペンでなぞり、本画面に写す。完了したら写した線を改めて墨で線描きする。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
9	実習	【絹本】・彩色：この段階ではまだ細部を描き込まず、できるだけ大きな部分を固有色の下地となるように彩色する。【箔を使った制作】・絵具の溶き方、筆の使い方を説明。骨描き：画面に転写紙を置き、その上に下図をトレースしたトレーシングペーパーを重ねてトレース線の上を色つきボールペンでなぞり、本画面に写す。完了したら写した線を改めて墨で線描きする。・彩色：水干絵具や白（びやく）系の岩絵具で固有色の下地となる色を置いていく。【揉み紙による制作】・絵具の溶き方、筆の使い方を説明。彩色：モチーフの印象を意識しながら色を置いていく。最初は粒子の細かい絵具（水干絵具や白（びやく）系の岩絵具）で彩色する。全体に彩色し過ぎると揉み紙の表情が生かされないで、揉み紙の表情を残す部分を決めてから彩色する。
10	実習	【絹本】と【箔を使った制作】と【揉み紙による制作】 共通 ・彩色：下地の絵具に塗りムラがある個所を更に重ね塗りし、全体に絵具を発色させる。
11	実習	【絹本】・彩色：下地の絵具よりも粒子の粗い岩絵具でモチーフの表情（固有色、質感など）を描く。モチーフに彩色するに従って背景にも必要に応じて彩色するが、絹目を殺し過ぎないように注意する。【箔を使った制作】・彩色：下地の絵具よりも粒子の粗い岩絵具でモチーフの表情（固有色、質感など）を描く。【揉み紙による制作】・彩色：下地の絵具よりも粒子の粗い岩絵具でモチーフの表情（固有色、質感など）を描く。モチーフに彩色するに従って背景にも必要に応じて彩色するが、揉み紙の表情を殺さないよう注意する。
12	実習	【絹本】と【箔を使った制作】と【揉み紙による制作】 共通 ・彩色：モチーフの特徴を現わすために必要となる細部を描き込んでいく。
13	実習	【絹本】と【箔を使った制作】と【揉み紙による制作】 共通 ・途中講評：制作後半に注意すべき点、手順、現状確認などを行い講評する。また、絵具の定着を確認し、問題がある場合は適宜対処方法を指示する。・彩色：全体的に細部を描き込んでいく。この段階では細部を描きながらも全体と部分の兼ね合いを見るため、時々画面を離れた距離から見て確認する。
14	実習	【絹本】・さらに全体に描き込んでいく。全体にかっ込んでいくに入れて背景も必要に応じて彩色するが、全体に絹目が消えてしまうほど塗り込みすぎないように注意する。【箔を使った制作】・さらに全体に描き込んでいく。【揉み紙による制作】・さらに全体に描き込んでいく。全体に描き込んでいくに入れて背景も必要に応じて彩色するが、全体に揉み紙の表情が消えてしまうほど塗り込みすぎないように注意する。
15	実習	【絹本】と【箔を使った制作】と【揉み紙による制作】 共通 ・彩色：仕上げの彩色に入るが、全体を見て描き込みの足りない部分や固有色の発色が足りない部分を確認して加筆していく。・講評：制作に関しての感想を述べてもらいながら反省点や作品評価などについて講評する。

科目名	彫刻 I	対象 単位数 必修	短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 必修
担当教員	黒沼 令		
開講期	通年		
授業概要	彫刻は手を通して触覚感覚を働かせながら、素材（粘土、木、石、鉄など）を直に成形していく造形芸術である。また、立体物を立体物として造形していくため、もの与人間の原初の関係に根ざしているとともに、造形の手応えを強く体験できる活動である。彫刻作品をつくっていく中で、ものをつくる喜びや充実感を味わうとともに、彫刻の教育的役割について理解を深めていくことを目標とする。		
達成目標	彫刻作品の制作を通して、彫刻の技法と表現を学ぶことを目標とする。 また、もみじ会等の発表の機会に作品を展示し、学習の成果を確認する。 <教職課程履修カルテ評価項目> ①彫刻の表現方法、特に塑造と彫造の違いについて理解できたか。 ②授業課題作品について、その制作目的を理解し、各自のテーマの制作意図をどの程度表現することができたか。 ③彫刻表現の要素である、立体としての構造、量感、バランスなどを意識して制作をすすめることができたか。		
受講資格	生活芸術科 1年	成績評価 方法	・課題作品 70% ・出席状況、授業態度 30% 以上の配分で評価する。 60点以上で合格とするが、授業理解度は7割以上を求める。
教科書	教科書は無し。		
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の彫刻関係図書 ・美術館（福島県立、郡山市立、他） ・街の中の彫刻（仙台市、福島市、他） ・公募展覧会 		
学生への要望	野外彫刻作品を鑑賞したり、機会があれば彫刻の展覧会を見ることなどを心がけてほしい。		
オフィスタイム	月曜日 Vコマ 水曜日 IV、Vコマ 木曜日 IV、Vコマ 彫刻室・No.2生芸研究室		
自学自習	事前学習、事後学習：授業の内容についてより理解を深めるため授業外にも課題制作を進める事（1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	彫刻 I の授業について	<ul style="list-style-type: none"> ・彫刻 I の履修および授業の年間計画について ・彫刻室の使用について ・準備する道具、材料、費用について ・彫刻の基礎的な学習
2	塑造（頭像制作）	<ul style="list-style-type: none"> ◆塑造（モデリング）について学習する この課題では、友人の頭像をつくることで、塑造の表現（彫刻の造形要素など）を学習していくとともに、モデリングの基礎的技法（石膏取り、芯棒作りなど）の習得を目指す。 《課題についての説明、デッサン》 ・頭像をつくる目的、意義について ・具象彫刻についての学習 ・グループ分けを行いデッサンする
3	塑造（頭像制作）	《芯棒制作と粘土練り》 <ul style="list-style-type: none"> ・芯棒を作る ・粘土を練る
4	塑造（頭像制作）	《モデリング・1》 <ul style="list-style-type: none"> ・荒づけ ・モデルをよく観察し、頭部構造を把握する ・細部にとらわれず、大きな形の組み立てを理解する
5	塑造（頭像制作）	《モデリング・2》 <ul style="list-style-type: none"> ・第4回に同じ
6	塑造（頭像制作）	《モデリング・3》 <ul style="list-style-type: none"> ・前段階を踏まえて、全体のバランスを考えながら、部分的造形に移行していく ・注意する点 <ol style="list-style-type: none"> 1、彫刻性を意識しているか（構造、量塊感など） 2、全体の中で破綻がないか 3、イメージを持って表現しているか
7	塑造（頭像制作）	《モデリング・4》 <ul style="list-style-type: none"> ・第6回に同じ
8	塑造（頭像制作）	《モデリング・5》 <ul style="list-style-type: none"> ・完成をイメージしながら、表面処理、細部の表現など、仕上げていく
9	塑造（頭像制作）	《モデリング・6》 <ul style="list-style-type: none"> ・第8回に同じ

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
10	塑造（头像制作）	《石膏取り・1》 ・石膏取りについて学習する ・雌型をつくる 1、石膏取りの環境をつくる 2、粘土作品に切り金を差し込む 3、石膏液を振りかける 4、石膏を盛り上げる
11	塑造（头像制作）	《石膏取り・2》 ・雄型をつくる 1、離型剤を雌型に流し込む 2、雌型に石膏液を流し込む 3、スタッフで補強する
12	塑造（头像制作）	《石膏取り・3》 ・割り出し、修正を行う ・乾燥後着色
13	塑造（头像制作）	《石膏取り・4》 ・第12回と同じ
14	塑造（头像制作）	《台座制作》 ・台座について理解する ・木材で台座を制作後、头像を設置する
15	塑造（头像制作）	《合評会》 ・合評会を行う
16	塑造（テラコッタ）	◆塑造（モデリング）の表現の一つである、テラコッタについて学習する。粘土の練り方や保管の方法など、理解する。 テーマは自由。各自彫刻性を意識したものを構想し、制作する。 《アイデアデッサン》 ・自由に構想を練りながらデッサンする
17	塑造（テラコッタ）	《モデリング・1》 ・粘土の練り方を練習する ・手びねり（芯棒を用いない）で制作する
18	塑造（テラコッタ）	《モデリング・2》 ・第17回と同じ
19	塑造（テラコッタ）	《モデリング・3》 ・第17回と同じ
20	塑造（テラコッタ）	《モデリング・4》 ・焼成の準備 1、少し乾燥させた作品の内側を空洞にする 2、量のある部分は穴を開けるなど、空気の逃げ道を作る
21	塑造（テラコッタ）	《モデリング・5》 ・第20回と同じ ・やすりをかけるなど、乾燥した粘土でなければ出来ない造形を行う
22	木彫（根付をつくる）	◆木は古くから彫刻用の素材として盛んに扱われ、日本では主に仏像として多くの優れた作品を残してきた。現代彫刻においても、具象、抽象を問わず、扱いやすさや身近さから多くの彫刻家が好んで用いている素材である。この課題では、木彫を通してカービングの基礎的な技法と表現を学習する。 《デッサン》 ・自然物をモチーフに、彫刻に適したアイデアをデッサンする
23	木彫（根付をつくる）	《カービング・1》 ・木にデッサンを入れる ・木取り（だまかに量をのこぎりで切り出す）をする ・荒彫りする
24	木彫（根付をつくる）	《カービング・2》 ・第23回と同じ
25	木彫（根付をつくる）	《カービング・3》 ・第23回と同じ
26	木彫（根付をつくる）	《カービング・4》 ・荒彫りから細かい部分の彫りへ、徐々に移行していく
27	木彫（根付をつくる）	《カービング・5》 ・第26回と同じ
28	木彫（根付をつくる）	《カービング6》 ・仕上げ、完成のイメージを持ちながら、表面の処理や、細部をつくりこみいく
29	木彫（根付をつくる）	《カービング・7》 ・第28回と同じ ・終わったら着色し、仕上げに取り組む
30	合評会	《合評会を行う》 ・テラコッタ作品と木彫作品の合評を併せて行う

科目名	彫刻Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 生活芸術科 2年 2単位 選択
担当教員	黒沼 令		
開講期	通年		
授業概要	現代彫刻は、彫刻と一口に言っても、写実的なものから、抽象的なもの、またはインスタレーションなどの設置空間を意識したものや、フィギュア的なものなど、多様な表現の幅や表現形式がある。その事は、彫刻概念の拡大と展開を表すと同時に、「彫刻とは何か」という定義が曖昧なものになりつつあることを表している。 以上の事を踏まえながら、彫刻Ⅱでは、彫刻Ⅰで学習した彫刻における基礎的技法や表現を発展、展開させ、より表現的で自由な作品の制作を行っていく。また、課題制作を通して、彫刻の造形要素（量感、動勢、均衡、構造など）や表現意義などをさらに理解するとともに、造形活動の充実感や達成感を味わっていくことを目標とする。		
達成目標	彫刻作品の制作を通して、彫刻の技法と表現を学ぶことを目標とする。 また、もみじ会等の発表の機会に作品を展示し、学習の成果を確認する。		
受講資格	生活芸術科2年	成績評価 方法	・課題作品 70% ・出席状況、授業態度 30% 以上の配分で評価する。 60点以上で合格とするが、授業理解度は7割以上を求める。
教科書	教科書は無し。		
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・大学図書館の彫刻関係図書 ・美術館（福島県立、郡山市立、他） ・街の中の彫刻（仙台市、福島市、他） ・公募展覧会 		
学生への要望	野外彫刻作品を鑑賞したり、機会があれば彫刻の展覧会を見ることなどを心がけてほしい。		
オフィスタイム	月曜日 Vコマ 水曜日 IV、Vコマ 木曜日 IV、Vコマ 彫刻室、No.2生芸研究室		
自学自習	事前学習、事後学習：授業の内容についてより理解を深めるため授業外にも課題制作を進める事（1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	彫刻Ⅱの授業について	<ul style="list-style-type: none"> ・彫刻Ⅱの履修および授業の年間計画について ・彫刻室の使用について ・準備する道具、材料、費用について ・彫刻の基礎的な学習
2	塑造（レリーフ作品の制作）	<ul style="list-style-type: none"> ◆レリーフとは平面と立体の中間的表現である。レリーフの表現と技法を学ぶと共に、石膏取りについて学習する。 《課題についての説明、デッサン》 ・レリーフをつくる目的、意義について ・好きな絵画作品を選び、構想する。 ・塑造板、道具の準備。
3	塑造（レリーフ作品の制作）	<ul style="list-style-type: none"> 《モデリング・1》 ・塑造板にベースとなる粘土を付けていく。 ・ベースにデッサンを入れる。 ・粘土を粗付けしていく。
4	塑造（レリーフ作品の制作）	<ul style="list-style-type: none"> 《モデリング・2》 ・第3回に同じ
5	塑造（レリーフ作品の制作）	<ul style="list-style-type: none"> 《モデリング・3》 ・第4回に同じ
6	塑造（レリーフ作品の制作）	<ul style="list-style-type: none"> 《モデリング・4》 ・形を確かめながら、奥行き表現、表面処理について検討し仕上げしていく。
7	塑造（レリーフ作品の制作）	<ul style="list-style-type: none"> 《モデリング・5》 ・第6回に同じ
8	塑造（レリーフ作品の制作）	<ul style="list-style-type: none"> 《石膏取り・1》 ・石膏取りの技法について学習する。 ・雌型をつくる。 ・粘土をかき出す。
9	塑造（レリーフ作品の制作）	<ul style="list-style-type: none"> 《石膏取り・2》 ・雄型をつくる。 ・割り出しする。
10	塑造（レリーフ作品の制作）	<ul style="list-style-type: none"> 《石膏着色》 ・着色の技法について学習する。 ・石膏作品に着色する。
11	木彫（頭像制作）	<ul style="list-style-type: none"> ◆木は古くから彫刻用の素材として盛んに扱われ、日本では主に仏像として多くの優れた作品を残してきた。現代彫刻においても、具象、抽象を問わず、扱いやすさや身近さから多くの彫刻家が好きで用いている素材である。この課題では、木彫を通してカービングの基礎的な技法と表現を学習する。 《課題についての説明、デッサン》 ・頭像をつくる目的、意義について ・具象彫刻についての学習

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
12	木彫（頭像制作）	《デッサン・1》 ・テーマ「人物の頭像」（それ以外は自由。写実的表現でも、空想的表現でもかまわない。） ・テーマについて検討し、デッサンする。 ・頭部をつくる基本をおさえる。
13	木彫（頭像制作）	《カービング・1》 ・木材にデッサンを入れる。 ・粗彫りする。
14	木彫（頭像制作）	《カービング・2》 ・第13回に同じ
15	木彫（頭像制作）	《カービング・3》 ・第14回に同じ
16	木彫（頭像制作）	《カービング・4》 ・第15回に同じ
17	木彫（頭像制作）	《カービング・5》 ・第16回に同じ
18	木彫（頭像制作）	《カービング・6》 ・第17回に同じ
19	木彫（頭像制作）	《カービング・7》 ・第18回に同じ
20	木彫（頭像制作）	《カービング・8》 ・第19回に同じ
21	木彫（頭像制作）	《カービング・9》 ・以下の事を確認しながら制作を進める。 ①完成イメージについて ②形の正確さ ③マッサ、ボリュームなどの彫刻的魅力
22	塑造（人体をつくる）	《カービング・10》 ・第21回に同じ
23	木彫（頭像制作）	《カービング・11》 ・第22回に同じ
24	木彫（頭像制作）	《カービング・12》 ・第23回に同じ
25	木彫（頭像制作）	《カービング・13》 ・第24回に同じ
26	木彫（頭像制作）	《カービング・14》 ・第25回に同じ
27	木彫（頭像制作）	《カービング・15》 ・細部の制作 ・やすりなどを使い仕上げていく。 ・希望によって着色などで完成させる。
28	木彫（頭像制作）	《カービング・16》 ・第27回に同じ
29	木彫（頭像制作）	《カービング・17》 ・第28回に同じ
30	合評会	《合評会》 ・合評会を行う

平成29年度

科目名	陶芸 I	対象 単位数 必選	短期大学部 生活芸術科 2年 2単位 選択
担当教員	佐竹 敦夫		
開講期	Ⅲ		
授業概要	陶磁器の歴史、陶芸の材料、技法についての基礎的な知識を学習するとともに、基本的な作品の制作演習を行う。陶磁器は、土の採掘から焼成まで多くの工程を経て完成するが、陶芸 I の授業では成型段階の作業を中心に課題を設ける。		
達成目標	制作にあたっては、用途、条件を考え、使うものであれば機能性（使いやすさ）、装飾性（美しさ）、あるいは造形性の追求を念頭に、いろいろな手づくりの技法の習得を目標とする。		
受講資格	生活芸術科2年	成績評価 方法	①制作態度30% ②提出作品40%③レポート30% とする。
教科書	教科書はなし。陶芸関係図書、図録は適宜紹介する。美術館・博物館にも足を運んで、作品に触れる機会を持つこと。		
参考書	特に指定しない。		
学生への要望	やきものに関心を持ち、美しいもの、使いやすいものを鑑賞したり、使ったりするように心掛ける。		
オフィスタイム	火曜3・4限のNo.2生芸研究室など。		
自学自習	授業内で学んだことを自分のものとするよう事後学習を2時間程度行ってください。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	陶芸 I の授業について	・陶芸 I の履修及び授業計画について説明する。 ・やきものの歴史を概観し、やきもの人間、やきもの生活について考える。 ・やきものの材料について学び、作品制作を始めるにあたっての基礎的な知識を得る。
2	粘土の調整	○授業目標を踏まえて作品制作の準備をする。 ・粘土を購入する。 ※粘土は信楽白土と信楽赤土を使用。 ・粘土を練る。特に“菊練り”は成形のための必修技術であるので、充分練習する。
3	土笛	○3回～10回の授業では、やきもの制作の基本技法から順次段階を追ってレベルの高い技法を習得する。 ①形技法 ②装飾技法 ③制作上の主な留意点として記載する。 ・土笛の制作では土の性質を知り、土に慣れることを目標とする。 ①手びねり ②彩色 ③構造をよく理解
4	湯のみ	・やきもの制作の入門課題として基本的な技術を学ぶ。 ①紐造り、輪積み ②面取り、白化粧 ③粘土の紐と紐との接着を確実に行う。 ・高台削りのタイミングに注意 ※1～2日自然乾燥させた後、ポリ袋に入れ保管し削り作業ができるようにする。
5	茶碗、鉢	①紐造り、輪積み ②印花、刷毛目、黒掻き落とし ③高台削りのタイミングに注意する。※前回の授業と同じ処理をする。 ・粘土の厚さ、持ちやすさか。印花の押し方、化粧土の落とし方などの方法を覚える。
6	茶碗、鉢	・前回の授業と同課題であるが、より一層の技術向上を目指す。
7	筆立て、花生け	・前回までとは異なる制作技法を試みる。 ①板造り、芯型成形 ②布目、クギ描き、櫛目 ③タタラ板のドベ接着を確実に行う。 ・芯型（塩ビパイプ、発砲スチロール等）の扱い方を工夫する。
8	花瓶、花生け	・8～10回は、石膏型を使った作品の制作である。造形的な面白さを追求する。 ①石膏成形 ②白化粧、鉄絵付け ・粘土原型は2ツ割りが可能な原型とする。 ・石膏型の制作工程を理解する。
9	花瓶、花生け	・前回の授業を継続する。 ・前の時に制作した粘土原型を石膏雌型に取る。 ※石膏は充分乾燥させておく。
10	花瓶、花生け	・前回の授業を継続する。 ・石膏型に粘土を張り込んで作品を作る。※完成した作品は充分乾燥させておく。
11	素焼き	・素焼きの目的と方法をよく理解して作業をする。窯づめでは窯内部が均一に昇温するように工夫する。 ※電気窯で焼成（16時間）・800度
12	下絵付け施釉	・下絵付けや釉をかける目的を理解して作業をする。 ①絵付け（鉄絵） ②釉薬の調整をする（フルイを通して粒子を一定にする） ③釉をかける（浸しがけ、流しがけ）※施釉道具（筆、ひしゃく他） ※釉（土灰透明釉、ワラ白釉、黒釉を使用）
13	本焼き	・作品どうしがつかないように注意して窯づめ作業をし、電気窯で焼成する。 ※焼成は22時間・1230℃～1260℃である。焼成後はそのまま放置し、自然に下がるのを待つ。（3日間）
14	窯出し	・窯出し。作品完成。作品を窯から出し、高台を砥石などで丁寧に擦って平滑にし完成。
15	作品鑑賞	・完成した作品を鑑賞する。また、陶芸家の作品や工房、作品制作の様子等をビデオで鑑賞し、やきものへの関心、興味を更に大きくする。

平成29年度

科目名	陶芸Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 生活芸術科 2年 2単位 選択
担当教員	佐竹 敦夫		
開講期	Ⅳ		
授業概要	陶芸Ⅰで習得した基本的な成形技法を応用、発展させると共に、更に高度な技法も経験し、個性的な作品が制作できるようにする。また、素焼き、釉薬かけ、本焼きの作業も経験する。		
達成目標	作品を作り、そして自ら使用することで生活とやきものとの関わりを考え、環境を美的に、生活を豊かにしていく態度や創造的な姿勢		
受講資格	生活芸術科2年	成績評価 方法	①制作態度30% ②提出作品 40% ③レポート30% とする。
教科書	教科書はなし。陶芸関係図書、図録は適宜紹介する。美術館・博物館にも足を運んで、作品に触れる機会を持つこと。		
参考書	特に指定しない。		
学生への要望	やきものに関心を持ち、美しいもの、使いやすいものを鑑賞したり、使ったりするように心掛ける。		
オフィスタイム	火曜3・4限のNo.2生芸研究室など。		
自学自習	授業内で学んだことを自分のものとしてできるよう事後学習を2時間程度行ってください。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	陶芸Ⅱの授業について	・陶芸Ⅱの履修及び授業計画について説明する。 ・日本のやきものについて概説し、身近なやきものについて関心を持つことで授業への円滑な導入を図る。
2	粘土の調整	○授業目標を踏まえて作品制作の準備をする。 ・粘土を購入する。 ※粘土は信楽白土と信楽赤土を使用。 ・粘土を練る。陶芸Ⅰで練習したように“菊練り”は成形のための必修技術であるので確実に覚える。
3	陶 箱	○3回～11回の授業では、各制作課題について技術的修練を積み重ねることで制作意図を的確に表すことができるようにする。 ①紐造り、輪積み ②象嵌(白・黒) ③陶箱の蓋の他のかみ合わせの作り方を理解する。ポリ袋に入れ保管する。
4	陶 箱	○3回～11回の授業では、各制作課題について技術的修練を積み重ねることで制作意図を的確に表すことができるようにする。 ①紐造り、輪積み ②象嵌(白・黒) ③陶箱の蓋の他のかみ合わせの作り方を理解する。ポリ袋に入れ保管する。
5	一輪挿し、陶小物入れ等	・手びねりでは造形的な追求をし、手廻しロクロ成形では応用課題としてつくる。 ①手びねり、手廻しロクロ成形では応用課題。 ②作品に応じ、縄目、クシ目、浮き彫りなどで装飾。 ③「入れもの」という条件のもとで、いろいろなフォルムを考える。袋物成形の技法を試す。
6	一輪挿し、陶小物入れ等	・手びねりでは造形的な追求をし、手廻しロクロ成形では応用課題としてつくる。 ①手びねり、手廻しロクロ成形では応用課題。 ②作品に応じ、縄目、クシ目、浮き彫りなどで装飾。 ③「入れもの」という条件のもとで、いろいろなフォルムを考える。袋物成形の技法を試す。
7	一輪挿し、陶小物入れ等	・手びねりでは造形的な追求をし、手廻しロクロ成形では応用課題としてつくる。 ①手びねり、手廻しロクロ成形では応用課題。 ②作品に応じ、縄目、クシ目、浮き彫りなどで装飾。 ③「入れもの」という条件のもとで、いろいろなフォルムを考える。袋物成形の技法を試す。
8	自由制作	・これまで学んだ技法を使い、個性ある作品を作る。 ①作品に応じた技法で壺、花瓶、皿などを作る(輪積み、たたき、板づくり他) ※電動ロクロの練習(粘土の調整、水引き、道具の使い方について説明する) ②作品に応じて装飾する。③制作の目標を確認して計画的に仕事を進める。
9	自由制作	・これまで学んだ技法を使い、個性ある作品を作る。 ①作品に応じた技法で壺、花瓶、皿などを作る(輪積み、たたき、板づくり他) ※電動ロクロの練習(粘土の調整、水引き、道具の使い方について説明する) ②作品に応じて装飾する。③制作の目標を確認して計画的に仕事を進める。
10	自由制作	・これまで学んだ技法を使い、個性ある作品を作る。 ①作品に応じた技法で壺、花瓶、皿などを作る(輪積み、たたき、板づくり他) ※電動ロクロの練習(粘土の調整、水引き、道具の使い方について説明する) ②作品に応じて装飾する。③制作の目標を確認して計画的に仕事を進める。
11	自由制作	・これまで学んだ技法を使い、個性ある作品を作る。 ①作品に応じた技法で壺、花瓶、皿などを作る(輪積み、たたき、板づくり他) ※電動ロクロの練習(粘土の調整、水引き、道具の使い方について説明する) ②作品に応じて装飾する。③制作の目標を確認して計画的に仕事を進める。
12	素焼き	・素焼き焼成の目的と方法をよく理解して作業をする。作品の詰め方を工夫する。※電気窯で焼成(12時間・800度)
13	下絵付け、施釉	・釉薬をかける目的を理解して、釉かけの技法を試みる。釉薬を調整(フルイを通して粒子を一定にする)し、釉をかける(浸しがけ、流しがけ)。※施釉道具(筆、ヒシヤク、釉バサミ、フルイ他) ※釉は土灰、ワラ灰釉、黒釉他を使用。
14	本焼き	・本焼き焼成と素焼き焼成との違いを理解して作業する。作品どうしがつかないよう注意する。 ※電気窯で酸化焼成(酸素を多くした完全燃焼の焼成/22時間・1230度) ※自然に下がるのを待つ。
15	窯出し	・窯出し。作品完成。 作品を窯から出し、高台の底を砥石で擦って平滑にして完成。お互いの作品を鑑賞し、授業目的が達成されたか確認する。

科目名	彫金 I		対象 単位数 必選	短期大学部 生活芸術科 2年 2単位 選択
担当教員	矢吹 耿, 松田 理香			
開講期	Ⅲ			
授業概要	工芸分野の中でも金属を素材として扱う分野を金属工芸（金工）といいます。「彫金（ちょうきん）」は、「鑄造（ちゆうぞう）」「鍛金（たんきん）」などと同様、金工のテクニックの一つであり、金属を彫って模様をつけたり、象嵌（ぞうがん）などで飾りを施したりしながら金属を造形していく技法です。「彫金 I」では、糸鋸やヤスリ、パーナーなどの基本工具の使い方を学びながら、銀（Ag950）を加工して透かしのブローチやペンダントトップを制作します。			
達成目標	概説「日本の金工」制作を通し素材（金属）を理解し、デザインのみならず、基本的な技術を習得することを目的とする。			
受講資格	生活芸術科 2年生	成績評価 方法	この授業の理解度が7～8割に達したことを前提に、①提出作品（80%）②制作意欲と態度（20%）を、総合的に判断する。	
教科書	各種技法書・作品図録			
参考書	作家作品集・図鑑 他			
学生への要望	作品への関心を持ち約束を守る。展覧会・商品展示物などの鑑賞を日頃から心掛ける。			
オフィスタイム	火曜 3・4 限のNo.1 生芸研究室など。			
自学自習	授業内で学んだことを自分のものとするよう事後学習を2時間程度行ってください。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	・「金工」のテクニック・作品制作課題について（参考作品の鑑賞）【備考】・毎授業の制作過程を各自のノートに記録し、自己評価・感想を書く。・制作がすすんだ者から次の課題の準備に入る。【注意等】・慣れない工具やガスを使用するので、指示に従い怪我や事故に合わないよう注意して作業する。汚れてもよい服装・靴で臨み長い髪はまとめる。
2	課題 I 「透かし」	透かしのブローチ・ペンダント 他（プリント配布）・使用する用材 銀の平板（70×70×0.8mm厚）※材料代10,000円程度（銀板・丸線・糸鋸代など）・テーマの設定 自然物や伝統工芸からの応用 1. 制作準備 ①図案制作デザイン ②デザインを薄紙に転写する。③銀板にのりをつけて貼る。 8. 制作手順 ①センターポンチで切り抜き部分に印をつける。②ドリルで糸鋸を通すための穴を開ける。③刻印を打つ。④糸鋸でデザインの線の上を丁寧に切り抜く。⑤糸鋸目をヤスリで平らにし、形を整える。⑥ブローチピンをロウ付けし、硫酸につける。⑦水洗いをよく行い、磨きヘラ・磨き棒で丁寧に磨く。（金属が硬化し作品が光るようになる） 3. 仕上げ ①ツヤ出し（ウエノール）②いぶし銀（古美）③メッキ（ロジウム）
3	課題 I 「透かし」	透かしのブローチ・ペンダント 他（プリント配布）・使用する用材 銀の平板（70×70×0.8mm厚）※材料代10,000円程度（銀板・丸線・糸鋸代など）・テーマの設定 自然物や伝統工芸からの応用 1. 制作準備 ①図案制作デザイン ②デザインを薄紙に転写する。③銀板にのりをつけて貼る。 8. 制作手順 ①センターポンチで切り抜き部分に印をつける。②ドリルで糸鋸を通すための穴を開ける。③刻印を打つ。④糸鋸でデザインの線の上を丁寧に切り抜く。⑤糸鋸目をヤスリで平らにし、形を整える。⑥ブローチピンをロウ付けし、硫酸につける。⑦水洗いをよく行い、磨きヘラ・磨き棒で丁寧に磨く。（金属が硬化し作品が光るようになる） 3. 仕上げ ①ツヤ出し（ウエノール）②いぶし銀（古美）③メッキ（ロジウム）
4	課題 I 「透かし」	透かしのブローチ・ペンダント 他（プリント配布）・使用する用材 銀の平板（70×70×0.8mm厚）※材料代10,000円程度（銀板・丸線・糸鋸代など）・テーマの設定 自然物や伝統工芸からの応用 1. 制作準備 ①図案制作デザイン ②デザインを薄紙に転写する。③銀板にのりをつけて貼る。 8. 制作手順 ①センターポンチで切り抜き部分に印をつける。②ドリルで糸鋸を通すための穴を開ける。③刻印を打つ。④糸鋸でデザインの線の上を丁寧に切り抜く。⑤糸鋸目をヤスリで平らにし、形を整える。⑥ブローチピンをロウ付けし、硫酸につける。⑦水洗いをよく行い、磨きヘラ・磨き棒で丁寧に磨く。（金属が硬化し作品が光るようになる） 3. 仕上げ ①ツヤ出し（ウエノール）②いぶし銀（古美）③メッキ（ロジウム）
5	課題 I 「透かし」	透かしのブローチ・ペンダント 他（プリント配布）・使用する用材 銀の平板（70×70×0.8mm厚）※材料代10,000円程度（銀板・丸線・糸鋸代など）・テーマの設定 自然物や伝統工芸からの応用 1. 制作準備 ①図案制作デザイン ②デザインを薄紙に転写する。③銀板にのりをつけて貼る。 8. 制作手順 ①センターポンチで切り抜き部分に印をつける。②ドリルで糸鋸を通すための穴を開ける。③刻印を打つ。④糸鋸でデザインの線の上を丁寧に切り抜く。⑤糸鋸目をヤスリで平らにし、形を整える。⑥ブローチピンをロウ付けし、硫酸につける。⑦水洗いをよく行い、磨きヘラ・磨き棒で丁寧に磨く。（金属が硬化し作品が光るようになる） 3. 仕上げ ①ツヤ出し（ウエノール）②いぶし銀（古美）③メッキ（ロジウム）
6	課題 I 「透かし」	透かしのブローチ・ペンダント 他（プリント配布）・使用する用材 銀の平板（70×70×0.8mm厚）※材料代10,000円程度（銀板・丸線・糸鋸代など）・テーマの設定 自然物や伝統工芸からの応用 1. 制作準備 ①図案制作デザイン ②デザインを薄紙に転写する。③銀板にのりをつけて貼る。 8. 制作手順 ①センターポンチで切り抜き部分に印をつける。②ドリルで糸鋸を通すための穴を開ける。③刻印を打つ。④糸鋸でデザインの線の上を丁寧に切り抜く。⑤糸鋸目をヤスリで平らにし、形を整える。⑥ブローチピンをロウ付けし、硫酸につける。⑦水洗いをよく行い、磨きヘラ・磨き棒で丁寧に磨く。（金属が硬化し作品が光るようになる） 3. 仕上げ ①ツヤ出し（ウエノール）②いぶし銀（古美）③メッキ（ロジウム）
7	課題 I 「透かし」	透かしのブローチ・ペンダント 他（プリント配布）・使用する用材 銀の平板（70×70×0.8mm厚）※材料代10,000円程度（銀板・丸線・糸鋸代など）・テーマの設定 自然物や伝統工芸からの応用 1. 制作準備 ①図案制作デザイン ②デザインを薄紙に転写する。③銀板にのりをつけて貼る。 8. 制作手順 ①センターポンチで切り抜き部分に印をつける。②ドリルで糸鋸を通すための穴を開ける。③刻印を打つ。④糸鋸でデザインの線の上を丁寧に切り抜く。⑤糸鋸目をヤスリで平らにし、形を整える。⑥ブローチピンをロウ付けし、硫酸につける。⑦水洗いをよく行い、磨きヘラ・磨き棒で丁寧に磨く。（金属が硬化し作品が光るようになる） 3. 仕上げ ①ツヤ出し（ウエノール）②いぶし銀（古美）③メッキ（ロジウム）
8	課題 I 「透かし」	透かしのブローチ・ペンダント 他（プリント配布）・使用する用材 銀の平板（70×70×0.8mm厚）※材料代10,000円程度（銀板・丸線・糸鋸代など）・テーマの設定 自然物や伝統工芸からの応用 1. 制作準備 ①図案制作デザイン ②デザインを薄紙に転写する。③銀板にのりをつけて貼る。 8. 制作手順 ①センターポンチで切り抜き部分に印をつける。②ドリルで糸鋸を通すための穴を開ける。③刻印を打つ。④糸鋸でデザインの線の上を丁寧に切り抜く。⑤糸鋸目をヤスリで平らにし、形を整える。⑥ブローチピンをロウ付けし、硫酸につける。⑦水洗いをよく行い、磨きヘラ・磨き棒で丁寧に磨く。（金属が硬化し作品が光るようになる） 3. 仕上げ ①ツヤ出し（ウエノール）②いぶし銀（古美）③メッキ（ロジウム）

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
9	課題Ⅱ「すり出し」	すり出しペンダント 他 (プリント配布) ・使用する用材 銀の平板 (20×20×2.0mm厚) ・丸線 (太さ0.1~0.25) ・テーマの設定 花・葉などの植物 ・デザインの展開と作図 ◎制作準備・仕上げは課題Ⅰに同じ 1. 制作手順 ①ヤスリで凹凸をつけ、立体感を表現するよう整形する。②バチカンをつける。③表面の仕上げを考える。(ヤスリ目をつける、荒らす 他)
10	課題Ⅱ「すり出し」	すり出しペンダント 他 (プリント配布) ・使用する用材 銀の平板 (20×20×2.0mm厚) ・丸線 (太さ0.1~0.25) ・テーマの設定 花・葉などの植物 ・デザインの展開と作図 ◎制作準備・仕上げは課題Ⅰに同じ 2. 制作手順 ①ヤスリで凹凸をつけ、立体感を表現するよう整形する。②バチカンをつける。③表面の仕上げを考える。(ヤスリ目をつける、荒らす 他)
11	課題Ⅱ「すり出し」	すり出しペンダント 他 (プリント配布) ・使用する用材 銀の平板 (20×20×2.0mm厚) ・丸線 (太さ0.1~0.25) ・テーマの設定 花・葉などの植物 ・デザインの展開と作図 ◎制作準備・仕上げは課題Ⅰに同じ 3. 制作手順 ①ヤスリで凹凸をつけ、立体感を表現するよう整形する。②バチカンをつける。③表面の仕上げを考える。(ヤスリ目をつける、荒らす 他)
12	課題Ⅱ「すり出し」	すり出しペンダント 他 (プリント配布) ・使用する用材 銀の平板 (20×20×2.0mm厚) ・丸線 (太さ0.1~0.25) ・テーマの設定 花・葉などの植物 ・デザインの展開と作図 ◎制作準備・仕上げは課題Ⅰに同じ 4. 制作手順 ①ヤスリで凹凸をつけ、立体感を表現するよう整形する。②バチカンをつける。③表面の仕上げを考える。(ヤスリ目をつける、荒らす 他)
13	課題Ⅲ「鎖」	鎖 他 (プリント配布) ・使用する用材 銀の丸線 (太さ1~3mm他) ・丸糸 (太さ0.1~0.25) ・デザインの展開 (鎖の種類とサイズを確認) ・制作手順・仕上げは、課題Ⅰ・課題Ⅱでの作業を応用する。
14	課題Ⅲ「鎖」	鎖 他 (プリント配布) ・使用する用材 銀の丸線 (太さ1~3mm他) ・丸糸 (太さ0.1~0.26) ・デザインの展開 (鎖の種類とサイズを確認) ・制作手順・仕上げは、課題Ⅰ・課題Ⅱでの作業を応用する。
15	講評会	作品の合評会・各自の反省 総評

科目名	彫金Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 生活芸術科 2年 2単位 選択
担当教員	矢吹 耿		
開講期	Ⅳ		
授業概要	彫金Ⅰで学んだ技術や知識をもとに、すり出し指輪やチェーンなどを制作します。また、宝石を象嵌したり、薬品を利用していぶし銀に仕上げるなど、さまざまな金属加工の技術を体験します。		
達成目標	概説「日本の金工」制作を通し素材（金属）を理解し、デザインのみならず気を取られることなく、基本的な技術を習得することを目的と		
受講資格	生活芸術科 2年生	成績評価 方法	この授業の理解度が7～8割に達したことを前提に、①提出作品（80%）②制作意欲と態度（20%）を、総合的に判断する。
教科書	各種技法書・作品図録作家作品集・図鑑 他		
参考書	特に指定しない。		
学生への要望	作品への関心を持ち約束を守る。展覧会・商品展示物などの鑑賞を日頃から心掛ける。		
オフィスタイム	火曜3・4限のNo.1生芸研究室など。		
自学自習	授業内で学んだことを自分のものとするよう事後学習を2時間程度行ってください。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	・作品制作課題について（参考作品の鑑賞）【備考】・毎授業の制作過程を各自のノートに記録し、自己評価・感想を書く。・制作がすんだ者から次の課題の準備に入る。【注意等】・慣れない工具やガスを使用するので、指示に従い怪我や事故に合わないよう注意して作業する。汚れてもよい服装・靴で臨み長い髪はまとめる。
2	課題Ⅰ「すり出し指輪」	すり出し指輪（プリント配布） ※すり出し指輪：ヤスリで立体感を出しながら削り出す方法で制作する。・使用する材料 銀の平板（0.2mm厚） ※材料代3,000円程度（銀板・丸線代など） ・テーマの設定 自由（具象表現・抽象表現 他） 1. 制作準備 ①リングのサイズを決める。（プリント参照）◎長さ＝（内径＋板の厚さ）×3.14 ※内径は自分の指輪のサイズ ※注：板の幅が1cmを超えるときは自分のサイズより一つ大きいサイズにする。 ②デザインを決める。造形性・機能性を追求する。作図の正確さを心掛ける。 2. 制作手順 ※慣れない工具やガスを使用するので、指示に従い怪我や事故に合わないよう注意して作業する。汚れてもよい服装・靴で臨み長い髪はまとめる。 ①サイズに切った平板をなます。 ②切り口が直角になるようヤスリで削る。 ③金床の上に平板を置き、刻印を打つ。（両端のどちらか4分の1の位置に、1回で打ちつける。） ④刻印を内側にしてヤットコで曲げ込む。 ⑤切り口面を隙間なく合わせ、ロウ付けをする。 ⑥芯金棒に入れて丸くする。（叩きすぎないこと） ⑦デザインをリングに写し取る。 ⑧ヤスリで削りながら制作する。（荒目～油目） ⑨ペーパーをかけて炭研ぎし、ヘラがけで仕上げる。 3. 仕上げ ①ツヤ出し（ウエノール） ②いぶし銀（古美）※エチルアルコール500cc＋塩化金1g 及び ヨードチンキ ③メッキ（ロジュウム） ④その他
3	課題Ⅰ「すり出し指輪」	すり出し指輪（プリント配布） ※すり出し指輪：ヤスリで立体感を出しながら削り出す方法で制作する。・使用する材料 銀の平板（0.2mm厚） ※材料代3,000円程度（銀板・丸線代など） ・テーマの設定 自由（具象表現・抽象表現 他） 1. 制作準備 ①リングのサイズを決める。（プリント参照）◎長さ＝（内径＋板の厚さ）×3.14 ※内径は自分の指輪のサイズ ※注：板の幅が1cmを超えるときは自分のサイズより一つ大きいサイズにする。 ②デザインを決める。造形性・機能性を追求する。作図の正確さを心掛ける。 2. 制作手順 ※慣れない工具やガスを使用するので、指示に従い怪我や事故に合わないよう注意して作業する。汚れてもよい服装・靴で臨み長い髪はまとめる。 ①サイズに切った平板をなます。 ②切り口が直角になるようヤスリで削る。 ③金床の上に平板を置き、刻印を打つ。（両端のどちらか4分の1の位置に、1回で打ちつける。） ④刻印を内側にしてヤットコで曲げ込む。 ⑤切り口面を隙間なく合わせ、ロウ付けをする。 ⑥芯金棒に入れて丸くする。（叩きすぎないこと） ⑦デザインをリングに写し取る。 ⑧ヤスリで削りながら制作する。（荒目～油目） ⑨ペーパーをかけて炭研ぎし、ヘラがけで仕上げる。 3. 仕上げ ①ツヤ出し（ウエノール） ②いぶし銀（古美）※エチルアルコール500cc＋塩化金1g 及び ヨードチンキ ③メッキ（ロジュウム） ④その他
4	課題Ⅰ「すり出し指輪」	すり出し指輪（プリント配布） ※すり出し指輪：ヤスリで立体感を出しながら削り出す方法で制作する。・使用する材料 銀の平板（0.2mm厚） ※材料代3,000円程度（銀板・丸線代など） ・テーマの設定 自由（具象表現・抽象表現 他） 1. 制作準備 ①リングのサイズを決める。（プリント参照）◎長さ＝（内径＋板の厚さ）×3.14 ※内径は自分の指輪のサイズ ※注：板の幅が1cmを超えるときは自分のサイズより一つ大きいサイズにする。 ②デザインを決める。造形性・機能性を追求する。作図の正確さを心掛ける。 2. 制作手順 ※慣れない工具やガスを使用するので、指示に従い怪我や事故に合わないよう注意して作業する。汚れてもよい服装・靴で臨み長い髪はまとめる。 ①サイズに切った平板をなます。 ②切り口が直角になるようヤスリで削る。 ③金床の上に平板を置き、刻印を打つ。（両端のどちらか4分の1の位置に、1回で打ちつける。） ④刻印を内側にしてヤットコで曲げ込む。 ⑤切り口面を隙間なく合わせ、ロウ付けをする。 ⑥芯金棒に入れて丸くする。（叩きすぎないこと） ⑦デザインをリングに写し取る。 ⑧ヤスリで削りながら制作する。（荒目～油目） ⑨ペーパーをかけて炭研ぎし、ヘラがけで仕上げる。 3. 仕上げ ①ツヤ出し（ウエノール） ②いぶし銀（古美）※エチルアルコール500cc＋塩化金1g 及び ヨードチンキ ③メッキ（ロジュウム） ④その他
5	課題Ⅰ「すり出し指輪」	すり出し指輪（プリント配布） ※すり出し指輪：ヤスリで立体感を出しながら削り出す方法で制作する。・使用する材料 銀の平板（0.2mm厚） ※材料代3,000円程度（銀板・丸線代など） ・テーマの設定 自由（具象表現・抽象表現 他） 1. 制作準備 ①リングのサイズを決める。（プリント参照）◎長さ＝（内径＋板の厚さ）×3.14 ※内径は自分の指輪のサイズ ※注：板の幅が1cmを超えるときは自分のサイズより一つ大きいサイズにする。 ②デザインを決める。造形性・機能性を追求する。作図の正確さを心掛ける。 2. 制作手順 ※慣れない工具やガスを使用するので、指示に従い怪我や事故に合わないよう注意して作業する。汚れてもよい服装・靴で臨み長い髪はまとめる。 ①サイズに切った平板をなます。 ②切り口が直角になるようヤスリで削る。 ③金床の上に平板を置き、刻印を打つ。（両端のどちらか4分の1の位置に、1回で打ちつける。） ④刻印を内側にしてヤットコで曲げ込む。 ⑤切り口面を隙間なく合わせ、ロウ付けをする。 ⑥芯金棒に入れて丸くする。（叩きすぎないこと） ⑦デザインをリングに写し取る。 ⑧ヤスリで削りながら制作する。（荒目～油目） ⑨ペーパーをかけて炭研ぎし、ヘラがけで仕上げる。 3. 仕上げ ①ツヤ出し（ウエノール） ②いぶし銀（古美）※エチルアルコール500cc＋塩化金1g 及び ヨードチンキ ③メッキ（ロジュウム） ④その他

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
6	課題 I 「すり出し指輪」	すり出し指輪 (プリント配布) ※すり出し指輪:ヤスリで立体感を出しながら削り出す方法で制作する。 ・使用する用材 銀の平板 (0.2mm厚) ※材料代3,000円程度 (銀板・丸線代など) ・テーマの設定 自由 (具象表現・抽象表現 他) 1. 制作準備 ①リングのサイズを決める。(プリント参照)◎長さ=(内径+ 板の厚さ)×3.14 ※内径は自分の指輪のサイズ ※注:板の幅が1cmを超えるときは自分のサイズより一つ大き いサイズにする。 ②デザインを決める。造形性・機能性を追求する。作図の正確さを心掛ける。 2. 制作手 順 ※慣れない工具やガスを使用するので、指示に従い怪我や事故に合わないよう注意して作業する。汚れてもよ い服装・靴で臨み長い髪はまとめる。 ①サイズに切った平板をなます。 ②切り口が直角になるようヤスリで削 る。 ③金床の上に平板を置き、刻印を打つ。(両端のどちらか4分の1の位置に、1回で打ちつける。) ④刻 印を内側にしてヤットコで曲げ込む。 ⑤切り口面を隙間なく合わせ、ロウ付けをする。 ⑥芯金棒に入れて丸く する。(叩きすぎないこと) ⑦デザインをリングに写し取る。 ⑧ヤスリで削りながら制作する。(荒目～油 目) ⑨ペーパーをかけて炭研ぎし、ヘラがけで仕上げる。 3. 仕上げ ①ツヤ出し (ウエノール) ②いぶ し銀 (古美) ※エチルアルコール500cc+塩化金 1g 及び ヨードチンキ ③メッキ (ロジュウム) ④その他
7	課題 I 「すり出し指輪」	すり出し指輪 (プリント配布) ※すり出し指輪:ヤスリで立体感を出しながら削り出す方法で制作する。 ・使用する用材 銀の平板 (0.2mm厚) ※材料代3,000円程度 (銀板・丸線代など) ・テーマの設定 自由 (具象表現・抽象表現 他) 1. 制作準備 ①リングのサイズを決める。(プリント参照)◎長さ=(内径+ 板の厚さ)×3.14 ※内径は自分の指輪のサイズ ※注:板の幅が1cmを超えるときは自分のサイズより一つ大き いサイズにする。 ②デザインを決める。造形性・機能性を追求する。作図の正確さを心掛ける。 2. 制作手 順 ※慣れない工具やガスを使用するので、指示に従い怪我や事故に合わないよう注意して作業する。汚れてもよ い服装・靴で臨み長い髪はまとめる。 ①サイズに切った平板をなます。 ②切り口が直角になるようヤスリで削 る。 ③金床の上に平板を置き、刻印を打つ。(両端のどちらか4分の1の位置に、1回で打ちつける。) ④刻 印を内側にしてヤットコで曲げ込む。 ⑤切り口面を隙間なく合わせ、ロウ付けをする。 ⑥芯金棒に入れて丸く する。(叩きすぎないこと) ⑦デザインをリングに写し取る。 ⑧ヤスリで削りながら制作する。(荒目～油 目) ⑨ペーパーをかけて炭研ぎし、ヘラがけで仕上げる。 3. 仕上げ ①ツヤ出し (ウエノール) ②いぶ し銀 (古美) ※エチルアルコール500cc+塩化金 1g 及び ヨードチンキ ③メッキ (ロジュウム) ④その他
8	課題 I 「すり出し指輪」	すり出し指輪 (プリント配布) ※すり出し指輪:ヤスリで立体感を出しながら削り出す方法で制作する。 ・使用する用材 銀の平板 (0.2mm厚) ※材料代3,000円程度 (銀板・丸線代など) ・テーマの設定 自由 (具象表現・抽象表現 他) 1. 制作準備 ①リングのサイズを決める。(プリント参照)◎長さ=(内径+ 板の厚さ)×3.14 ※内径は自分の指輪のサイズ ※注:板の幅が1cmを超えるときは自分のサイズより一つ大き いサイズにする。 ②デザインを決める。造形性・機能性を追求する。作図の正確さを心掛ける。 2. 制作手 順 ※慣れない工具やガスを使用するので、指示に従い怪我や事故に合わないよう注意して作業する。汚れてもよ い服装・靴で臨み長い髪はまとめる。 ①サイズに切った平板をなます。 ②切り口が直角になるようヤスリで削 る。 ③金床の上に平板を置き、刻印を打つ。(両端のどちらか4分の1の位置に、1回で打ちつける。) ④刻 印を内側にしてヤットコで曲げ込む。 ⑤切り口面を隙間なく合わせ、ロウ付けをする。 ⑥芯金棒に入れて丸く する。(叩きすぎないこと) ⑦デザインをリングに写し取る。 ⑧ヤスリで削りながら制作する。(荒目～油 目) ⑨ペーパーをかけて炭研ぎし、ヘラがけで仕上げる。 3. 仕上げ ①ツヤ出し (ウエノール) ②いぶ し銀 (古美) ※エチルアルコール500cc+塩化金 1g 及び ヨードチンキ ③メッキ (ロジュウム) ④その他
9	課題 I 「すり出し指輪」	すり出し指輪 (プリント配布) ※すり出し指輪:ヤスリで立体感を出しながら削り出す方法で制作する。 ・使用する用材 銀の平板 (0.2mm厚) ※材料代3,000円程度 (銀板・丸線代など) ・テーマの設定 自由 (具象表現・抽象表現 他) 1. 制作準備 ①リングのサイズを決める。(プリント参照)◎長さ=(内径+ 板の厚さ)×3.14 ※内径は自分の指輪のサイズ ※注:板の幅が1cmを超えるときは自分のサイズより一つ大き いサイズにする。 ②デザインを決める。造形性・機能性を追求する。作図の正確さを心掛ける。 2. 制作手 順 ※慣れない工具やガスを使用するので、指示に従い怪我や事故に合わないよう注意して作業する。汚れてもよ い服装・靴で臨み長い髪はまとめる。 ①サイズに切った平板をなます。 ②切り口が直角になるようヤスリで削 る。 ③金床の上に平板を置き、刻印を打つ。(両端のどちらか4分の1の位置に、1回で打ちつける。) ④刻 印を内側にしてヤットコで曲げ込む。 ⑤切り口面を隙間なく合わせ、ロウ付けをする。 ⑥芯金棒に入れて丸く する。(叩きすぎないこと) ⑦デザインをリングに写し取る。 ⑧ヤスリで削りながら制作する。(荒目～油 目) ⑨ペーパーをかけて炭研ぎし、ヘラがけで仕上げる。 3. 仕上げ ①ツヤ出し (ウエノール) ②いぶ し銀 (古美) ※エチルアルコール500cc+塩化金 1g 及び ヨードチンキ ③メッキ (ロジュウム) ④その他
10	課題 I 「すり出し指輪」	すり出し指輪 (プリント配布) ※すり出し指輪:ヤスリで立体感を出しながら削り出す方法で制作する。 ・使用する用材 銀の平板 (0.2mm厚) ※材料代3,000円程度 (銀板・丸線代など) ・テーマの設定 自由 (具象表現・抽象表現 他) 1. 制作準備 ①リングのサイズを決める。(プリント参照)◎長さ=(内径+ 板の厚さ)×3.14 ※内径は自分の指輪のサイズ ※注:板の幅が1cmを超えるときは自分のサイズより一つ大き いサイズにする。 ②デザインを決める。造形性・機能性を追求する。作図の正確さを心掛ける。 2. 制作手 順 ※慣れない工具やガスを使用するので、指示に従い怪我や事故に合わないよう注意して作業する。汚れてもよ い服装・靴で臨み長い髪はまとめる。 ①サイズに切った平板をなます。 ②切り口が直角になるようヤスリで削 る。 ③金床の上に平板を置き、刻印を打つ。(両端のどちらか4分の1の位置に、1回で打ちつける。) ④刻 印を内側にしてヤットコで曲げ込む。 ⑤切り口面を隙間なく合わせ、ロウ付けをする。 ⑥芯金棒に入れて丸く する。(叩きすぎないこと) ⑦デザインをリングに写し取る。 ⑧ヤスリで削りながら制作する。(荒目～油 目) ⑨ペーパーをかけて炭研ぎし、ヘラがけで仕上げる。 3. 仕上げ ①ツヤ出し (ウエノール) ②いぶ し銀 (古美) ※エチルアルコール500cc+塩化金 1g 及び ヨードチンキ ③メッキ (ロジュウム) ④その他

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
11	課題Ⅰ「すり出し指輪」	すり出し指輪（プリント配布） ※すり出し指輪：ヤスリで立体感を出しながら削り出す方法で制作する。・使用する用材 銀の平板（0.2mm厚） ※材料代3,000円程度（銀板・丸線代など） ・テーマの設定 自由（具象表現・抽象表現 他） 1. 制作準備 ①リングのサイズを決める。（プリント参照）◎長さ＝（内径＋板の厚さ）×3.14 ※内径は自分の指輪のサイズ ※注：板の幅が1cmを超えるときは自分のサイズより一つ大きいサイズにする。 ②デザインを決める。造形性・機能性を追求する。作図の正確さを心掛ける。 2. 制作手順 ※慣れない工具やガスを使用するので、指示に従い怪我や事故に合わないよう注意して作業する。汚れてもよい服装・靴で臨み長い髪はまとめる。 ①サイズに切った平板をなます。 ②切り口が直角になるようヤスリで削る。 ③金床の上に平板を置き、刻印を打つ。（両端のどちらか4分の1の位置に、1回で打ちつける。） ④刻印を内側にしてヤットコで曲げ込む。 ⑤切り口面を隙間なく合わせ、ロウ付けをする。 ⑥芯金棒に入れて丸くする。（叩きすぎないこと） ⑦デザインをリングに写し取る。 ⑧ヤスリで削りながら制作する。（荒目～油目） ⑨ペーパーをかけて炭研ぎし、ヘラがけで仕上げる。 3. 仕上げ ①ツヤ出し（ウエノール） ②いぶし銀（古美）※エチルアルコール500cc＋塩化金1g 及び ヨードチンキ ③メッキ（ロジュウム） ④その他
12	課題Ⅱ	自由制作（平打ち ロウづけ）※板の上に、銀または板の切り抜きなどをロウづけする方法で制作する。※ブローチ・リング・ペンダント・イヤリング・ピアス・キーホルダーなど自由に制作する。 ・用材の残りを使用する。 ・板や丸線など用材の特性を生かして使用方法を考えながらデザインする。
13	課題Ⅱ	自由制作（平打ち ロウづけ）※板の上に、銀または板の切り抜きなどをロウづけする方法で制作する。※ブローチ・リング・ペンダント・イヤリング・ピアス・キーホルダーなど自由に制作する。 ・用材の残りを使用する。 ・板や丸線など用材の特性を生かして使用方法を考えながらデザインする。
14	課題Ⅱ	自由制作（平打ち ロウづけ）※板の上に、銀または板の切り抜きなどをロウづけする方法で制作する。※ブローチ・リング・ペンダント・イヤリング・ピアス・キーホルダーなど自由に制作する。 ・用材の残りを使用する。 ・板や丸線など用材の特性を生かして使用方法を考えながらデザインする。
15	講評会	作品の合評会・各自の反省 総評

科目名	写真Ⅰ	対象 単位数 必選	短期大学部 生活芸術科 2年 2単位 選択
担当教員	山口 郁生		
開講期	Ⅲ		
授業概要	毎週の課題提出や撮影実習を通して、写真の基本的な教養と技術を学修します。		
達成目標	1. 写真の基本的な教養を身に付ける。2. 学生各自の研究領域に活かせる写真を、思い通りに撮影できるようになる。3. 作品の表現意図を客観的に説明できるようになる。学習のテーマは①想像力、②創造力、③説明力の鍛錬です。		
受講資格	生活芸術科2年	成績評価 方法	①実習作品40%(10×4)、②課題提出 30%、③学習態度 30%
教科書	各種技法書・作品図録・作家作品集・図鑑 他 ■参考テキスト「写真130年史」田中雅夫著、ダヴィッド社、1970年初版。「現代写真・入門」飯沢耕太郎ほか著、JCI 出版局、1989年初版。「写真のキーワード—技術・表現・歴史—」昭和堂、2001年初版。		
参考書	特に指定しない。		
学生への要望	撮影実習を含め、2コマ×30回の授業で内容が完結するように考えているので、前期・後期通しての受講が望ましい。次の週への影響が大きいため出来るだけ欠席しないこと。提出物は毎週欠かさないこと。		
オフィスタイム	水曜4・5限のNo.1生芸研		
自学自習	授業内で学んだことを自分のものとしてできるよう事後学習を2時間程度行ってください。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス/写真の定義	■何が写真なのかを考える。→各自の学習目的を考える。 ■お隣さんをスナップ撮影。1. デジタル一眼レフカメラ使い、隣席の友達をお互いに撮りあう。2. 撮影したデータにファイル名を付け、各自が保存する。
2	写真の歴史/カメラの種類と構造	■写真の歴史 1. 写真の発明から現在までを欧米と日本に分けて説明 ■カメラの種類と構造 1. カメラをサイズ別、用途別に説明 2. 実際にボラロイドフィルムを使用して撮影
3	撮影の基本、フィルムカメラによる撮影(1)	■撮影の基本について説明 1. 露出 2. ピント 3. レンズの焦点距離 4. さまざまな光(自然光と人工光) ■フィルムによる撮影 1. 35ミリサイズフィルムを使用して、学内の銅像を自然光で撮影
4	フィルムカメラによる撮影(2)	■フィルムのスキャナーによるパソコンへの取り込み 1. 取り込み→画像調整→出力
5	フィルムカメラによる撮影(3)	■フィルムのスキャナーによるパソコンへの取り込み 1. 取り込み→画像調整→出力
6	デジタルカメラによるスタジオ撮影(1)	■デジタルカメラを使用して石膏像をスタジオ撮影 1. デジタルカメラについて(NIKON D300sの使い方) 2. スタジオ大型ストロボの使い方
7	デジタルカメラによるスタジオ撮影(2)	■撮影データをパソコンに取り込み画像調整 1. PHOTOSHOP CS による画像調整 2. 写真プリンターによる出力
8	デジタルカメラによるスタジオ撮影(3)	■撮影データをパソコンに取り込み画像調整 1. PHOTOSHOP CS による画像調整 2. 写真プリンターによる出力
9	デジタルカメラによるスタジオ静物撮影(1)	■スタジオでスティルライフ撮影 1. 英語のSTILL-LIFEを直訳すると静止した命のことです。日本語の静物とは少しニュアンスが異なりますが、きちんとモチーフを選びそれぞれに真摯に向き合えば、命のない物にも命を吹き込むことができるかもしれません。静物撮影を作者の主張にまで昇華させるには研ぎ澄まされた感性と習熟した撮影技術が必要です。静物撮影の本質に迫りましょう。
10	デジタルカメラによるスタジオ静物撮影(2)	■スタジオでスティルライフ撮影 1. 学内にある雑貨、自己の所有物からモチーフを選ぶ。 2. 撮影を進めながら、PCによる画像チェック→出力
11	デジタルカメラによるスタジオ静物撮影(3)	■スタジオでスティルライフ撮影 1. 学内にある雑貨、自己の所有物からモチーフを選ぶ。 2. 撮影を進めながら、PCによる画像チェック→出力
12	現代写真家列伝(1)	■現在活躍中の写真家の中から特色のある作家を選び、作品と制作過程などを動画とスライドで学習します 1. 梅佳代、藤原新也、安達ロベルト etc.
13	現代写真家列伝(2)	■現在活躍中の写真家の中から特色のある作家を選び、作品と制作過程などを動画とスライドで学習します 1. 川内倫子、荒木経、志賀理江子 etc.
14	発表作品制作準備(1)	■もみじ会に向けて、発表できる作品を実習で撮影した写真の中から選び、作品展示の準備をします。
15	発表作品制作準備(2)	■もみじ会に向けて、発表できる作品を実習で撮影した写真の中から選び、作品展示の準備をします。

科目名	写真Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 生活芸術科 2年 2単位 選択
担当教員	山口 郁生		
開講期	Ⅳ		
授業概要	写真Ⅰの授業を踏まえ、撮影実習を中心に更に専門的な写真の教養や技術を学修します。		
達成目標	①Ⅲ期の授業を踏まえ、学生が自分自身でテーマを決定して、主体的に作品を制作する撮影実習を中心に授業を進めます。それに伴うPCによる画像調整の技術は必修です。 ②Ⅲ期に続き「現代写真家列伝」と称し、現代写真作家の作品を鑑賞して、その作品の背景にある哲学や技法を学習できる機会も増やしたいと思います。		
受講資格	生活芸術科2年	成績評価 方法	①実習作品評価 40%(10×4)、②課題提出 30%、③学習態度 30%
教科書	各種技法書・作品図録		
参考書	特に指定しない。		
学生への要望	撮影実習を含め、2コマ×30回の授業で内容が完結するように考えているので、前期後期通しての受講が望ましい。次の週への影響が大きいので出来るだけ欠席しないこと。提出物は毎週欠かさないこと。		
オフィスタイム	水曜4・5限のNo.1生芸研究室		
自学自習	授業内で学んだことを自分のものとするよう事後学習を2時間程度行ってください。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	もみじ会作品制作(1)	■もみじ会発表作品制作① 1. 前期に制作した作品の中から、もみじ会発表作品を決めプリントを仕上げます。
2	もみじ会作品制作(2)	■もみじ会発表作品制作② 1. プリントした作品を、パネルに貼り展示できるように仕上げます。
3	スナップ撮影実習(1)	■PICK-UP① 1. 写真の特質である「記録性」を生かし自分のテーマに従い、色々なモチーフをスナップ的に撮影収集(PICK-UP)します。 2. 収集した写真を、シーンクエンスを考えながらレイアウトすることにより、単なる記録写真が自分のテーマの表現につながることを学習します。
4	スナップ撮影実習(2)	■PICK-UP② 1. 画像処理 ⇒ 出力
5	スナップ撮影実習(3)	■PICK-UP③ 1. 仕上げ ⇒ 発表/合評/講評
6	スナップ撮影実習(4)	■PICK-UP① 1. 写真の特質である「記録性」を生かし自分のテーマに従い、色々なモチーフをスナップ的に撮影収集(PICK-UP)します。 2. 収集した写真を、シーンクエンスを考えながらレイアウトすることにより、単なる記録写真が自分のテーマの表現につながることを学習します。
7	スナップ撮影実習(5)	■PICK-UP② 1. 画像処理 ⇒ 出力 2. 仕上げ ⇒ 発表/合評/講評
8	スタジオ人物撮影実習(1)	■スタジオ人物撮影実習① 1. スタジオで大型ストロボを使いポートレート撮影実習。撮影の条件は特定の人物と静物とを組み合わせること。人物と静物を組み合わせることにより、人物の個性や撮影者の主張をより明確にできることを学習します。
9	スタジオ人物撮影実習(2)	■スタジオ人物撮影実習② 1. 撮影に不都合があれば再撮影 ⇒ 画像処理
10	スタジオ人物撮影実習(3)	■スタジオ人物撮影実習③ 1. 作品出力 ⇒ ボードに張り仕上げ 2. 作品発表/合評/講評
11	作家の作品鑑賞	■現代写真家列伝 藤原新也 / 荒木経惟 / ダイアン・アーバス / アルフレッド・ステイグリッツ
12	自主制作(1)	■撮影実習① 1. 1年間の集大成としての撮影実習です。これまでの実習で出来なかった事、より深めたいことを考え、最後の作品制作に取り組みます。
13	自主制作(2)	■撮影実習② 1. 撮影
14	自主制作(3)	■撮影実習③ 1. PC画像処理 ⇒ 出力
15	作品提出/講評会	■作品提出 1. 作品発表/合評/講評 2. ストックブック「気になるノート」の発表を含めた1年間の総括。

科目名	基礎デザイン		対象 単位数 必修	短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 必修
担当教員	松田 理香			
開講期	通年			
授業概要	<p>【授業の概要】 この授業ではデザインの基本的な提示の仕方や考え方を学びます。点・線・面など構成の基礎となる造形の諸要素を知り、色彩を体系的に把握します。5〜7つほどの演習課題に取り組みながら、他者への発信の仕方やその技法などを学びます。</p> <p>《履修カルテの評価項目》 ※教職課程履修の学生 ①色と形の基礎的な造形方法や表現が、感覚を訓練したり、発想を豊かにする題材であることが理解できたか。 ②伝達内容を色や形で象徴的に表し、また、効果的に訴えかけるために、図柄や文字のレイアウトを工夫して美しく仕上げることができたか。 ③視覚言語としてのデザインが、社会で果たす役割について理解できたか。</p>			
達成目標	<p>【到達目標】 日常生活の中で一定の情報を分かりやすく、視覚的に伝えていく表現の一つにデザインがあります。デザインは常に目的が明確であり、新しい価値を生み出すものであるということを理解していただきたい。 デザインは、発想は自由でも表現方法まで自由にできるとは限らない。社会的なメッセージとしての側面を忘れることなく、伝達内容を色や形で象徴的に表したり、他者へ効果的に訴えかけるために図柄や文字のレイアウトを工夫して美しく仕上げたりするなど、視覚言語としてのデザインが、社会で果たす役割について学んでいただきたい。</p>			
受講資格	生活芸術科1年生	成績評価 方法	制作姿勢（20%）・課題作品の提出状況と達成度（80%）を見ますが、授業目標への意欲や関心などを含めて総合的に判断します。 デザイナーなどの専門職を目指す学生や教職課程を履修している学生にも対応するため、構成の基礎となる造形の諸要素については、7割の理解度を期待します。	
教科書	特になし。 必要な資料等はそのつど配布・紹介します。			
参考書	現代デザイン事典（平凡社）、デザイン概論（ダヴィッド社）など			
学生への要望	<p>【全体への要望】 美術館・博物館などへ足を運び、デザイン分野の表現の幅を広げ、ワークショップなどにも積極的に参加してください。</p> <p>【教職課程履修の学生へ】 中学校美術“デザイン”の学習内容に則り、広く社会を意識したポスターやシンボルマーク、イラストレーションなどに積極的に触れ、色や形の基礎とデザインの題材が関連していることを知ってください。また、モダンテクニック（デカルコマニー、マーブリング、フロッターージュなど）の自主制作をお勧めします。</p>			
オフィスタイム	月曜日から木曜日までの授業の無い時間、または放課後に生芸研究室で受け付けます。			
自学自習	①事前学習 各課題について、シラバスで制作条件や準備物などを確認しておくこと。制作においては、条件に合う創意工夫を心掛け、より良い作品に仕上げるために、参考作品などに触れる努力をすること。（1時間以上） ②事後学習 各課題ごとに、条件に合う作品となっていたかを確認をすること。授業で取り組んだことを踏まえて、美術館や博物館などで関連の企画などがあれば鑑賞し、できるだけ多くの作品に触れること。（1時間以上）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	基礎デザインの授業内容とその目的について説明し、生活における現代デザインを考える。 また、必要な材料とデザイン用具の説明を行う。
2	点の構成・面の構成	「点」 ・点の性質 ・点の構成 ・シンメトリー ●課題1 丸型シールを使用して指定したテーマに沿って秩序ある配置を自由に表現する 「面」 ■試作：ある形の面を複数使用して動静（ムーブメント）を感じさせる構成を考える。
3	線の構成	「線」 ・線の太さの変化 ・線のズレによる変化 ・平行線の重複 ■試作：等間隔の平行線を用いた構成を試作する。
4	水張り技法と烏口体験	「水張り技法」体験 「烏口（カラスぐち）」の体験（烏口は学科で貸与する）
5	色相環をつくる ①	●課題2 / 色相環（色相の環状的配列のこと）をつくる <下書き> ・水張りしたB3パネルを横書きで使用する ・課題の進め方の資料を配布するので丁寧な作業を心掛ける。
6	色相環をつくる ②	<下書き> 配布資料に基づき作業の続きを行う。 <本制作> 8/黄、12/緑、17/緑、20/青紫、22/紫、2/赤、5/橙 を先に塗る。 次にそれぞれの中間色を塗っていく。
7	色相環をつくる ③	<本制作> 紙片（ケント紙の余った紙）に絵の具を塗りながら、PCCS色相環に合わせる。 すべての色相がカラーチャートに近いことを確認してパネルごと提出する。
8	配色の基本「色彩調和」 ①	●課題3 / 色彩調和_構成のリズム 「グラデーションの試作」 <下書き> ①等差数列+類似調和による配色 ②フィボナッチ数列+対比調和による配色 ③等比数列+スプリットコンプリメンタリーによる配色

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
9	配色の基本「色彩調和」②	<本制作> 条件に合わせて着色し提出する。
10	小型グラフィック ①	●課題4-①/ポケットメッセージ -ポケットティッシュを使用した広告デザイン- <アイデアスケッチ> ・75×100mmサイズの中で自由にテーマを決めて制作する。
11	小型グラフィック ②	<本制作> 制作条件：1) カラーでもモノクロでも可。 2) 手作業でもPC出力でも可。 3) コラージュしてもよい。 4) 写真を使用してもよい。 注意事項：1) 著作権侵害をしない。 2) 宗教活動・勧誘に係る内容にしない。 3) 政治活動・勧誘に係る内容にしない。 4) 特定の人や団体を攻撃する内容にしない。 その他：学科名・作者名（ローマ字）を表記し、もみじ会で配布予定。
12	小型グラフィック ③	●課題4-②/ポケットメッセージ -うちわを使用した広告デザイン- ポケットティッシュのデザイン案の中から「うちわ」にも展開できるものを選び制作する。 <本制作> アイデアスケッチに基づいて、最も効果的な方法を選んで制作し完成させる。 <プレゼンテーション> ポケットティッシュおよびうちわについて一人ずつプレゼンテーションする。
13	色彩構成 ①	●課題5/リピテーションの構成（貸与PC使用） 指定のグリッドをベースに、リズムやグラデーションの動きなどを感じる構成にする。 <下準備> ①国旗を選ぶ。 ②国旗にあるすべての色をCMYKで再現する。 ③色数と同じ数のパーツを考える。 ④各パーツに対しサイズを2種ずつ作る。 ⑤すべてのパーツを構成する。（ユニットA） ⑥80×80mmの正方形の中にユニットAを規則性を持たせて配置し完成させる。
14	色彩構成 ②	<本制作①> ①貸与PCを立ち上げ、illustratorで作成する。 ②選んだ国旗の色数に合わせてパーツを作成する。 ③40×40mmの正方形にパーツを配置して構成する。（ユニットA）
15	色彩構成 ③	<本制作②> ①ユニットAの天地を決める。 ②80×80mmの正方形の中にユニットAを4つ配置する。（ユニットB） ③ユニットBをある一定の法則で配置して構成する。 ④240×240mmの作品として完成させ、出力プリントとデータで提出する。
16	ピクトグラム ①	[ピクトグラム] ピクトグラムの代表例である「非常口のサイン」「トイレのサイン」などを通して、身近なピクトグラムを考える。
17	ピクトグラム ②	[ピクトグラムの歴史] ピクトグラムが国際的に標準化されてきた状況について学ぶ。
18	ピクトグラム ③	●課題6/ピクトグラムの制作 配布の資料を使用して「歩く」「走る」「跳ぶ」の形を考える。 <観察とラフスケッチ①> 指定のパターンを自由に組み合わせて「歩く」「走る」「跳ぶ」を考える。 組み合わせてできた形はラフスケッチ用紙に記録する。
19	ピクトグラム ④	<観察とラフスケッチ②> それぞれ10個以上の形をラフスケッチ用紙に描き込んでいくよう努める。
20	ピクトグラム ⑤	<本制作①> スケッチの中から「歩く」「走る」「跳ぶ」の形を1セットとして完成させる。 ケント紙に「歩く」「走る」「跳ぶ」の3つのピクトグラムを正確に製図する。
21	ピクトグラム ⑥	<本制作②> ケント紙に製図したピクトグラムを黒のアクリル絵の具で丁寧に仕上げ提出する。
22	パッケージデザイン ①	「パッケージデザイン」 モノを「包む」という行為について考える。 パッケージデザインの役割や必要性を確認し、過剰包装の問題点を考える。
23	パッケージデザイン ②	<試作> 基本的な箱のサンプルを制作する。 <試作箱の製図> 指定の組立箱の図面をボール紙に正確に製図する。
24	パッケージデザイン ③	<試作品の本制作> 図面に基づいて切り上げ、試作箱を完成させる。
25	パッケージデザイン ④	●課題7/オリジナルパッケージの制作 1. 商品情報を決める 2. 商品に適した箱の形態を考える 3. 付属品について検討する
26	パッケージデザイン ⑤	<下書き> 中身を想定してタテ×ヨコ×高さ（厚さ・深さ）などを決め図面を起していく。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
27	パッケージデザイン ⑥	<p><本制作> 店頭に並んだときのパッケージの「顔」をイメージして立体的に考える。 手にする消費者をイメージして丁寧に仕上げる。</p>
28	編集デザイン ①	<p>●課題8 / 販促用チラシ制作 課題7でデザインしたオリジナルパッケージに合わせた販促用のチラシをつくる。 <下書き> 商品情報について効果的に宣伝できるチラシをスケッチする。</p>
29	編集デザイン ②	<p><本制作> ①貸与PCを立ち上げ、illustratorで作成する。 ②課題7と課題8と一緒に提出する。</p>
30	著作権について	<p>「著作権」について モノ作りにおいて必ず発生する著作権について考える。 1. 著作権とは何か 2. トラブル例の紹介</p> <p>「基礎デザインのまとめ」 これまでの課題について振り返り、生活の中のデザインについて考える。</p>

科目名	グラフィックデザイン I	対象 単位数 必選	短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択
担当教員	斉藤 弘久		
開講期	II		
授業概要	グラフィックデザインの制作を行うためには、デザインにかかわる造形のための言語を新たに獲得しなければならない。それらの中で、最も基本的な事項を選び、演習を通して学んでいく。手作業とパーソナルコンピュータによる制作により授業を展開していく。		
達成目標	現代におけるグラフィックデザインは、人間相互のコミュニケーションを円滑にするために極めて重要な役割を担っている。このことを踏まえて、より良い人間生活のためのデザインを生み出すための考え方や技術を学ぶことを目標としている。		
受講資格	生活芸術科 1年生	成績評価 方法	次の項目を評価の観点とする。 ①提出作品の課題目標達成度が70%以上であること。(配点80点) ②授業に対する関心・意欲・態度(20点)
教科書	そのつど担当者が資料を配布する。		
参考書	そのつど担当者が紹介する。		
学生への要望	デザインにかかわる造形のための言語、多種多様な素材と表現方法、未だ経験のしたことのない表現をするために、日頃から身の回りにおける色彩や空間。常にそこに存在する物を観察することに心がけて順次進めて行く課題に生かし制作してください。デジタルで表現することを基本としますが、その前の検討段階では手描きで一つの案に対して5～10のアイデアを作成します。		
オフィスタイム	授業に関する質問や相談は毎週金曜日を除く毎日空きコマにNo2. デザイン室で受けます。		
自学自習	日頃から段階を追って進む課題で学んだ事を、生活の中から発見したり活かしたりしながらさらに課題内容の充実を測るよう心がけて		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	・グラフィックデザイン I について授業計画の説明。 ・グラフィックデザインの役割と造形のための言語について説明、理解を深める。
2	フォルムとスペース/ネガスペースとポジスペース	・形と背景の空間関係について、演習を通して構成上の視点から見る。 ・対象物の領域と背景の関係について、演習を通して視覚的感情効果の視点から見る。
3	コンポジション/ レイアウトの原理	・対象の構造や構成を演習を通して学ぶ。 ・デザインの中身である多種多様な素材をまとめ、構成する方法を学ぶ。
4	下書きのデッサン / 写真の基本	・抽象的思考を具体化するためのデッサンを実技を通して学ぶ。 ・デザインに影響力の大きい写真についてデザイナーの立場から考える。
5	色彩の定義	・色彩を分類すること、その効果を確認することが重要である。 ・PCを用いて色の対比効果について確かめる。(授業の進行状況によっては省略することもある。)
6	色彩の効果と見やすさ/ 色彩による連想	・作例を分析し、色の効果について知る。 ・色相に関する実験をPC上で行い、色による連想の効果を確かめる。
7	色彩の調和と対比/ 情報デザインの色彩	・作例を分析し色彩の対比と調和の関係を知る。 ・簡単な地図をPCで作成し色彩の重要性を知る。
8	文字の構造	・いくつかの文字を見て、それらのイメージやスタイルを評価する。その後タイポグラフィーのリーフレット(文字の構造についての説明書)の1ページを作成する。内容を明確に、視覚的に面白い形で伝えるように工夫する。 PCを使用。
9	文字のスペーシング/ 文字のサイズ	・単語を60ptのサンセリフ体で組み、プリントした試し刷りに、見た目にも均等なスペーシングのために必要な調整を書き込む。その後、PCで字詰めを行う。新しくプリントして2枚の試し刷りを比較する。
10	スクラップとムードボード	・記憶装置としてのスクラップブックの意味を考える。 ・デザイン思考の手助けとなる視覚表現のための、ムードボードを作成する。
11	スキャンと画像操作/ DTPについて	・基本的プロセス・原画の種類・シャープ化・マスクなどについて学ぶ。PC使用。 ・DTPの説明。雑誌見開きページの制作を試みる。
12	DTP演習 1	・グラフィックデザイン I で学んだ基本事項のまとめとして、文字と画像を組み合わせたページレイアウト作品を制作する。 ・サムネイルからラフスケッチ、画像取り込み、画像処理、文字入力、レイアウトへと進める。PC使用。
13	DTP演習 2	・見やすく美しいレイアウトを心がける。ガイドの使用など。PC使用。
14	DTP演習 3	・印刷し文字や画像などの校正をして完成させる。 ・画像や書類の保管・ファイルの形式・解像度などについて学ぶ。PC使用
15	まとめ	・前回の課題作品の講評をしながら、本授業で学んだ内容の復習とまとめをする。

平成29年度

科目名	グラフィックデザインⅡ	対象 単位数 必選	短期大学部 生活芸術科 2年 2単位 選択
担当教員	斉藤 弘久		
開講期	Ⅲ		
授業概要	現実世界の中での自己と他者の関係を新たに見つめ直し、自身を表現するとともに他者や社会に、それらのことを円滑に伝達する必要があるだろう。基礎デザイン・グラフィックデザインⅠで学んだ事柄をさらに発展させて学習する。		
達成目標	現代におけるグラフィックデザインは、人間相互のコミュニケーションを円滑にするという役割において極めて重要な役割を担っている。このことを踏まえ、より良い人間生活のためのデザインを生み出すための考え方や技術を学ぶことを目標としている。		
受講資格	短期大学部生活芸術科2年生	成績評価 方法	次の項目を評価の観点とする。 ①提出作品の課題目標達成度が70%以上であること。(配点80点) ②授業に対する関心・意欲・態度(20点)
教科書	なし		
参考書	適宜担当者が資料を配布する。		
学生への要望	よく考えて積極的に制作すること。		
オフィスタイム	授業に関する質問や相談は毎週金曜日を除く毎日空きコマにNo2. デザイン室で受けます。		
自学自習	資料を参考にしたり、自ら積極的に資料を集め研鑽を重ね表現に活かす。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	グラフィックデザインⅡについて。授業計画の説明。 グラフィックデザインの公共性と役割について理解を深める。
2	イラストレーション 1	他者の記したエッセイを読み、その意図を効果的に伝達するための絵を制作する。画材は自由。単なる文章の説明ではなく、作者の意図を汲み取る。
3	イラストレーション 2	前時で制作したイラストレーションを文章中に配置し、その効果を確かめる。学生の全作品を掲示し鑑賞する。学生は自分の作品について表現意図を説明し、教員は講評する。
4	立体イラストレーション1 [表現テーマの作成]	身の回りで起こる日常的で身近な事柄を素材にして、立体で表現し、さらにそれを撮影して平面作品化する。本時は素材を考え文章化しスケッチを添える。
5	立体イラストレーション2 [立体の形成]	紙粘土を材料として立体作品を制作する。写実的に物体を再現するというよりも、作られた物体が醸し出す空間に、それぞれの日常性が表れていること。
6	立体イラストレーション3 [彩色・撮影・画像処理]	乾燥した立体にアクリル絵の具で彩色する。 デジタルカメラで撮影しコンピュータ上で画像処理する。(Photoshop使用)
7	立体イラストレーション4 [出力・発表・講評]	短い文章(画像と互いに影響しあう作品に奥行きを与える文章)を配置し出力する。作品発表会と講評をする。
8	ポスター制作1[制作にあたって]	学園行事「もみじ会」のポスターを制作し、グラフィックデザインの実践的な制作方法と技術を学ぶ。ポスターの歴史・機能について解説する。制作にあたり必要な「文字」・「ロゴタイプ・ロゴマーク」・「画像処理」を説明する。
9	ポスター制作 2 [アイデアスケッチ]	表現のためのアイデアを数多く(10種以上)スケッチしながら、表現テーマを探ってゆく。(紙に鉛筆)絵にできない事柄は文章で記述する。
10	ポスター制作 3 [素材の収集]	写真・イラストレーション・色面構成・文字による表現などの各自の表現テーマに基づいて資料を収集する。写真撮影はこの時点で行う。
11	ポスター制作 4 [素材の検討]	収集した素材を並べ検討する。イラストレーションを使用する場合は、ここで描画制作する。写真はPCで画像処理。(色調変更・切抜き・変形など)を行う。
12	ポスター制作 5 [レイアウト]	CG室でレイアウト作業を行う。B2サイズ(728×515mm)・画像解像度・文字のアウトライン化・トンボなどに注意。
13	ポスター制作 6 [レイアウト]	レイアウトを検討しながら制作をすすめる。ポスターを鑑賞する側の目で、文字の流れや伝達事項が無理なく配置されているか注意する。必要以上に多くの書体を使いすぎないこと。
14	ポスター制作 6 [出力]	大判プリンタで印刷する。 文字がアウトライン化されているか、トンボの確認。印刷後、額入れする。
15	発表会・講評会[まとめ]	完成したポスターについて各自が表現意図を発表、担当教員は講評をし、グラフィックデザインⅡのまとめとする。

平成29年度

科目名	グラフィックデザインⅢ	対象 単位数 必選	短期大学部 生活芸術科 2年 2単位 選択
担当教員	斉藤 弘久		
開講期	Ⅳ		
授業概要	グラフィックデザインⅢではCI（コーポレート・アイデンティティ）の考え方に沿って、デザイン活動を総体的に捉えていく。仮想のコーポレイトを設定し、必要なデザインをトータルに制作し部分と全体の関係考えながらグラフィックデザインの実験を学ぶ。		
達成目標	現代におけるグラフィックデザインは、人間相互のコミュニケーションを円滑にするという役割において重要な使命を担っている。このことを踏まえて、より良い人間生活のためのデザインを生み出すための考え方と技術を学ぶ事を目標としている。		
受講資格	生活芸術科2年生	成績評価 方法	次の項目を評価の観点とする。 ①提出作品の課題目標達成度が70%以上であること。（配点80点） ②授業に対する関心・意欲・態度（20点）
教科書	そのつど担当者が作成した資料を配布する。		
参考書	そのつど指示する。		
学生への要望	主に社会における企業イメージを築くために計画・実行されるが、企業内においても意識の向上、また品質や生産性、人材の募集などに期待できるものである。また、マークやロゴは流行や時代性のみで追求して作られるのではなく、企業の掲げる理念などを視覚化したものであって独自性を持っていることが重要である。このようなことを踏まえてよく考えて積極的に制作してください。		
オフィスタイム	授業に関する質問や相談は毎週金曜日を除く毎日空きコマにNo2. デザイン室で受けます。		
自学自習	マークやロゴは20～30のアイデアを出すことを目標に、各自においても資料の準備をする。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	・グラフィックデザインⅢについて授業計画の説明。 ・CIデザインの概略について説明する。
2	CIとは何か/ 仮想のコーポレイト設定	・CIデザインとブランディングについて説明する。 ・CIデザインを制作する対象としての共同体を考える。
3	コーポレイトカラーとマスコットキャラクター	・設定したコーポレイトの色彩を考える。 ・設定したコーポレイトのマスコットキャラクターを考える。
4	マスコットキャラクター2	・同 上
5	コーポレイトシンボルとロゴタイプ	・コーポレイトのシンボルマークとロゴタイプを考える。（アイディアスケッチ） ・マークとロゴタイプが同一の場合や、組み合わせで使用するものがある。
6	コーポレイトシンボルとロゴタイプⅡ	・スケッチをもとにPCで制作する。（Illustratorを使用）
7	コーポレイトシンボルとロゴタイプⅢ	・同 上
8	展開Ⅰ 名刺・封筒・便箋など	・本時までの成果を用いて、名刺・封筒・便箋などのデザインを制作する。
9	展開Ⅱ 旗・看板・ネオンなど	・本時までの成果を用いて、旗・看板・標識などのデザインを制作する。
10	展開Ⅲ パッケージなど	本時までの成果を用いて、パッケージ・包装紙などのデザインを制作する。
11	展開Ⅳ ユニフォームなど	・本時までの成果を用いて、ユニフォームなどのデザインを制作する。
12	展開Ⅴ 建築・環境など	・本時までの成果を用いて、社屋や周辺環境などのデザインを制作する。
13	CIS Tree	・これまで制作したデザインを系統図としてまとめる。
14	プレゼンテーション	ポートフォリオを制作しプレゼンテーションする。
15	まとめ	・レポートを作成しながら、グラフィックデザインⅢで学んだことの復習とまとめをする。

科目名	CGアートI		対象 単位数 必修	短期大学部 生活芸術科 1年 1単位 必修
担当教員	小松 太志			
開講期	I			
授業概要	<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>①コンピュータによる造形表現を行なう上で必要とされる基本的知識と技術を理解すること。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>①グラフィックアプリケーション（Paint系、Draw系）の操作方法を学修する。 ②Paint系、Draw系アプリケーションにおいて、オブジェクトの選択・描画・編集・カラー設定・レイヤー操作を学修する。 ③スキャナー、プリンター、デジタルカメラの操作方法を学修する。</p>			
達成目標	<p>①コンピュータ・グラフィックス技術の基礎的理解が為されている。 ②グラフィックアプリケーションの基礎的操作方法を習得している。 ③コンピュータ周辺機器の操作方法を習得している。 ④コンピュータによる造形表現の特性が理解できている。</p>			
受講資格	生活芸術科1年 ※生涯学習開講科目	成績評価 方法	授業の総合的理解度が7割程度に達していることを基本として、以下の基準で成績評価する。 ①課題作品の制作過程（40%） ②課題作品（40%） ③課題作品の提出状況（20%）	
教科書	適宜、プリントを配布する。			
参考書	ピクセルハウス「世界一わかりやすい Illustrator & Photoshop 操作とデザインの教科書」、技術評論社、2015			
学生への要望	造形制作ツールとしてコンピュータを使用するためには、幅広い知識を習得が必要となる。自主的、積極的な態度で授業や課題制作に			
オフィスタイム	水曜日 10:30~12:00、14:30~16:00 No.2生芸科研究室			
自学自習	事前学習：当日の授業内容をテキストで確認しておくこと（1時間以上） 事後学習：当日の授業内容に基づいて課題制作を進めること（1時間以上）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ●CGアート1の授業計画と授業目標 →CGアート1の授業計画と授業目標について説明する。 →CGアート1～4の授業内容について説明を行ない、2年間を通したCG関連授業の学習内容を概観する。 ●CG演習室の使用法/機器設備 →CG演習室の使用法と機器設備について説明する。授業で使用するコンピュータに個々のアカウントを作成する。
2	Paint系アプリケーションについて	<ul style="list-style-type: none"> ●Paint系アプリケーションについて説明する。 →Paint系アプリケーションとビットマップ画像の特性について理解する。 ●Photoshopのインターフェイス →実際に使用するペイント系アプリケーションPhotoshopのインターフェイスについて説明する。 ※実際に操作しながらPhotoshopの機能の概要に触れる。
3	演習(1)-選択範囲の作成-	<ul style="list-style-type: none"> ●選択範囲の作成 ※使用アプリ：Adobe Photoshop →選択範囲を作成するツールの概要について解説する。 また、演習を通して基本的な選択範囲の作成方法を学習する。
4	演習(2)-ペイント系ツールの学習-	<ul style="list-style-type: none"> ●ペイント系ツールの学習 ※使用アプリ：Adobe Photoshop →画像を描画するペイント系ツールの概要について解説する。 →演習を通してペイント系ツールの使用方法について学習する。
5	演習(2)-ペイント系ツールの学習-	<ul style="list-style-type: none"> ●コンピュータの色彩表現 →ペイント系ツールの使用方法について理解を深めるとともに、コンピュータの色彩表現の仕組みと各特性について学習する。
6	演習(3)-レタッチ系ツールの学習-	<ul style="list-style-type: none"> ●レタッチ系ツールの学習 →画像補正を行なうためのレタッチ系ツールの概要について解説する。 →演習を通してレタッチ系ツールの使用方法について学習する。
7	演習(4)-レイヤーを使用した画像編集-	<ul style="list-style-type: none"> ●レイヤーの操作 →レイヤーの概念とその基本的な使用方法について解説する。 →演習を通して、レイヤーを使用した画像編集の方法について学習する。
8	演習(4)-レイヤーを使用した画像編集-	<ul style="list-style-type: none"> ●画像の変形 →レイヤーを使用した画像の変形操作とその機能活用の方法について学習する。
9	演習(5)-色の補正-	<ul style="list-style-type: none"> ●画像の色補正 →色の補正機能について概要を解説する。コンピュータの色彩表現の仕組みについて理解を深める。
10	Draw系アプリケーションについて	<ul style="list-style-type: none"> ●Draw系アプリケーションについて説明する。 →Draw系アプリケーションとベクトル画像について理解する。 ●Illustratorのインターフェイス →実際に使用するドロー系アプリケーションIllustratorのインターフェイスについて説明する。 ※実際に操作しながらIllustratorの機能の概要に触れる。
11	演習(6)-ベジェ曲線による描画-	<ul style="list-style-type: none"> ●基本形体の描画 →基本形体の描画ツールの使用方法を解説する。 →演習を通して、ベクトル画像についての理解を深める。
12	演習(6)-ベジェ曲線による描画-	<ul style="list-style-type: none"> ●ベジェ曲線の描画(1) →ベジェ曲線（一般に自由曲線と呼ぶ）の描画方法について解説する。 →演習を通して、ベジェ曲線による描画方法について理解する。
13	演習(6)-ベジェ曲線による描画-	<ul style="list-style-type: none"> ●自由曲線の描画(2) →ベジェ曲線の描画方法について解説する。 →演習を通して、ベジェ曲線による描画方法について理解を深める。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
14	課題-レイヤーによる画像合成-	●課題「レイヤーによる画像合成」 →Paint系、Draw系アプリケーションを活用して、画像合成表現を行なう。
15	授業のまとめ	●講評 →課題作品の講評を行なう。

科目名	CGアートⅡ		対象 単位数 必選	短期大学部 生活芸術科 1年 1単位 選択
担当教員	小松 太志			
開講期	Ⅱ			
授業概要	<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>①コンピュータによる造形表現を行なう上で必要とされる基本的知識と技術を理解すること。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>①グラフィックアプリケーション (Paint系、Draw系) の操作方法を学修する。 ②Paint系、Draw系アプリケーションにおいて、オブジェクトの選択・描画・編集・カラー設定・レイヤー操作を学修する。 ③スキャナー、プリンター、デジタルカメラの操作方法を学修する。</p> <p><主な課題制作></p> <p>①DoubleExposureの制作 ②LowPolygonの制作 ③Scanimationの制作</p>			
達成目標	<p>①コンピュータ・グラフィックス技術の理解が為されている。 ②グラフィックアプリケーションの操作方法を習得している。 ③コンピュータ周辺機器の操作方法を習得している。 ④コンピュータによる造形表現の特性が理解できている。</p>			
受講資格	生活芸術科1年 対象	成績評価 方法	授業の総合的理解度が7割程度に達していることを基本として、以下の基準で成績評価する。 ①課題作品の制作過程 (40%) ②課題作品 (40%) ③課題作品の提出状況 (20%)	
教科書	適宜、プリントを配布する。			
参考書	ビクセルハウス「世界一わかりやすい Illustrator & Photoshop 操作とデザインの教科書」, 技術評論社, 2015			
学生への要望	造形制作ツールとしてコンピュータを使用するためには、幅広い知識を習得が必要となる。自主的、積極的な態度で授業や課題制作にかかわること。			
オフィスタイム	水曜日 10:30~12:00、14:30~16:00 No.2生芸科研究室			
自学自習	事前学習：当日の授業内容をテキストで確認しておくこと (1時間以上) 事後学習：当日の授業内容に基づいて課題制作を進めること (1時間以上)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	CGアート2の授業目標と授業内容について説明する。
2	doubleExposureの制作①	doubleExposureの制作を通して、ペイント (Paint) 系ソフトウェアの操作方法について理解を深める。 ・課題を説明する。 ・アイデアを検討する。 ・素材となる画像を撮影、もしくは収集する。
3	doubleExposureの制作②	・Paint系ソフトウェア (Photoshop) で編集・加工する →ペンツールによる選択範囲の作成方法を理解する。 →アルファチャンネルの理解を深める。
4	doubleExposureの制作③	・Paint系ソフトウェア (Photoshop) で編集・加工する →レイヤーの描画モードを理解する。 →レイヤーマスクの操作方法を理解する。
5	doubleExposureの制作④	・編集した画像を指定のフォーマットに従って出力する。 ・講評を行う。
6	LowPolygonの制作①	LowPolygonの制作を通して、ドロー (Draw) 系ソフトウェアの操作方法について理解を深める。 ・課題を説明する。 ・アイデアを検討する。 ・素材となる写真を撮影する。
7	LowPolygonの制作②	ドロー (Draw) 系ソフトウェアで編集する。 ・素材写真を下絵にして、ベジェ曲線でLowPolygon風に描画する。 →ペンツールの使用方法の理解を深める。
8	LowPolygonの制作③	ドロー (Draw) 系ソフトウェアで編集する。 ・素材写真を下絵にして、ベジェ曲線でLowPolygon風に描画する。 →ベジェ曲線の編集方法について理解を深める。
9	LowPolygonの制作④	・編集した画像を指定のフォーマットに従って出力する。 ・講評を行う。
10	Scanimationの制作①	Scanimationの制作を通して、ドロー (Draw) 系ソフトウェアの操作方法について理解を深める。 ・課題を説明する。 ・アイデアを検討する。 ・手書きでアニメーションのコマを描画する。
11	Scanimationの制作②	ドロー (Draw) 系ソフトウェアで編集する。 ・手書きのアニメーションをコンピュータに取り込む。 ・ベジェ曲線で形態を整える。 →ペンツールの使用方法の理解を深める。
12	Scanimationの制作③	・ベジェ曲線で形態を整える。 →ベジェ曲線の編集方法について理解を深める。 →ペンツールの使用方法の理解を深める。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
13	Scanimationの制作④	ドロー（Draw）系ソフトウェアで編集する。 ・ベジェ曲線で描画されたオブジェクトをScanimation用に加工する。 →パスファインダ機能の操作方法を理解する。
14	Scanimationの制作⑤	ドロー（Draw）系ソフトウェアで編集する。 ・ベジェ曲線で描画されたオブジェクトをScanimation用に加工する。 →レイヤーの操作方法の理解を深める。
15	Scanimationの制作⑥	・編集した画像を指定のフォーマットに従って出力する。 ・講評を行う。

科目名	CGアートⅢ	対象 単位数 必選	短期大学部 生活芸術科 2年 2単位 選択
担当教員	小松 太志		
開講期	Ⅲ		
授業概要	<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>①映像メディアを中心とした造形表現について理解する。 ②課題制作を通して、映像原理を理解する。 ③課題制作を通して、映像機器、映像編集ソフトウェアの操作方法を理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>①フリップブック制作、ストップモーションアニメ制作、ドキュメンタリー映像制作の課題制作を通して、映像メディア表現の理解を深める。</p>		
達成目標	<p>①映像史の概要を理解する。 ②造形要素としての「時間」、「運動」について理解を深める。 ③撮影機器と映像編集ソフトウェアの操作方法を習得する。</p>		
受講資格	<ul style="list-style-type: none"> 生活芸術科2年 対象 CGアート2を履修済みであることが望ましい。 	成績評価 方法	授業の総合的理解度が7割程度に達していることを基本として、以下の基準で成績評価する。 ①課題作品の制作過程 (40%) ②課題作品 (40%) ③課題作品の提出状況 (20%)
教科書	適宜、配布または提示する。		
参考書	適宜、提示する。		
学生への要望	<ul style="list-style-type: none"> 積極的、自主的な態度で授業に臨むこと 映像作品、メディアアートに関する鑑賞体験を積むこと 		
オフィスタイム	水曜日 10:30~12:00、14:30~16:00 No.2生芸科研究室		
自学自習	事前学習：当日の授業内容をテキスト等で確認しておくこと (1時間以上) 事後学習：当日の授業内容に基づいて課題制作を進めること (1時間以上)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ●CGアートⅢの授業計画と授業目標について →過去の課題作品とともに授業計画、授業目標について説明します。
2	フリップブックの制作	<ul style="list-style-type: none"> ●フリップブックの制作 →課題説明 →イメージスケッチからアイデア・コンセプトを検討し、絵コンテを作成します。 ●映像装置の歴史 →19世紀からの映像装置の変遷について解説します。
3	フリップブックの制作	<ul style="list-style-type: none"> ●フリップブックの制作 →イメージスケッチからアイデア・コンセプトを検討し、絵コンテを作成します。 ●映像装置の歴史 →19世紀からの映像装置の変遷について解説します。
4	フリップブックの制作	<ul style="list-style-type: none"> ●フリップブックの制作 →絵コンテをもとに、連続的なイメージを描写します。
5	フリップブックの制作	<ul style="list-style-type: none"> ●フリップブックの制作 →絵コンテをもとに、連続的なイメージを描写します。
6	フリップブックの制作	<ul style="list-style-type: none"> ●フリップブックの制作 →印刷・(簡易)製本を実施します。
7	フリップブックの制作	<ul style="list-style-type: none"> ●フリップブックの制作 →印刷・(簡易)製本を実施します。 →講評を実施します。
8	ストップモーションアニメの制作	<ul style="list-style-type: none"> ●ストップモーションアニメの制作 →課題説明 →絵コンテを作成します。
9	ストップモーションアニメの制作	<ul style="list-style-type: none"> ●ストップモーションアニメの制作 →課題説明 →絵コンテを作成します。 ●造形における「運動」と「時間」について →造形心理の視点から「運動」と「時間」について解説します。
10	ストップモーションアニメの制作	<ul style="list-style-type: none"> ●ストップモーションアニメの制作 →映像編集ソフトウェア (iMovie) の使用方法を学習します。 →絵コンテをもとに映像素材を収集、作成し、写真撮影を実施します。
11	ストップモーションアニメの制作	<ul style="list-style-type: none"> ●ストップモーションアニメの制作 →映像編集ソフトウェア (iMovie) の使用方法を学習します。 →絵コンテをもとに映像素材を収集、作成し、写真撮影を実施します。
12	ストップモーションアニメの制作	<ul style="list-style-type: none"> ●ストップモーションアニメの制作 →映像編集ソフトウェア (iMovie) の使用方法を学習します。 →撮影した写真をコンピュータに入力し、編集を実施します。 →音源素材を収集、作成します。
13	ストップモーションアニメの制作	<ul style="list-style-type: none"> ●ストップモーションアニメの制作 →映像編集ソフトウェア (iMovie) の使用方法を学習します。 →撮影した写真をコンピュータに入力し、編集を実施します。 →音源素材を収集、作成します。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
14	ストップモーションアニメの制作	●ストップモーションアニメの制作 →撮影した写真をコンピュータに入力し、編集を実施します。 →音源素材を収集、作成します。
15	ストップモーションアニメの制作	●ストップモーションアニメの制作 →講評を実施します。
16	ドキュメンタリー映像の制作	●ドキュメンタリー映像の制作 →課題説明 →映像編集ソフトウェア (Adobe Premiere) の使用方法を学習します。
17	ドキュメンタリー映像の制作	●ドキュメンタリー映像の制作 →課題説明 →映像編集ソフトウェア (Adobe Premiere) の使用方法を学習します。
18	ドキュメンタリー映像の制作	●ドキュメンタリー映像の制作 →映像編集ソフトウェア (Adobe Premiere) の使用方法を学習します。 →絵コンテを作成します。
19	ドキュメンタリー映像の制作	●ドキュメンタリー映像の制作 →映像編集ソフトウェア (Adobe Premiere) の使用方法を学習します。 →絵コンテを作成します。
20	ドキュメンタリー映像の制作	●ドキュメンタリー映像の制作 →映像編集ソフトウェア (Adobe Premiere) の使用方法を学習します。 →絵コンテをもとに映像素材を収集、作成し、ビデオカメラで撮影します。
21	ドキュメンタリー映像の制作	●ドキュメンタリー映像の制作 →映像編集ソフトウェア (Adobe Premiere) の使用方法を学習します。 →絵コンテをもとに映像素材を収集、作成し、ビデオカメラで撮影します。
22	ドキュメンタリー映像の制作	●ドキュメンタリー映像の制作 →映像編集ソフトウェア (Adobe Premiere) の使用方法を学習します。 →絵コンテをもとに映像素材を収集、作成し、ビデオカメラで撮影します。
23	ドキュメンタリー映像の制作	●ドキュメンタリー映像の制作 →映像編集ソフトウェア (Adobe Premiere) の使用方法を学習します。 →絵コンテをもとに映像素材を収集、作成し、ビデオカメラで撮影します。
24	ドキュメンタリー映像の制作	●ドキュメンタリー映像の制作 →映像編集ソフトウェア (Adobe Premiere) の使用方法を学習します。 →撮影した映像素材をコンピュータに入力し、編集を実施します。 →音源素材を収集、作成します。
25	ドキュメンタリー映像の制作	●ドキュメンタリー映像の制作 →映像編集ソフトウェア (Adobe Premiere) の使用方法を学習します。 →撮影した映像素材をコンピュータに入力し、編集を実施します。 →音源素材を収集、作成します。
26	ドキュメンタリー映像の制作	●ドキュメンタリー映像の制作 →撮影した映像素材をコンピュータに入力し、編集を実施します。 →編集結果を確認しながら、調整をおこないます。
27	ドキュメンタリー映像の制作	●ドキュメンタリー映像の制作 →撮影した映像素材をコンピュータに入力し、編集を実施します。 →編集結果を確認しながら、調整をおこないます。
28	ドキュメンタリー映像の制作	●ドキュメンタリー映像の制作 →撮影した映像素材をコンピュータに入力し、編集を実施します。 →編集結果を確認しながら、調整をおこないます。
29	ドキュメンタリー映像の制作	●ドキュメンタリー映像の制作 →撮影した映像素材をコンピュータに入力し、編集を実施します。 →編集結果を確認しながら、調整をおこないます。
30	ドキュメンタリー映像の制作	●ドキュメンタリー映像の制作 →講評を実施します。

科目名	CGアートⅣ	対象 単位数 必選	短期大学部 生活芸術科 2年 2単位 選択
担当教員	小松 太志		
開講期	Ⅳ		
授業概要	<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>①Webを活用したビジュアルコミュニケーション能力の養成 ②情報の構造化と視覚化に関する理解の促進</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>①インターネットの基礎理解とHTML、CSSを使用したWebサイト制作について学修する。 ②演習を通して、情報を構造的に捉え、視覚を通して効果的に伝達する方法を理解する。</p>		
達成目標	<p>①HTML、CSSについて基礎的理解ができています。 ②HTML、CSS、JavaScriptを使用して簡易なWebサイトを制作できる。 ③ユーザビリティについて理解している。 ④情報の構造化と視覚化について理解している。</p>		
受講資格	<ul style="list-style-type: none"> 生活芸術科2年 対象 CGアート3を履修済みであることが望ましい。 	成績評価 方法	<p>授業の総合的理解度が7割程度に達していることを基本として、以下の基準で成績評価する。</p> <p>①課題作品の制作過程 (40%) ②課題作品 (40%) ③課題作品の提出状況 (20%)</p>
教科書	適宜、配布または提示する。		
参考書	適宜、提示する。		
学生への要望	・インターネット技術の動向に関心を持つこと。		
オフィスタイム	水曜日 10:30~12:00、14:30~16:00 No.2生芸科研究室		
自学自習	<p>事前学習：当日の授業内容をテキスト等で確認しておくこと（1時間以上） 事後学習：当日の授業内容に基づいて課題制作を進めること（1時間以上）</p>		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ●CGアートⅣの授業計画について説明する ●インターネットの構造 →インターネットの仕組みについて理解する。
2	Web基礎	<ul style="list-style-type: none"> ●ブラウザソフトについて →Webページ閲覧ソフトの種類と使用方法について理解する。 ●Webページエディタソフトについて →Webページ編集ソフトの使用法の概要について理解する。
3	HTML基礎	<ul style="list-style-type: none"> ●HTML記述のルール ※HTML5を基本使用 →HTML記述に関する基本的なルールについて理解する。 ●HTML5の理解(1) →ドキュメントタイプ宣言、文書のメタデータ等に関するHTMLについて理解する。
4	HTML基礎	<ul style="list-style-type: none"> ●HTMLの理解(2) →テキストに関するHTMLについて理解する。 →セクションに関するHTMLについて理解する。 →各コンテンツ定義に関するHTMLについて理解する。
5	HTML基礎	<ul style="list-style-type: none"> ●HTMLの理解(3) →埋め込みコンテンツに関するHTMLについて理解する。 →Webにおける画像の使用について理解する。 →画像編集ソフトウェアを使用して、Web用画像を作成する。
6	HTML基礎	<ul style="list-style-type: none"> ●HTMLの理解(4) →テーブル、フォームに関するHTMLについて理解する。
7	CSS基礎	<ul style="list-style-type: none"> ●CSS記述のルール ※CSS2.1を基本使用 →CSSの記述に関する基本的なルールについて理解する。（CSSの書き方、セレクタの種類、カスケードの概念） ●CSSの理解(1) →フォント、文字色、背景、テキストに関するCSSについて理解する。
8	CSS基礎	<ul style="list-style-type: none"> ●CSSの理解(2) →マージン、パディング、幅、高さに関するCSSについて理解する。
9	CSS基礎	<ul style="list-style-type: none"> ●CSSの理解(3) →表示、配置、ボーダー、リストに関するCSSについて理解する。
10	CSS基礎	<ul style="list-style-type: none"> ●CSSによるレイアウト →ボックスの概念について理解する。
11	CSS基礎	<ul style="list-style-type: none"> ●CSSによるレイアウト →ボックスレイアウトについて理解する。 →サンプルをもとにボックスを使用したレイアウトデザインをおこなう。
12	CSS基礎	<ul style="list-style-type: none"> ●CSSによるレイアウト →ボックスレイアウトについて理解する。 →サンプルをもとにボックスを使用したレイアウトデザインをおこなう。
13	CSS基礎	<ul style="list-style-type: none"> ●CSSによるレイアウト →ボックスレイアウトについて理解する。 →サンプルをもとにボックスを使用したレイアウトデザインをおこなう。
14	CSS基礎	<ul style="list-style-type: none"> ●CSSによるレイアウト →ボックスレイアウトについて理解する。 →サンプルをもとにボックスを使用したレイアウトデザインをおこなう。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
15	JavaScript基礎	●JavaScriptの理解 →JavaScriptの基礎について理解する。
16	JavaScript基礎	●JavaScriptの使用： →jQueryライブラリの導入方法について理解する。 →jQueryライブラリを使用してスライドショーを作成する。
17	JavaScript基礎	●JavaScriptの使用： →jQueryライブラリを使用してスライドショーを作成する。
18	JavaScript基礎	●JavaScriptの使用： →jQueryライブラリを使用してスライドショーを作成する。
19	JavaScript基礎	●JavaScriptの使用： →jQueryライブラリを使用して画像のポップアップを作成する。
20	JavaScript基礎	●JavaScriptの使用： →jQueryライブラリを使用して画像のポップアップを作成する。
21	Webサイトの制作	●Dreamweaverを使用して、Webサイトの制作をおこなう。自分のギャラリーサイトを作成する。 →参考サイトの調査
22	Webサイトの制作	●Dreamweaverを使用して、Webサイトの制作をおこなう。自分のギャラリーサイトを作成する。 →参考サイトの調査、発表
23	Webサイトの制作	●Dreamweaverを使用して、Webサイトの制作をおこなう。自分のギャラリーサイトを作成する。 →サイトマップの制作 →ページデザイン案の作成、検討
24	Webサイトの制作	●Dreamweaverを使用して、Webサイトの制作をおこなう。自分のギャラリーサイトを作成する。 →サイトマップの制作 →ページデザイン案の作成、検討
25	Webサイトの制作	●Dreamweaverを使用して、Webサイトの制作をおこなう。自分のギャラリーサイトを作成する。 →ページデザイン案の作成、検討 →コーディング作業
26	Webサイトの制作	●Dreamweaverを使用して、Webサイトの制作をおこなう。自分のギャラリーサイトを作成する。 →ページデザイン案の作成、検討 →コーディング作業
27	Webサイトの制作	●Dreamweaverを使用して、Webサイトの制作をおこなう。自分のギャラリーサイトを作成する。 →コーディング作業 →サーバ上にデータをアップロード →動作確認
28	Webサイトの制作	●Dreamweaverを使用して、Webサイトの制作をおこなう。自分のギャラリーサイトを作成する。 →修正作業 →コーディング作業 →動作確認
29	Webサイトの制作	●Dreamweaverを使用して、Webサイトの制作をおこなう。自分のギャラリーサイトを作成する。 →プレゼンテーションと講評
30	Webサイトの制作	●Dreamweaverを使用して、Webサイトの制作をおこなう。自分のギャラリーサイトを作成する。 →プレゼンテーションと講評

平成29年度

科目名	挿花 I		対象 単位数 必選	短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択
担当教員	先崎 雅一朗			
開講期	通年			
授業概要	実習を通して、挿花の基本的な知識や表現方法を習得し、「生活に活かす挿花」について考えを深める。 ■免許状について 単位取得見込の者が所定の料金を添えて申し込むことにより取得できる。1年間受講 … 池坊華道職位免許状「入門・初伝・中伝」 (申込: 11月下旬/参考: H28度12,000円)			
達成目標	四季の花・草木を通して心を表現し、万物が変化するようにそれぞれの時代が求めるスタイルへと変化を重ねながら心を潤してきた挿花。生けるプロセスの心を大切にその美学は、まさに「心を生ける」そのもので、目標もそこにある。			
受講資格	生活芸術科 1年生 (2年生と合同で授業を行う)	成績評価 方法	①実習 (70%) ②レポート (30%) この授業の理解度が7~8割に達したことを前提とするが、通年科目のため実習のまとめとしてⅡ期末にレポート提出を求める。	
教科書	いけばなテキスト「基本と実習」 (コピーを適宜配布するので購入しなくてもよい)			
参考書	特に指定しない。			
学生への要望	レポートは提出期限を厳守する。			
オフィスタイム	水曜 1限のNo.1生芸研究室など。			
自学自習	授業内で学んだことを自分のものとしてできるよう事後学習を2時間程度行ってください。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンスと講義	挿花の歴史とその変換 I
2	講義	挿花の歴史とその変換 II
3	講義	いけばな分類・古典から現代までを提示して説明する
4	講義	いけばな基礎と実習・基本型の分類を図解して説明する
5	講義	草木の自然美と実習・自然と人間との関わりを具体的に提示して説明する
6	講義と実習	花材の扱いと実習・花材の裁き方を実際に花材を用いて説明する
7	実習	花材の知識と実習
8	実習	花材の取合せと実習
9	実習	アレンジメントフラワー (行事に合わせたもの/母の日・父の日・節句など)
10	実習	技法 I 図示された基本の花型の実習
11	実習	技法 II 図示された基本の花型の実習
12	実習	盛花 I 図示された基本の花型の実習
13	実習	盛花 II・III 図示された基本の花型の実習
14	実習	直態系 I 花材の取り合わせを考える
15	実習	直態系 II 花器との取り合わせを考える
16	講義	I期の反省と作品の総評
17	実習	斜態系 I 自由花の形態
18	実習	斜態系 II 自由花の形態
19	実習	斜態系 III 自由花の形態
20	実習	斜態系 IV 自由花の形態
21	実習	アレンジメントフラワー (クリスマス・正月用飾花など)
22	実習	投入 I 直態系
23	実習	投入 II 斜態系
24	実習	投入 III 垂態系
25	実習	自由花の特徴 I 基本的な考え方
26	実習	自由花の特徴 II 基本的な考え方
27	実習	自由花の構成 I 発想の表現法 ①
28	実習	自由花の構成 II 発想の表現法 ②
29	実習	自由花の構成 III 発想の表現法 ③
30	講評	まとめ 一年間の反省と作品の総評・講義:「生活に生かす挿花」 (年度末に試験を実施する。平常授業時に制作した作品も含めて総合的に評価する)

平成29年度

科目名	挿花Ⅱ		対象 単位数 必選	短期大学部 生活芸術科 2年 2単位 選択
担当教員	先崎 雅一朗			
開講期	通年			
授業概要	実習を通して、挿花の基本的な知識や表現方法を習得し、「生活に活かす挿花」について考えを深める。 ■免許状について単位取得見込の者が所定の料金を添えて申し込むことにより取得できる。2年間受講 … 池坊華道職位免許状「皆伝・華掌」（申込：11月下旬／参考：H28度13,500円）			
達成目標	四季の花・草木を通して心を表現し、万物が変化するようにそれぞれの時代が求めるスタイルへと変化を重ねながら心を潤してきた挿花。生けるプロセスの心を大切にその美学は、まさに「心を生ける」そのもので、目標もそこにある。			
受講資格	生活芸術科 2年生（1年生と合同で授業を行う）	成績評価 方法	①実習（70%）②レポート（30%）この授業の理解度が7～8割に達したことを前提とするが、通年科目のため実習のまとめとしてⅣ期末にレポート提出を求める。	
教科書	いけばなテキスト「基本と実習」（コピーを適宜配布するので購入しなくてもよい）			
参考書	特に指定しない。			
学生への要望	レポートは提出期限を厳守する。			
オフィスタイム	水曜1限のNo.1生芸研究室など。			
自学自習	授業内で学んだことを自分のものとしてできるよう事後学習を2時間程度行ってください。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	実習	自由花・複合形態Ⅰ 花材を見て取り組み方を考える
2	実習	自由花・複合形態Ⅱ 花材を見て取り組み方を考える
3	実習	自由花・複合形態Ⅲ 花材を見て取り組み方を考える
4	実習	自由花 全体から部分への見方を考える
5	実習	造形感覚としての素材美Ⅰ 自由花形式に合わせる
6	実習	造形感覚としての素材美Ⅱ 自由花形式に合わせる
7	実習	造形感覚としての素材美Ⅲ 自由花形式に合わせる
8	実習	造形感覚としての素材美Ⅳ 自由花形式に合わせる
9	実習	アレンジメントフラワー（行事に合わせたもの／母の日・父の日・節句など）
10	実習	発想・モチーフとテーマⅠ 花材を見て取り組み方を考える
11	実習	発想・モチーフとテーマⅡ 個々の制作意識を高める
12	実習	発想・モチーフとテーマⅢ 個々の制作意識を高める
13	実習	草木の出生と自然を考えて生花を組み立てる
14	実習	生花の基本花型とその成り立ちを学ぶ
15	実習	生花の陰陽と和合の調和を考える
16	講義	Ⅲ期の反省と作品の総評
17	講義	共同制作展示について（もみじ会大作など）
18	実習	生花正風体Ⅰ 一種生の基本
19	実習	生花正風体Ⅱ 二種生の基本
20	実習	生花正風体Ⅲ 三種生の基本
21	実習	アレンジメントフラワー（クリスマス・正月用飾花など）
22	実習	一種生 応用
23	実習	二種生 応用
24	実習	三種生Ⅰ 主観的に生ける
25	実習	三種生Ⅱ 抽象的に生ける
26	実習	三種生Ⅲ 主観・抽象的な考え方で同時に生ける
27	実習	生花新風体Ⅰ 主観的に生ける
28	実習	生花新風体Ⅱ 抽象的に生ける
29	実習	生花新風体Ⅲ 主観・抽象的な考え方で同時に生ける
30	講評	まとめ 一年間あるいは二年間の反省と作品の総評 ・講義：「生活に活かす挿花」（年度末に試験を実施する。平常授業時に制作した作品も含めて総合的に評価する）

科目名	近代詩文書Ⅰ	対象 単位数 必選	短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択
担当教員	小田川 明		
開講期	通年		
授業概要	現代書である近代詩文書の教科を理解させ、基本的な古典書から作品並びに日常生活に生きる書へ発展させることを目標とする。		
達成目標	現代書である近代詩文書の教科を理解させ、基本的な古典書から作品並びに日常生活に生きる書へ発展させることを目標とする。		
受講資格	1・2年生（合同）	成績評価 方法	平常点40%・作品（もみじ会作品を含む）20%・レポート20%・日常課題に取り組む姿勢20%とする。
教科書	教科書は使用せず、原則として毎週、学年別に二種類の参考書を配布する。なお、授業の進行は書道辞典・飯島春敬編（東京堂出版）書の基本資料（中教出版）を根拠とする。		
参考書	特に指定しない。		
学生への要望	参考手本に捉われ過ぎない、品格ある創作への取り組み。書のみならず他部門の展覧会等鑑賞および市街地での看板等への注目。 [その他]通常授業では、1・2年生共に半紙を使用する。また、年数回は画仙紙を使用した作品制作をする。		
オフィスタイム	水曜1限のNo.1生芸術		
自学自習	授業内で学んだことを自分のものとするよう事後学習を2時間程度行ってください。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス（1・2年生合同）	①簡易な文房四宝、②文字の起源と変遷、③現代の日常文字を使用して表現する近代詩文書について説明をする。半紙を使用した実習をする。
2	中鋒の運筆	曲線主体の平仮名を素材に、中鋒と筆脈を学ぶ。
3	側鋒の運筆	直線主体の片仮名を素材に、側鋒と疎密による表現を学ぶ。
4	偏旁の結構	偏と旁のある漢字を素材に、結構法を習得する。
5	冠脚の結構	冠と脚のある漢字を素材に、結構法を習得する。
6	二字での均衡	漢字二文字の組み合わせをベースとした均衡を学ぶ。
7	四字以上の均衡	漢字四～六文字の組み合わせをベースとした均衡を学ぶ。
8	書体の認識	同一文字を、楷・行・草・隸・篆書等で揮毫し、書体による変化を学ぶ。
9	作品制作（1・2年生同一テーマ）	四回にわたり、○自作の詩歌を、潤濁・疎密・墨色、筆官の持つ位置による筆触等を考慮して、画仙紙1/3（70×45cm）の作品を制作する。○自作の詩歌を、半紙以内の小品に制作する。
10	作品制作（1・2年生同一テーマ）	四回にわたり、○自作の詩歌を、潤濁・疎密・墨色、筆官の持つ位置による筆触等を考慮して、画仙紙1/3（70×45cm）の作品を制作する。○自作の詩歌を、半紙以内の小品に制作する。
11	作品制作（1・2年生同一テーマ）	四回にわたり、○自作の詩歌を、潤濁・疎密・墨色、筆官の持つ位置による筆触等を考慮して、画仙紙1/3（70×45cm）の作品を制作する。○自作の詩歌を、半紙以内の小品に制作する。
12	作品制作（1・2年生同一テーマ）	四回にわたり、○自作の詩歌を、潤濁・疎密・墨色、筆官の持つ位置による筆触等を考慮して、画仙紙1/3（70×45cm）の作品を制作する。○自作の詩歌を、半紙以内の小品に制作する。
13	篆刻実習（1・2年生同一テーマ）	検字、印稿作成、布字、運刀、補刀の順で篆刻実習をし、作品に押印する。
14	裏打ち実習（1・2年生合同）	鳥の子を使用して、小品の裏打ちをする。
15	席上揮毫1（1・2年生合同）	席上揮毫（書道パフォーマンスを意識した表現に取り組む。画仙紙全紙（70×136cm）数枚を貼り合わせ、合作における調和を学ぶ。
16	席上揮毫2（1・2年生合同）	席上揮毫（書道パフォーマンスを意識した表現に取り組む。画仙紙全紙（70×136cm）数枚を貼り合わせ、合作における調和を学ぶ。
17	作品の評価（1・2年生合同）	作品について反省会をする。○表現の方向性、○使用用具、○表装した感想、○展示状況と印象、○今後の抱負等についてレポートを提出する。
18	甲骨文から学ぶ	亀甲獣骨文字の素朴でキレのある線を習得し、詩文書へ発展させる。
19	金文から学ぶ	金文の円勢と蔵鋒の用筆法を習得し、詩文書へ発展させる。
20	古隸から学ぶ	古隸の方勢と伸びやかな線質を習得し、詩文書へ発展させる。
21	曲線運筆	アルファベットを素材に、抑揚を駆使した曲線の運筆技法を習得する。
22	アルファベットとの調和	アルファベットと日本語を組み合わせ、調和を追究する。
23	年賀状の創作（1・2年生合同）	干支をメインテーマとして、年賀状のコンパクトなデザインを楽しむ。
24	片仮名と漢字の調和	平仮名と片仮名と漢字を組み合わせ、調和を追究する。
25	余白の表現	余白をテーマに、言葉の意味を考慮した表現をする。
26	詩情と表現	繰り返す文字を素材に、言葉の意味を考慮した表現をする。
27	作品制作（1・2年生同一テーマ）	1年を振り返り漢字一字で表現し、その説明を付記した作品を制作する。
28	作品制作（1・2年生同一テーマ）	新年の抱負を漢字一字で表現し、その説明を付記した作品を制作する。
29	作品制作（1・2年生同一テーマ）	二回にわたり、指定した詩人の詩を、潤濁・疎密・墨色・詩情等の制作意図に立脚し、半紙二枚分の大きさの作品を制作する。
30	作品制作（1・2年生同一テーマ）	二回にわたり、指定した詩人の詩を、潤濁・疎密・墨色・詩情等の制作意図に立脚し、半紙二枚分の大きさの作品を制作する。

平成29年度

科目名	近代詩文書Ⅱ		対象 単位数 必選	短期大学部 生活芸術科 2年 2単位 選択
担当教員	小田川 明			
開講期	通年			
授業概要	素材の詩情を酌んだ近代詩文書の作品制作の意識を重視し、生活に密着した創作活動への方向性を追求することを目標とする。			
達成目標	素材の詩情を酌んだ近代詩文書の作品制作の意識を重視し、生活に密着した創作活動への方向性を追求することを目標とする。			
受講資格	1・2年生（合同）	成績評価 方法	平常点40%・作品（もみじ会作品を含む）20%・レポート20%・日常課題に取り組む姿勢20%とする。	
教科書	教科書は使用せず、原則として毎週、学年別に二種類の参考を配布する。なお、授業の進行は書道辞典・飯島春敬編（東京堂出版）書の基本資料（中教出版）を根拠とする。			
参考書	特に指定しない。			
学生への要望	参考手本に捉われ過ぎない、品格ある創作への取り組み。書のみならず他部門の展覧会等鑑賞および市街地での看板等への注目。[その他]通常授業では、1・2年生共に半紙を使用する。また、年数回は画仙紙を使用した作品制作をする。			
オフィスタイム	水曜1限のNo.1生芸術			
自学自習	授業内で学んだことを自分のものとするよう事後学習を2時間程度行ってください。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス（1・2年生合同）	①簡易な文房四宝、②文字の起源と変遷、③現代の日常文字を使用して表現する近代詩文書について説明をする。半紙を使用した実習をする。
2	筆触による効果1	軽やかな筆触をテーマに、同素材を二種類以上に表現する。
3	筆触による効果2	「ふうりん」「風鈴」等、同じ言葉を平仮名と漢字を使用した筆触の変化に取り組む。
4	細線太線での結構	一字の中に、細線と太線を組み入れての結構法を習得する。
5	短線長線での結構	一字の中に、短線と長線を組み入れての結構法を習得する。
6	短文での章法	短文を素材に、余白美を重視した章法を学ぶ。
7	長文での章法	長文を素材に、集合体を意識した章法を学ぶ。
8	大字と細字の調和	大字と小字を調和させる表現方法を学ぶ。
9	作品制作（1・2年生同一テーマ）	四回にわたり、○自作の詩歌を、潤濁・疎密・墨色、筆官の持つ位置による筆触等を考慮して、画仙紙1/3（70×45cm）の作品を制作する。○自作の詩歌を、半紙以内の小品に制作する。
10	作品制作（1・2年生同一テーマ）	四回にわたり、○自作の詩歌を、潤濁・疎密・墨色、筆官の持つ位置による筆触等を考慮して、画仙紙1/3（70×45cm）の作品を制作する。○自作の詩歌を、半紙以内の小品に制作する。
11	作品制作（1・2年生同一テーマ）	四回にわたり、○自作の詩歌を、潤濁・疎密・墨色、筆官の持つ位置による筆触等を考慮して、画仙紙1/3（70×45cm）の作品を制作する。○自作の詩歌を、半紙以内の小品に制作する。
12	作品制作（1・2年生同一テーマ）	四回にわたり、○自作の詩歌を、潤濁・疎密・墨色、筆官の持つ位置による筆触等を考慮して、画仙紙1/3（70×45cm）の作品を制作する。○自作の詩歌を、半紙以内の小品に制作する。
13	篆刻実習（1・2年生同一テーマ）	検字、印稿作成、布字、運刀、補刀の順で篆刻実習をし、作品に押印する。
14	裏打ち実習（1・2年生合同）	鳥の子を使用して、小品の裏打ちをする。
15	席上揮毫1（1・2年生合同）	席上揮毫（書道パフォーマンスを意識した表現に取り組む。画仙紙全紙（70×136cm）数枚を貼り合わせ、合作における調和を学ぶ。
16	席上揮毫2（1・2年生合同）	席上揮毫（書道パフォーマンスを意識した表現に取り組む。画仙紙全紙（70×136cm）数枚を貼り合わせ、合作における調和を学ぶ。
17	作品の評価（1・2年生合同）	作品について反省会をする。○表現の方向性、○使用用具、○表装した感想、○展示状況と印象、○今後の抱負等についてレポートを提出する。
18	甲骨文からの発展	素朴な線條の亀甲獣骨文字の筆意で、詩文書作品に取り組む。
19	金文からの発展	蔵鋒を駆使した金文の筆意で、詩文書作品に取り組む。
20	古隸からの発展	大らかで伸びやかな古隸の筆意で、詩文書作品に取り組む。
21	アルファベットとの調和1	アルファベットと日本語を組み合わせ、調和を追求する。
22	アルファベットとの調和2	前回の課題を横書きにし、調和のみならず発想の転換を図る。
23	年賀状の創作（1・2年生同一テーマ）	干支をメインテーマとして、年賀状のコンパクトなデザインを楽しむ。
24	ポスター制作	三回にわたり、福島県の○工芸品、○名産品、○観光地やイベント等を素材とし、デザイン職に通ずる様なキャッチコピーを付記したポスターを制作する。
25	ポスター制作	三回にわたり、福島県の○工芸品、○名産品、○観光地やイベント等を素材とし、デザイン職に通ずる様なキャッチコピーを付記したポスターを制作する。
26	ポスター制作	三回にわたり、福島県の○工芸品、○名産品、○観光地やイベント等を素材とし、デザイン職に通ずる様なキャッチコピーを付記したポスターを制作する。
27	作品制作（1・2年生同一テーマ）	1年を振り返り漢字一字で表現し、その説明を付記した作品を制作する。
28	作品制作（1・2年生同一テーマ）	新年の抱負を漢字一字で表現し、その説明を付記した作品を制作する。
29	作品制作（1・2年生同一テーマ）	二回にわたり、指定した詩人の詩を、潤濁・疎密・墨色・詩情等の制作意図に立脚し、半紙二枚分の大きさの作品を制作する。
30	作品制作（1・2年生同一テーマ）	二回にわたり、指定した詩人の詩を、潤濁・疎密・墨色・詩情等の制作意図に立脚し、半紙二枚分の大きさの作品を制作する。

科目名	絵本製作		対象 単位数 必選	短期大学部 生活芸術科 1年 1単位 選択
担当教員	松田 理香			
開講期	I			
授業概要	<p>【授業の目的・ねらい】 印刷物としての絵本は紙を束ねて表紙をつけただけのものと思われがちですが、そこには時間と空間が存在します。「ページをめくる」という行為によって目の前に立ち上がる世界が、一枚の絵で表現されるものとは別の魅力であることを知ってください。</p> <p>【授業の概要】 3日間という短期集中の講座ですが、表紙・扉・本文・裏表紙の16pの絵本を制作します。既刊の代表的な絵本約50冊を参考に、文字やイラストレーション、写真、切り絵、飛び出す絵本など、各自のコンセプトに合わせた表現方法で制作します。最終日は、お互いの絵本を見せ合い、講評も行います。</p>			
達成目標	<p>【到達目標】 編集デザインの視点から絵本を鑑賞します。絵本の特徴である各自のペースでページをめくることができる、という行為の重要性を認識します。絵本を手にする対象者（年齢や場面）などを具体的にイメージしながら制作し、完成することを目指します。</p>			
受講資格	生活芸術科1年生	成績評価 方法	提出作品〔絵本〕（80点）、授業への意欲や装丁および編集デザインの理解度など（20点）を総合的に判断します。	
教科書	簡易な装丁本の制作手順資料を配布します。			
参考書	期間中さまざまな絵本や資料を教室内に提示します。			
学生への要望	短期講座ですが、オリジナルの手作り絵本を完成させてください。本の装丁について学び、出版・印刷のしくみを知ってほしいと思います。アニメーションなどの映像表現との違いを知り、手の中で広がる世界を感じるためにより多くの絵本に触れてください。			
オフィスタイム	月曜日から木曜日までの授業の無い時間、または放課後に生芸研究室で受け付けます。			
自学自習	<p>①事前学習 制作条件や準備物などを確認しておくこと。制作においては、創意工夫を心掛け、より良い作品に仕上げるために、多くの絵本に触れるなどの努力をすること（1時間以上）</p> <p>②事後学習 条件に合う作品となっていたかを確認すること。授業で取り組んだことを踏まえて、既刊の絵本を見たり、美術館などで作品に触れること（1時間以上）</p>			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	一日目（Ⅰ）ガイダンス	三日間で本の装丁について学ぶ。幼い頃から親しんでいると思われる絵本に触れ、装丁の魅力を再確認する。イラストレーション表現に面白さがある本、構成や造本、色調に工夫がある本など、デザイン的な視点から絵本を見直す。本の構造や種類、本の部位の名称についても学ぶ。
2	一日目（Ⅱ）ストーリーを考える ①	<p><中身_下準備①></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 材料、制作上の諸注意、三日間の授業の流れなどについて 2) オリジナルの絵本をタテ型とヨコ型のどちらかにするかを決める 3) 文字や文章を入れるか、絵柄だけで構成するかなど、配布するストーリーボードで16pの構成（流れ）を考える。 4) 1pの扉のデザインと、奥付を考える。
3	一日目（Ⅲ）ストーリーを考える ②	<p><中身_下準備②></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ストーリーに合う表現方法を探り、適した材料を用意する。 ・水彩、切り絵（貼り絵）、色鉛筆などの他、エンボス加工（凹凸）、切り抜きなど。 2) 文字（文章）を入れる場合のレイアウトを考える。 文章は既成の詩や物語を使用しても可とするが、絵はオリジナルとする。
4	一日目（Ⅳ）ストーリーを考える ③	<p><中身_下書き></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) レイアウトの確認 それぞれの表現方法に合わせて色材を用意し、1p（扉）から16pまでの流れを決める。 見開きのページを作るなど、読み手を意識して盛り上がりの場所を工夫する。 2) 色材などの確認 両面使用なので、裏写りしないものを選ぶ。 飛び出す絵本等にする場合は、たたみ方などをよく確認して進める。
5	一日目（Ⅴ）中身を制作する ①	<p><中身_本制作①></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ページの順番を確認しながら中身を制作していく。 他人の作品も参考にしながらオリジナルの表現方法を探る。 2) キャラクターなど主人公が登場する場合は、同一人物であることがわかるようにする。
6	二日目（Ⅰ）中身を制作する ②	<p><中身_本制作②></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ストーリーの展開を確認して、読み手に内容が伝わる構成になっているか確認しながら作業を進めていく。 2) 読み手を意識して制作する。
7	二日目（Ⅱ）中身を仕上げる	<p><中身_本制作③></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 文章を入れこむ場合は誤字・脱字などがないか確認する。 2) 全体を通してメリハリのある内容になっているか、ページ構成を再確認しながら全体の仕上がりをイメージして制作を進める。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
8	二日目 (Ⅲ) 表紙の台紙をつくる ①	<p><台紙_下準備①> 台紙はタテ型とヨコ型ではサイズが違うので、配布資料をよく確認すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 本のページ構成の確認 ①裏表紙・背・表紙 ②見返し(接着面・遊び紙) ③本文16p(両面使用のため用紙は8枚) ④見返し(遊び紙/奥付・接着面) ストーリーを想定して、表紙の色紙を選ぶ。 ストーリーを想定して、表紙の色紙との組み合わせを考え、見返しの色紙を選ぶ。 芯地のボール紙3枚を指定のサイズに切る。 ボール紙の白地に、両面テープを長辺に沿って隙間なく全面に貼る。(両面テープは重ならないようにする) 表紙の紙の目を確認しながら指定のサイズに切る。裏返してボール紙を貼る位置を鉛筆の線で薄く引いておく。 のボール紙の両面テープの裏紙を全部剥がして、線に沿って曲がらないように注意して貼る。 ボール紙に沿って、表紙の紙にヘラなどで折り筋をつけておく。
9	二日目 (Ⅳ) 表紙の台紙をつくる ②	<p><台紙_下準備②> (Ⅲコマ目の続き)</p> <ol style="list-style-type: none"> 表紙の紙の天地2辺の両面テープの裏紙を剥がし、ボール紙をくるむように折り、ていねいに貼る。ミゾの部分もよく押さえる。 次に左右を貼る。角は斜め45度の角度に重なるように折り込んで処理する。テープがついていない部分があったら、楊枝などでボンドを入れると良い。角は剥がれやすいので、当て紙をして木づちなどでたたいてよく押さえる。ちりの目安として、周囲より3ミリ内側に薄く鉛筆で線を引く。
10	二日目 (Ⅴ) 表紙のデザインを考える	<p><台紙_本制作></p> <ol style="list-style-type: none"> ストーリー・作品タイトルに合うイメージの表紙のデザインを考える。 ・文字の種類や色材(色鉛筆・水彩・サインペン・その他)を考える ・表現方法(イラストレーション・切り絵・写真・文字のみ・その他)について確認する 表紙と裏表紙のデザインを考える際には、作品タイトル・作者名・出版社名など、必要な情報を載せなくてはならない。 奥付を作る ・表紙側/タイトル・作者名(文章・絵など)・出版社名など ・裏表紙側/出版社名・金額・バーコード・ワンポイントなど ・見返し(裏側)/奥付(タイトル・作者名・出版社名・金額・発効日など)
11	三日目 (Ⅰ) 全体的な流れを確認する	<p><全体確認①> 全体の流れをすべて確認し、足りない部分がないかさらに確認する。教室に置いてある参考図書を見たり、他人の作品も見せて、お互いの表現に深みを持たせる。のどの位置やページの順番、扉に必要なタイトルや作者名、出版社名、奥付の内容などがきちんと入っているか最終確認をする。</p>
12	三日目 (Ⅱ) 考えていた表紙・裏表紙を仕上げる	<p><全体確認②> 自分の選んだ色紙を背景に、表紙・裏表紙のデザインが中身と合っているか確認しながら仕上げる。必要な情報が間違いなく入っているか注意しながら作業し、ていねいに仕上げる。</p>
13	三日目 (Ⅲ) 中身を立てる	<p><合本①></p> <ol style="list-style-type: none"> 最終的な仕上がりを予想して、表紙と中身を組み合わせしてみる。 タテ型・ヨコ型とも、紙の目、ページの順番や枚数などが合っているか確認する。 本文をページ分順番に重ね、見返し紙ではさみ、クリップで小口と天地を仮留めする。 のどから3ミリのところで見返しと共に表側と裏側から交互にホチキスで留める。 表と裏の紙(見返し紙の裏側)にそれぞれ15ミリの両面テープを一周貼る。
14	三日目 (Ⅳ) 仕上げ	<p><合本②></p> <ol style="list-style-type: none"> 表紙の背をきれいに折る。中身をはさんでみる。天地とちりが3ミリになっているか確認する。 ちりの当たり線に合わせて見返しをボール紙に貼る。ちりが均等かどうか確かめ、シワを伸ばしてしっかりと貼る。背とミゾは押さえる。 ミゾの線を親指と人差し指でなぞって圧着する。ミゾにタコ糸をかけ、背の角で結んで締める。
15	三日目 (Ⅴ) お互いの作品鑑賞と講評(作品提出)	<p><合評会></p> <ol style="list-style-type: none"> 作品発表 全員の作品をすべて並べ、お互いの作品を鑑賞する。内容や仕上げの美しさなど感想を伝え合い、率直な意見を述べ合う。 まとめ

平成29年度

科目名	裸婦デッサン	対象 単位数 必選	短期大学部 生活芸術科 1年 1単位 選択
担当教員	浅野 章		
開講期	I		
授業概要	裸婦デッサンは形（フォルム）、量（ボリューム）、調子（パルル）、動き（ムーブマン）、質感、線、空間表現などデッサンの基本が全て含まれています。この授業では生きている人間の美しさを知り、造形美の極致といわれる裸婦のデッサン技法、又は彩色技法の修得を目指します。		
達成目標	デッサンや彩色する特質を充分に感じ、理解できるよう努力しましょう。そのうえで個性ある、自分だけの裸婦絵画空間を創りあげていくことを目標とします。		
受講資格	生活芸術科2年生及び付属高校3年生（高大連携授業）	成績評価 方法	この授業の理解度が7～8割に達したことを前提として①授業への参加態度・積極性70%②提出作品の各自目標達成度30%をその配分率を基にして総合的に判断する。
教科書	特になし		
参考書	ダビンチ、ミケランジェロ、安井曾太郎他のデッサン集		
学生への要望	裸婦デッサンを描くことの意味をよく考え、主体的、積極的な姿勢で授業に望む。また、夏の暑い期間なので気力と集中力で制作する		
オフィスタイム	火曜日から金曜日までの授業のない時間、または放課後に生芸研究室で受け付けます。		
自学自習	【事前学習】授業に関連する、裸婦の画集やデッサン集などを事前に関覧、研究しておく。（30分） 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、機会があれば美術館や画廊などに足を運び、実物の裸婦作品を鑑賞してみる。（30分）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス及び会場設営	ガイダンス及び会場設営 ・シラバス、シラバイ解説 ・モデルとの接し方などを説明
2	クロッキー	・各種、絵画ポーズによるクロッキー ・シンプルな線による短時間での制作を繰り返し行う。 ・5分、3分、1分と時間を徐々に縮めていき更なる描写力を養う。
3	クロッキー及び固定ポーズ決定	・前コマに引き続きクロッキー ・モデルに固定ポーズのためのポーズをいくつかとってもらい、その中から受講生による多数決で決定。
4	固定ポーズー1	構図試作 ・各自、画用紙や木炭紙・描画用具を準備 ・前コマで行ったクロッキーなどを元に徐々に構図を決めていく。
5	固定ポーズー2	構図決定 ・画面への入れ方、構図を決定する。 ・最初から細かい作業にならないように気をつけながら思い切ってやる。
6	固定ポーズー3	作品制作 ・鉛筆、木炭などの描画用具の使い方を確認しながら描く。 ・初期から部分描写にならないように全体感を大事にする。
7	固定ポーズー4	作品制作 ・描画用具の特質を最大限に、生かすように工夫しながら描く。 ・全体感を損なわないように絶えず画面全体に気を配りながら制作する。
8	固定ポーズー5	作品制作 ・制作は大胆かつ繊細に集中して行う。 ・全体感を損なわないように絶えず画面全体に気を配りながら制作する。
9	固定ポーズー6	作品制作 ・部分の表現が大きな形にしっかり沿っているかなどを確認する。 ・全体感を損なわないように絶えず画面全体に気を配りながら制作する。
10	固定ポーズー7	作品制作 ・制作期間中盤ということで、もう一度大きな形を見なおす。 ・全体感を損なわないように絶えず画面全体に気を配りながら制作する。
11	固定ポーズー8	作品制作 ・不必要な表現はないか思い切って形の整理を試みる。 ・全体感を損なわないように絶えず画面全体に気を配りながら制作する。
12	固定ポーズー9	作品制作 ・画面から少し離れた場所で作品を見直してみる。 ・全体感を損なわないように絶えず画面全体に気を配りながら制作する。
13	固定ポーズー10	作品制作 ・だいぶ制作も進んできたので、大きな形が壊れていないかなど確認する。 ・全体感を損なわないように絶えず画面全体に気を配りながら制作する。
14	固定ポーズー11	作品制作 ・いよいよ制作も佳境に入り、大きな形と細部がうまく結びついているか最終確認する。 ・全体感を損なわないように絶えず画面全体に気を配りながら制作する。
15	講評会及びまとめ	・仕上がった作品を並べて講評する。 ・参考作品なども使いながら解説していく。 ・制作者の意見も聞きながら多角的に進め、当初の目的に近づけるようにする。

科目名	卒業研究		対象 単位数 必修	短期大学部 家政科食物栄養専攻 2年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 2年 4単位 必修/短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修/短期大学部 文化学科 2年 4単位 必修/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
担当教員	浅野 章, 斉藤 弘久, 小松 太志, 松田 理香, 黒沼 令			
開講期	通年			
授業概要	<p>絵画というものには精神性なくして成立しないことは当然ですが、同時にその精神は素材を通して表現されます。故に技術と精神は切り離しては考えられません。どうすれば自分の表現したい物に近づけるか。作者はいつも技法の研究と発見に努力をしなければならぬということです。この授業では油彩画Ⅰで学習したことを基礎とし、更に一歩踏み込んで学生各自の個性に合わせ、二年間の集大成としての、より高度な技法の研究と表現を目指します。</p> <p><input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></p>			
達成目標	油彩画の特質を充分に感じ、理解できるよう努力しましょう。そのうえで、個性ある自分だけの絵画空間を創りあげ、二年間の集大成としての、より高度な技法の研究と表現を目指します。			
受講資格	生活芸術科 2年	成績評価 方法	この授業の理解度が7～8割に達したことを前提として①授業への参加態度・積極性60%②提出作品の各自目標達成度40%をその配分率を基にして総合的に判断します。 <input type="checkbox"/>	
教科書	教科書は特に使用しません。			
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・新技法シリーズ絵画入門 … 佐藤一郎著 (美術出版社) <input type="checkbox"/> ・彩色技法 … J・M バラモン (グラフィック社) <input type="checkbox"/> ・その他、授業に関する画集・資料などは適宜指示します。 <input type="checkbox"/> 			
学生への要望	油彩画の大作を描くことの意味をよく考え、主体的、積極的な姿勢で授業に望む。また、空き時間を有効に活用し十分に時間をかけて、制作を進めること。 <input type="checkbox"/>			
オフィスタイム	授業に関する質問及び相談は、毎週火曜日から金曜日の授業のない時間、又は放課後に、N0.2生芸研究室又は絵画Ⅱ室で受けます。			
自学自習	<p>【事前学習】 授業に関連する画集などを事前に閲覧、研究しておく。また絵具や画材についても調べておく。(2時間)</p> <p>【事後学習】 美技授業実施内容を踏まえ、機会があれば美術館や画廊などに足を運び、実物の油彩画作品を鑑賞してみる。(2時間)</p>			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	卒業研究履修についてのオリエンテーション <input type="checkbox"/>	<ul style="list-style-type: none"> ・各自、卒業研究の目標を確認します。 ・1年間の授業内容や使用道具の説明。 ・道具点検—各自で油絵具や筆などを点検して不足分の補充をして下さい。(作品の大型化に伴い、大型ペインティングナイフの準備等) <input type="checkbox"/> ・静物画及び自由画どちらかを選び、それぞれモチーフ作りやエスキースを始めます。
2	静物画、自由画制作—1 <input type="checkbox"/>	<ul style="list-style-type: none"> … 作品制作 ・各自で、制作日程を検討し、作品完成までの計画を立てましょう。 ・静物画に関しては身近な“物”の美しさを発見し、自分の内的感情を追及し作品にして行きましょう。 ・自由画に関しては自分のテーマ、進め方について考えましょう。 ・木枠を組み立て各自でキャンバスを張ります。(大型化のため、共同作業。)
3	静物画、自由画制作—2 <input type="checkbox"/>	<ul style="list-style-type: none"> … 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 <input type="checkbox"/> ・スケッチブックに鉛筆、木炭などでエスキースをします。 ・全体感を損なわないように気をつけながら構図を徐々に決めて行きましょう。
4	静物画、自由画制作—3	<ul style="list-style-type: none"> … 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・油絵具、オイルなどの技法や使用方法を色々、工夫してみましょう。 <input type="checkbox"/> ・参考作品や画集などを適宜見ながら、徐々に進めて行きましょう。 <input type="checkbox"/>
5	静物画、自由画制作—4	<ul style="list-style-type: none"> … 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましょう。 ・静物画では人物とは異なる“物”の持つ素朴な形の組み合わせを感じながら表現して行きましょう。 <input type="checkbox"/>
6	静物画、自由画制作—5	<ul style="list-style-type: none"> … 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましょう。 ・光の方向や取り入れ方を工夫して画面に変化を与えてみましょう。
7	静物画、自由画制作—6	<ul style="list-style-type: none"> … 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましょう。 <input type="checkbox"/> ・静物画では床、モチーフ台、モチーフ、背面の関係をもう一度確認してみましょう。 <input type="checkbox"/>
8	静物画、自由画制作—7	<ul style="list-style-type: none"> … 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましょう。 <input type="checkbox"/> ・色彩の取り入れ方を工夫する。例としては、反対色は強烈な印象、同系色は <input type="checkbox"/> 統一した印象になる等。
9	静物画、自由画制作—8	<ul style="list-style-type: none"> … 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましょう。 ・画面の中で必要な箇所は強調、不必要な箇所は省略をしながらいい形を探って <input type="checkbox"/> 行きましょう。 <input type="checkbox"/>

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
10	静物画、自由画制作－ 9	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましょう。 ・密度のある描き込みによって物と空間との関係をしっかりと把握して行きます。□
11	静物画、自由画制作－ 1 0	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましょう。 ・制作もかなり進んできたが描きこむ事によって表現が硬くならないように注意しましょう。□
12	静物画、自由画制作－ 1 1	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましょう。 ・描きだしの新鮮さを想いだし、色が沈んでいる場合は彩度を上げてみるなど、工夫をしましょう。□
13	静物画、自由画制作－ 1 2	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましょう。 ・かなり完成に近づいてきましたが最後まで手を抜かず細心の注意をはらいましょう。□
14	静物画、自由画制作－ 1 3	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましょう。 ・最後の微調整では画面全体の形とバランスを整えて完成とします。□
15	静物画、自由画講習会	…講習会 ・仕上がった作品を並べ、画集や参考作品なども用いながら講習します。□ ・質問や意見交換も多角的に行い油彩画静物制作の目標達成を目指します。
16	オリエンテーション	※これよりⅣ期 ・残り半期の授業内容や使用道具の説明をします。 ・道具点検—各自で、油絵具や筆などを点検して不足分の補充をしましょう。 ・卒業制作をイメージしながら80号以上のキャンバス1点と小キャンバスを5～6枚準備して下さい。
17	構成画制作－ 1	…作品制作 ・構成画制作では今までの油彩画やデッサンで学んだことを踏まえ、構想を練りましょう。 ・各自、効率的な制作日程を検討し、計画を立てましょう。 ・スケッチブックに鉛筆、木炭などでエスキースをします。
18	構成画制作－ 2	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・構成の全体感を損なわないように気をつけながら構図を徐々に決めて行きます。 ・画面の中で必要な箇所は強調、不必要な箇所は省略しながら、いい形を探って行きましょう。
19	構成画制作－ 3	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・作品制作・油絵具、オイルなどの技法や使用方法を色々、工夫してみましょう。 ・参考作品や画集等を適宜見ながら、徐々に進めていき、まともに入ります。
20	構成画作品講習会	…作品講習 ・仕上がった構成画作品を並べ参考作品や画集等も用いながら講習します。 ・質問や意見交換も多角的に行ない油彩画構成制作の目標達成を目指します。
21	市民展搬入準備	…搬入準備 ・各自、出品票や額の準備をします。 ・額にニスやアクリル絵具で色を塗る学生はその準備をします。
22	市民展見学	…市展見学 ・展覧会場で自分の作品がどのように見えるかを確認しましょう。 ・他の作品と比較検討して卒業制作展会場での作品展示のイメージを作っておきましょう。
23	卒業制作－ 1	…ガイダンス ・油彩画の平面作品に限定せず他の素材を使った立体作品またはインスタレーションなど表現方法は自由とします。 ・作品制作・スケッチブックに鉛筆、木炭などでエスキースをします。 ・各自、制作日程を検討し、計画を立てましょう。
24	卒業制作－ 2	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めます。 ・画面の中で必要な箇所は強調、不必要な箇所は省略しながら、いい形を探って行きましょう。
25	卒業制作－ 3	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましょう。 ・密度のある描き込みによって物と空間との関係をしっかりと把握して行きましょう。
26	卒業制作－ 4	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましょう。 ・制作もかなり進んできたが書き込む事によって表現が硬くならないように注意をしましょう。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
27	卒業制作－5	<ul style="list-style-type: none"> …作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましょう。 ・描き込むことによって表現が硬くならないように注意しながら完成へと向かいます。
28	卒業制作－6	<ul style="list-style-type: none"> …作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましょう。 ・かなり完成に近づいてきたが最後まで手を抜かず細心の注意をはらいましょう。
29	卒業制作作品搬入準備	<ul style="list-style-type: none"> …作品の完成、搬入準備 ・卒業制作作品の額にニスやアクリル絵具で色を塗る学生はその準備をします。 ・会場のプレゼンテーションを検討します。
30	卒業制作作品講評会	<ul style="list-style-type: none"> …講評会 ・作品は卒業制作展において展示し、2年間の学習の成果として発表します。 ・各自の仕上がった作品の前で質問や意見交換も多角的に行ないながら講評します。 ・一年間の総評をします。

科目名	卒業研究		対象 単位数 必修	短期大学部 家政科食物栄養専攻 2年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 2年 4単位 必修/短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修/短期大学部 文化学科 2年 4単位 必修/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
担当教員	斉藤 弘久			
開講期	通年			
授業概要	現代社会におけるグラフィックデザインの役割は重要なものとなってきている。対人間のより良いコミュニケーションはもとより、地球環境全体にまで及ぶ深い洞察と積極的関与が求められている。このような時代の中において、グラフィックデザインが人間生活にどのように寄与できるかを考える。			
達成目標	人間が生活にどのように寄与できるかを考えると共に、学生としての新しい視点を見つけ出すことを目的としている。作品の完成度が高いことも大切であるが、主体的な研究・作品制作の過程がより重要である。			
受講資格	短大生活芸術科 2年生	成績評価 方法	次の項目を評価の観点とする。 ①提出作品の課題目標達成度が70%以上であること。(配点80点) ②授業に対する関心・意欲・態度(配点20点)	
教科書	なし。			
参考書	各自の研究制作に参考となる書籍や図録などを推薦する。			
学生への要望	専門的な立場から、主体的に研究・制作されたい。 参考資料や使用する道具・素材を事前に準備しておくことが大切である。			
オフィスタイム	授業に関する質問や相談は毎週金曜日を除く毎日空きコマにNo2. デザイン室で受けます。			
自学自習	身の回りで起きている出来事などを興味を持って感じ取るよう心がける。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	卒業研究の目的と進め方について説明する。 現代デザインの動向を知り、その役割と問題点を理解する。
2	討論会	現代デザインの役割と問題点について、特に人間のコミュニケーションのあり方と地球環境の側面から討論する。
3	研究方法	作品テーマ(表現のための主題)を決定するための研究方法について学ぶ。
4	研究資料について	参考文献と参考作品の収集の方法を知る。直接取材についても考える。
5	研究テーマⅠ	デザインの分野や技法から考えるのではなく、純粋に表現したい事柄を文章化してみる。提出する。人間生活の中で、どのようなことがデザインの方で、より良くなるのかを考える。
6	研究テーマⅡ	文章化した「表現のためのテーマ」を読み返し、過不足があれば書き加える。次にキーワードを抜き書きし、考えていること全体の輪郭を見る。
7	資料の収集Ⅰ	自分が考えているテーマが現代のデザイン界で、どのように表現されているのか。その類型を収集する。
8	資料の収集Ⅱ	文章化したテーマを作品化(視覚化)するために必要な資料を考え収集する。 授業時間内だけの収集には限界があるので、普段から心がけて資料のスクラップを行う必要がある。
9	ムードボード制作Ⅰ	収集した資料(画像・テキストなど)をB2のパネルに貼り、考えている事柄全体の雰囲気を感じ取る。写真・新聞の切り抜き・メモ・スケッチなど幅広く集め、一覧できるものにする。
10	ムードボード制作Ⅱ	貼り付ける画像やスケッチの大小・傾き・色調のバランスも考えながら制作する。
11	表現テーマの決定	ムードボードやその他の資料をもとに、表現テーマを決定する。 小さいスケッチ(サムネイル)を描いてみる。
12	表現技法の決定	テーマを表現するために、最も適している技法を考える。大きくCGと手描き技法に分けて考えるが、併用もありうるので柔軟に考える。手描きの場合は描画材料のほかに、基底材についても考える必要がある。
13	ブレ制作Ⅰ	材料実験を兼ねて、縮小サイズでミニチュアを制作し、これを完成予想図とする。
14	ブレ制作Ⅱ	この時に、今後制作中に起こる問題点を予測する。材料的な問題・技法的な問題点・さらに必要な資料・展示の際の問題点などを予測する。また、どこに多くの時間を要するかも考えておく。
15	制作計画・材料の手配	本制作の計画書を作成する。時間の配分をよく考えて作成する。修正作業に2週間は確保すること。 展示作業も含め、必要な材料・用具を手配する。
16	本制作①(基底材)	基底材に対応した下地処理を行う。紙の場合は水張りなど。パソコンによる制作の場合でも、最終的に印刷物で展示する場合はパネルを準備する。
17	本制作②(下絵)	トレーシングペーパーなどを使用して、下絵を描く。大きい画面の作品は離れて見てバランスを確認することが必要である。パソコンの場合は、スケッチをスキャンして下絵とする。
18	本制作③(下絵)	細部については転写後でも描くことができるので、全体のバランスを優先的に描いていく。
19	本制作④(下絵)	細部については転写後でも描くことができるので、全体のバランスを優先的に描いていく。
20	本制作⑤(下絵の転写)	トレーシングペーパーに鉛筆の粉を塗りつけて、カーボン紙の代わりにするものを作っておく。 これを基底材と下描きの間にはさみ転写していく。この際、ずれが生じないように下絵の周囲をテープで固定しておく。
21	本制作⑥(下絵の転写)	トレーシングペーパーに鉛筆の粉を塗りつけて、カーボン紙の代わりにするものを作っておく。 これを基底材と下描きの間にはさみ転写していく。この際、ずれが生じないように下絵の周囲をテープで固定しておく。
22	本制作⑦(描画・彩色)	平面的な作品の場合は、大きい面から彩色し、画面の大勢を占める色調を把握する。 描画的な作品の場合は画面上で中心になっている部分から描画していく。色彩計画はミニチュア制作の段階で大まかに決めておくが、原寸大になると再考する部分が出てくるので、基調色に基づいて決定していく。
23	本制作⑧(描画・彩色)	大まかに全体的に制作を進めていく。最初から細部に走らない。
24	本制作⑨(描画・彩色)	迷わずに制作し、一定の結果が出たら作品の検証を行う。授業時間内だけでは時間的に不足するので、学生は空き時間をすべて利用して制作に専念すること。
25	本制作⑩(描画・彩色)	制作に専念する。パソコンで制作している学生は、この時点で出力しておく。(CG室大判プリンタ)
26	途中経過発表会	制作中の作品を全員で鑑賞し、感想を述べ合う。特にテーマとの合致性、今後の問題点について確認し、今後の制作の指針とする。
27	修正・仕上げ①	経過発表会で確認した点について、修正・強調などを行い、完成度を上げていく。
28	修正・仕上げ②	同上。
29	修正・仕上げ③	遠くから離れて作品を鑑賞し、微調整を加えていく。展示具をパネルに取り付けておく。
30	作品講評・まとめ	作品が生み出されるまでの全工程を振り返って、鑑賞する。自分で決定したテーマが表現できているか、それが、どのくらいできているのかを検証する。お互いに意見を述べ合う。教員は講評する。

平成29年度

科目名	卒業研究		対象 単位数 必修	短期大学部 家政科食物栄養専攻 2年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 2年 4単位 必修/短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修/短期大学部 文化学科 2年 4単位 必修/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
担当教員	黒沼 令			
開講期	通年			
授業概要	彫刻は手を通して触覚感覚を働かせながら、素材（粘土、木、石、鉄など）を直に成形していく造形芸術である。また、立体物を立体物として造形していくため、ものと人間の原初の関係に根ざしているとともに、造形の手応えを強く体験できる活動である。彫刻作品をつくっていく中で、ものをつくる喜びや充実感を味わうとともに、彫刻の基礎的な知識や表現の理解を深めることを目標とする。			
達成目標	卒業制作展に向けて作品を制作し、発表を行う。 作品制作の中で、彫刻の基礎的な技能の習得と自己表現、自己探求を深める事を目標とする。			
受講資格	生活芸術科2年	成績評価 方法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題作品 70% ・出席状況、授業態度 30% 以上の配分で評価する。 60点以上で合格とするが、授業理解度は7割以上を求める。	
教科書	教科書は無し。			
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の彫刻関係図書 ・美術館（福島県立、郡山市立、他） ・街の中の彫刻（仙台市、福島市、他） ・公募展覧会 			
学生への要望	野外彫刻作品を鑑賞したり、機会があれば彫刻の展覧会を見ることなどを心がけてほしい。			
オフィスタイム	月曜日 Vコマ 水曜日 IV、Vコマ 木曜日 IV、Vコマ 彫刻室、No.2生芸研究室			
自学自習	事前学習、事後学習：授業の内容についてより理解を深めるため授業外にも課題制作を進める事（2時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究の進め方、設備、道具についてなど説明する。 ・各自、目標や技法について考える。
2	構想	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業制作作品を構想する。 ・資料、作品などを参考にしながら、自分が目指す表現について確認する。 ・デッサンする。
3	構想	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回の内容をより深める。
4	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
5	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
6	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
7	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
8	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
9	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
10	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
11	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
12	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
13	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
14	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
15	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
16	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
17	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
18	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
19	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
20	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
21	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
22	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
23	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
24	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
25	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
26	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
27	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
28	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
29	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
30	合評会	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間の成果を確認する。

科目名	卒業研究		対象 単位数 必修	短期大学部 家政科食物栄養専攻 2年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 2年 4単位 必修/短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修/短期大学部 文化学科 2年 4単位 必修/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
担当教員	小松 太志			
開講期	通年			
授業概要	<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>①卒業研究CG分野の特性を理解して、独自の表現手法の構築する。 ②コンピュータによる造形制作に習熟する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>①卒業研究（CG）は、静止画・動画・Webなどの広範な表現領域を含む。制作過程や入力・出力媒体、またはコンセプトの核としてコンピュータの特性を理解し、活用されているかどうかをCG領域の特性とする。</p>			
達成目標	<p>①卒業制作展に向けた制作活動を通じて、独自の表現を探究する。 ②コンピュータ・グラフィックスによる造形表現技術の向上を目指す。</p>			
受講資格	・生活芸術科2年 対象 ・CGアート1・2を履修済みであることが望ましい。	成績評価 方法	授業の総合的理解度が7割程度に達していることを基本として、以下の基準で成績評価する。 ①卒業研究の制作過程（40%） ②卒業研究作品（50%） ③授業への姿勢・意欲（10%）	
教科書	適宜、配布または提示する。			
参考書	適宜、提示する。			
学生への要望	積極的な制作態度を持って、技術と表現の両面から自分を高める努力を希望する。			
オフィスタイム	水曜日 10:30~12:00、14:30~16:00 No.2生芸科研究室			
自学自習	事前学習：研究・制作の進捗状況を報告できるように準備すること（1時間以上） 事後学習：当日の授業内容に基づいて、研究・制作を進めること（1時間以上）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	●卒業研究（CG）の授業目標・授業計画について説明 - 過去の卒業研究作品とその制作過程を紹介
2	一次制作（もみじ会出品作品の制作）	●コンピュータのメディア特性を活用した芸術・デザイン作品を資料提示（以後、適宜資料を提示） →コンピュータによる造形表現の可能性について理解を深めます。 ●造形全般について作品資料を収集（以後、適宜資料を収集） →造形的な方向性について検討を試みます。
3	一次制作	●コンピュータのメディア特性を活用した芸術・デザイン作品を資料提示（以後、適宜資料を提示） →コンピュータによる造形表現の可能性について理解を深めます。 ●造形全般について作品資料を収集（以後、適宜資料を収集） →造形的な方向性について検討を試みます。
4	一次制作	●表現の方向性（造形、メディア、展示形態）について検討 →造形：形態や色彩、材質感などの視覚的イメージについて検討 →メディア：表現（静止画、動画、Web）に応じた入力装置、出力装置、制作機器について検討 →展示形態：展示方法について検討
5	一次制作	●表現の方向性（造形、メディア、展示形態）について検討 →造形：形態や色彩、材質感などの視覚的イメージについて検討 →メディア：表現（静止画、動画、Web）に応じた入力装置、出力装置、制作機器について検討 →展示形態：展示方法について検討
6	一次制作	●表現の方向性（造形、メディア、展示形態）について検討 →適宜、アイデアスケッチを作成します。
7	一次制作	●表現の方向性（造形、メディア、展示形態）について検討 →適宜、アイデアスケッチを作成します。
8	一次制作	●プレゼンテーション →表現の方向性についてプレゼンテーションを実施します。 一次制作作品完成までのスケジュール、想定し得る技術的課題についても明らかにします。
9	一次制作	●プレゼンテーション →表現の方向性についてプレゼンテーションを実施します。 一次制作作品完成までのスケジュール、想定し得る技術的課題についても明らかにします。
10	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →アイデアスケッチをもとに、写真・イラストレーション等の作品要素を収集・制作します。
11	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →アイデアスケッチをもとに、写真・イラストレーション等の作品要素を収集・制作します。
12	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →アイデアスケッチをもとに、写真・イラストレーション等の作品要素を収集・制作します。
13	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →アイデアスケッチをもとに、写真・イラストレーション等の作品要素を収集・制作します。
14	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →収集・制作した要素を表現方法に応じて、入力（データ化あるいはソフトウェアへの取り込み）します。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
15	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →収集・制作した要素を表現方法に応じて、入力（データ化あるいはソフトウェアへの取り込み）します。
16	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。（静止画→編集・加工／動画→映像編集／Web→コーディング）
17	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。（静止画→編集・加工／動画→映像編集／Web→コーディング）
18	一次制作	●プレゼンテーション →一次制作の中間報告を軸にプレゼンテーションを実施します。
19	一次制作	●プレゼンテーション →一次制作の中間報告を軸にプレゼンテーションを実施します。
20	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。随時、編集結果を確認しながら造形性を高めます。
21	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。随時、編集結果を確認しながら造形性を高めます。
22	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。随時、編集結果を確認しながら造形性を高めます。
23	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。随時、編集結果を確認しながら造形性を高めます。
24	一次制作	●制作 →編集・加工した内容をメディアに応じて出力します。（静止画→印刷／動画→レンダリング／Web→ブラウザへの出力）
25	一次制作	●制作 →編集・加工した内容をメディアに応じて出力します。（静止画→印刷／動画→レンダリング／Web→ブラウザへの出力）
26	一次制作	●制作 →編集・加工した内容をメディアに応じて出力します。（静止画→印刷／動画→レンダリング／Web→ブラウザへの出力）
27	一次制作	●制作 →編集・加工した内容をメディアに応じて出力します。（静止画→印刷／動画→レンダリング／Web→ブラウザへの出力）
28	一次制作	●制作 →出力結果を検討して、必要に応じて修正を行ないます。
29	一次制作	●制作 →出力結果を検討して、必要に応じて修正を行ないます。
30	一次制作	●プレゼンテーション →一次制作作品についてプレゼンテーションを実施します。 作品講評を実施します。
31	二次制作（卒業制作展出品 作品の制作）	●表現の方向性（造形、メディア、展示形態）について検討 →二次制作に向けて、一次制作における技術あるいは表現上の問題点について検討します。
32	二次制作	●表現の方向性（造形、メディア、展示形態）について検討 →二次制作に向けて、一次制作における技術あるいは表現上の問題点について検討します。
33	二次制作	●現の方向性（造形、メディア、展示形態）について検討 →適宜、アイデアスケッチを作成します。
34	二次制作	●現の方向性（造形、メディア、展示形態）について検討 →適宜、アイデアスケッチを作成します。
35	二次制作	●プレゼンテーション →二次制作の中間報告を軸にプレゼンテーションを実施します。 二次制作作品完成までのスケジュール、想定し得る技術的課題についても明らかにします。
36	二次制作	●プレゼンテーション →二次制作の中間報告を軸にプレゼンテーションを実施します。 二次制作作品完成までのスケジュール、想定し得る技術的課題についても明らかにします。
37	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →アイデアスケッチをもとに、写真・イラストレーション等の作品要素を収集・制作します。
38	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →アイデアスケッチをもとに、写真・イラストレーション等の作品要素を収集・制作します。
39	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →アイデアスケッチをもとに、写真・イラストレーション等の作品要素を収集・制作します。
40	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →アイデアスケッチをもとに、写真・イラストレーション等の作品要素を収集・制作します。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
41	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →収集・制作した要素を表現方法に応じて、入力（データ化あるいはソフトウェアへの取り込み）します。
42	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →収集・制作した要素を表現方法に応じて、入力（データ化あるいはソフトウェアへの取り込み）します。
43	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。（静止画→編集・加工／動画→映像編集／Web→コーディング）
44	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。（静止画→編集・加工／動画→映像編集／Web→コーディング）
45	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。随時、編集結果を確認しながら造形性を高めます。
46	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。随時、編集結果を確認しながら造形性を高めます。
47	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。随時、編集結果を確認しながら造形性を高めます。
48	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。随時、編集結果を確認しながら造形性を高めます。
49	二次制作	●プレゼンテーション →二次制作の中間報告を軸にプレゼンテーションを実施します。
50	二次制作	●プレゼンテーション →二次制作の中間報告を軸にプレゼンテーションを実施します。
51	二次制作	●制作 →編集・加工した内容をメディアに応じて出力します。（静止画→印刷／動画→レンダリング／Web→ブラウザへの出力）
52	二次制作	●制作 →編集・加工した内容をメディアに応じて出力します。（静止画→印刷／動画→レンダリング／Web→ブラウザへの出力）
53	二次制作	●制作 →出力結果を検討して、必要に応じて修正を行いません。
54	二次制作	●制作 →出力結果を検討して、必要に応じて修正を行いません。
55	二次制作	●制作 →出力結果を検討して、必要に応じて修正を行いません。
56	二次制作	●制作 →出力結果を検討して、必要に応じて修正を行いません。
57	二次制作	●制作 →卒業制作展に向けて展示計画を確認します。
58	二次制作	●制作 →卒業制作展に向けて展示計画を確認します。
59	二次制作	●制作 →卒業制作展に向けて展示計画を確認します。
60	二次制作	●プレゼンテーション →二次制作作品についてプレゼンテーションを実施します。 作品講評を実施します。